

理工インターンシップ(学外実習)I・II/
グローバル人材育成プログラム
総括集

Faculty of Advanced
Science and Technology
先端理工学部

2025

Ryukoku University

Internship Reports

目 次

巻頭言

| | |
|-----------------------------------------------------------------------|---|
| 2025 年度「理工インターンシップ（学外実習）」を終えて | 4 |
| (令和7年度 先端理工学部理工インターンシップ運営委員会 委員長) 龍谷大学先端理工学部 機械工学・ロボティクス課程教授 譽 田 登 | |

I. 理工インターンシップ（学外実習） I・II について

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 理工インターンシップ（学外実習） I・II とは | 8 |
| 2. 理工インターンシップ（学外実習） I・II の流れ | 12 |
| 3. オリエンテーション・事前・事後研修について | 13 |

II. グローバル人材育成プログラムについて

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. グローバル人材育成プログラムとは | 18 |
| 2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要 | 20 |

III. 2025(令和7)年度 理工インターンシップ（学外実習） I・II / グローバル人材育成プログラムデータ

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. 2025 年度受入機関数 | 22 |
| 2. インターンシップ参加学生 課程別人数 | 22 |

IV. 理工インターンシップ（学外実習） I・II を終えて（学生より）

| | |
|--------------------------------|----|
| 「理工インターンシップを終えて」 | 24 |
| 数理・情報科学課程 3年 近 藤 成 | |
| 「ジェイズ・コミュニケーション株式会社での学び」 | 27 |
| 知能情報メディア課程 3年 柴 田 朋 香 | |
| 「学外インターンシップ実習報告」 | 30 |
| 電子情報通信課程 3年 芝 崎 想 平 | |
| 「理工インターンシップを終えて」 | 34 |
| 機械工学・ロボティクス課程 3年 野 中 美沙希 | |

| | |
|----------------|----|
| 「現場に魅せられて」 | 38 |
| 応用化学課程 3年 廣瀬幸喜 | |

| | |
|----------------------------------|----|
| 「株式会社西日本技術コンサルタントにおけるインターンシップ総括」 | 43 |
| 環境生態工学課程 3年 木村陸 駆 菴原朋 弥 | |

V. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ を終えて（受入先機関より）

| | |
|----------------------------|----|
| 「学外実習を終えて」 | 48 |
| 株式会社中戸研究所 第2研究室 代表取締役 井狩雅文 | |

VI. グローバル人材育成プログラムを終えて（学生より）

| | |
|-----------------------|----|
| 「グローバル人材育成プログラムに参加して」 | 54 |
| 電子情報通信課程 3年 荒生敏岳 | |

| | |
|----------------------|----|
| 「グローバル人材育成プログラムを終えて」 | 59 |
| 知能情報メディア課程 3年 麻田滉太 | |

VII. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ ポートフォリオ、アンケート集計結果

| | |
|---------------------|----|
| 1. ポートフォリオ〈実習前〉集計結果 | 64 |
| 2. ポートフォリオ〈実習後〉集計結果 | 73 |
| 3. 報告会・交流会アンケート集計結果 | 98 |

VIII. 受入機関アンケート集計結果

| | |
|------------------------------------|-----|
| 1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート集計結果 | 110 |
| 2. 「報告会・交流会」に関するアンケート集計結果 | 118 |

IX. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ／ グローバル人材育成プログラム過年度データ

| | |
|--------------------|-----|
| 1. 過年度の受入機関数と派遣学生数 | 124 |
| 2. 過年度報告会での報告者 | 128 |

巻頭言

2025 年度
「理工インターンシップ（学外実習）」を終えて

2025年度 「理工インターンシップ（学外実習）」 を終えて

譽 田 登
Noboru KONDA

先端理工学部機械工学・ロボティクス課程 教授
(令和7年度 先端理工学部理工インターンシップ運営委員会 委員長)



理工インターンシップ（学外実習）ならびにグローバル人材育成プログラム（以降、両者を併せてインターンシップ等という）を今年度担当した教職員を代表して、僭越ながら私から一言ご挨拶を申し上げます。

ご承知の通り、近年、インターンシップ等の活動が活発となり、その重要性は学生にとっても企業にとってもますます高まっています。インターンシップ等は学生にとっては、実際の職場での就業経験を通じて、大学で学んでいる知識や技術がどのように活かされているかを知る機会に、あるいは、近い将来必要となる社会人としての言動を身に付ける貴重な機会になっております。一方、学生を受け入れていただいている企業にとっては、今の学生の考え方や本音などを直接知っていただける絶好の機会となっていることが期待されます。このインターンシップ等は、教育機関において大変重要な位置付けにあり、さらなる拡大を図る必要もありますが、大学内だけでは如何ともしがたく、企業のご協力ご支援がなければそもそも成り立たない科目です。本学先端理工学部では、就業体験を主とする理工インターンシップとしては以下の2科目を設定しています。

理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ：1単位
実働30時間以上60時間未満
理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ：2単位
実働60時間以上

上記のⅠ、Ⅱのいずれの科目においても、学生にとっては、将来のキャリアを検討する上で、このインターンシップの経験が一つの基準軸となり、深く考えることができる良い契機となっています。インターンシップ等に参加する前と参加した後での学生の成長には本当に目を見張るものがあります。学生にもガイダンスの時点から説明しておりますが、実際に、学外実習は一生記憶に残る貴重な体験になっています。

最後になりましたが、今年度のインターンシップでも、多くの企業・団体・研究所にご協力ご支援を賜り、誠にありがとうございました。学生を快く受け入れてくださり、また、実習期間中は丁寧に根気強くご指導いただき、心より感謝申し上げます。企業の皆様のご協力ご支援があってこそ、学生たちはこのような実りある経験を積むことができ成長することができました。厚く御礼申し上げます。私自身、民間企業に永らく在籍しておりましたが、若かりし頃はよく学外実習の担当

を仰せつかりました。日常業務に加え、学生の安全に注意しながら直接指導するのは極めて大きな負担でありました。今年度、ご担当くださった方々には改めて厚くお礼申し上げます次第です。

学生のみなさんは、このインターンシップ等で

得た貴重な経験を活かし、今後の学内の学習や研究にぜひ繋げてください。さらに、この実習体験を社会に出た後も各分野で活躍する際に活用してください。

I. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIについて

1. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIとは
2. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIの流れ
3. オリエンテーション・事前・事後研修について

1. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱとは

平成元年度に開設された龍谷大学理工学部は、人間性豊かな技術者・研究者・社会人を育成することを目標とし、教育面、カリキュラム編成面で種々の先進的取り組みを行っています。この目標を達成するカリキュラムの一環として、開設以来理工学部では「学外実習（キャリア実践実習）」、令和2年に先端理工学部へ改組後は「理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱ」を3年次に実施しています。

実習目的

先端理工学部各課程の講義・演習・実験・実習等を通して培っている知識を背景として、学外の公的機関や企業の研究所・事業所・工場などの現場における実務を体験し、研究・開発・生産・行政などの現場の雰囲気を感じ、将来の学修に役立てることを目的とします。具体的には下記のような目的を提示しています。

◆社会勉強

技術や知識の習得だけに執着せず、受入機関の組織を観察し、その中で働くということは何かなど、広く社会を見つめ直し、組織と人間の関係について考える。

〈Point〉

- 受入機関の理念・目的は何か
- 配属された組織（部・課）の主な業務は何か
- 受入機関がどのような構成（管理職・専任・パート・アルバイトなど）で成り立っているか
- 組織における社員とはどのようなものか
- 正社員とパート・アルバイトの違いは何か

◆コミュニケーション能力の向上を目指す

日頃の友達との関係（横社会）ではなく、実社会の中で指導して下さる上司や先輩との関係（縦社会）をよりよく保つための挨拶や言葉遣い、礼儀作法などを学ぶ。

〈Point〉

- 社会で通用する言葉遣いとはどのようなものか
- 大きな声・しっかりとした挨拶の重要性
- 報告・連絡・相談の重要性
- メモをとることの重要性
- 積極的に聞く・行動することの重要性

◆倫理観を身につける

自分の言動が、受入機関、社会一般や環境にどのように影響を及ぼすのかを考え、社会人としてあるべき姿を認識し、社会で生きる上での常識を身につける。

〈Point〉

- 社会人としての身だしなみ（服装・頭髪など）とはどのようなものか
- 自分の言動は、会社（受入機関）の言動・行動であるということ
- 友達関係で通用することが、社会の中では通用しないことがあるということ
- 携帯電話の取り扱い、喫煙のルールなど、社会人としてのマナーとはどのようなものか
- 環境問題や地域社会とどのように向きあっているのか

◆知識や技術が実社会でどのように利用されているか体得する

日頃、大学で学んでいる知識や技術が実社会において、どのような場でどのように活用・応用されているかを考える。

〈Point〉

- 自分が講義等で得た知識や技術が活用されているか
- 活用されているとしたら、どのような場でどのように活用されているか
- 将来、どのような場で活用される可能性があるか
- 活用されていないとしたら、それはなぜなのか

◆基礎知識の必要性を認識し学習意欲を高める

最先端技術等に触れることによって、社会で働く上で自分に不足しているものは何かを見つけ、その知識や技術を身に付ける努力をする。

〈Point〉

- 実習生（一社会人）として業務に携わるなかで、どのような知識・技術が必要か
- 今、自分にはどのような知識が不足しているか
- 良き社会人としてどのような知識を身につけるべきか
- 知識や技術を身につけるために何をすべきか

◆職業観を醸成し、将来の進路を考えるきっかけとする

学外実習での経験を通じて、自分は何のために働いていくのか、これからどのような職業に就きたいのか、そのために何をしたらよいのかなど、将来、自分が進むべき道を考えてみる。

〈Point〉

- 自分はどのような職業に適しているのか
- 働くということはどのようなことなのか
- 働く上で必要とされるものは何か
- 将来に向けて、今後どのような大学生活を送りたいか

対象者

先端理工学部（理工学部）に所属する3年次生以上

数理・情報科学課程／知能情報メディア課程／電子情報通信課程

機械工学・ロボティクス課程／応用化学課程／環境生態工学課程

実習方法

理工インターンシップには下記の①～④の実習方法がある。

- ①学外実習
- ②自己応募型インターンシップ
- ③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム
- ④学内実習 ※電子情報通信課程のみ対象

実習内容

①学外実習とは

理工インターンシップに賛同する機関で、夏期休暇期間に60時間以上かつ5日以上の実習を行うインターンシップ。

実習先は、受入機関の希望課程や人数、学生の希望、通勤時間などを考慮し、各課程の担当教員が決定する。実習期間中は実習先の担当者の指示に従いプログラムに沿って実習を行う。実習終了後3日以内に報告書を提出し完了となる。

②自己応募型インターンシップとは

学生が自ら実習先を選定し、直接申込を行ったうえで、R-Gap 期間（第2クォーターから夏期休暇期間）を利用して参加するインターンシップ。

実習先の業種は問わないが、単位認定の条件として、就業体験を伴うことや報酬（日当）が発生しない等の条件がある。また実習開始の2週間前までには実習先の認定のために申請し、承認を得ることが必要。

※複数のインターンシップを合算することも可能。ただしその場合は、1社につき実働30時間以上（休憩を除く）かつ5日以上の実習が必要。

※自己応募型インターンシップは、下記の通り実働時間によって単位が異なる。

- ・実働30時間以上60時間未満かつ5日以上・・・1単位
- ・実働60時間以上かつ5日以上・・・・・・・・・・2単位

③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムとは

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催するインターンシップ。一般企業から官公庁、非営利団体など、幅広い分野の実習先がある。実習に参加するには、大学コンソーシアム京都への出願と選考合格が必要となる。合格後はプログラムのスケジュールに沿って活動を行う。

④学内実習（※電子情報通信課程のみ対象）とは

「電気回路の製作」「FPGA 設計（LSI の論理回路設計）」の2コースがあり、外部講師による実習を、

夏期休暇期間に 60 時間以上、大学内で行う。

実習期間

①学外実習

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※実習先により実施スケジュールは異なる

※2024年度は、8月7日（水）～9月6日（金）の期間内に実施

※大学夏期一斉休暇期間（8月11日（日）～8月18日（日））は対象外

②自己応募型インターンシップ

※2025年度は、6月5日（木）～9月18日（木）の間（R-Gap 期間）に実施

※申請書の最終受付〆切は9月4日（木）

③大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムのスケジュールに準ずる

④学内実習（電子情報通信課程のみ対象）

夏期休暇期間中（8月初旬～9月初旬）に実施

※2025年度は、8月25日（月）～9月5日（金）

単位および単位認定

〈理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ〉

この実習で認定される単位は1単位で、実働30時間以上60時間未満かつ5日以上の実習時間が必要となる。 ※「②自己応募型インターンシップ」のみが対象。

単位認定には、事前研修、オリエンテーションへの出席状況、実習への参加状況、実習報告書等の提出（実習終了後提出）、報告会・交流会への出欠状況等を総合して合否を決定する。

〈理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ〉

この実習で認定される単位は2単位で、実働60時間以上かつ5日以上の実習時間が必要である。

単位認定は、事前研修、オリエンテーションへの出席状況、実習への参加状況、実習報告書等の提出（実習終了後提出）、報告会・交流会への参加等を総合して合否を決定する。

2. 理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ・Ⅱの流れ

| 時期 | 受入機関 | 学生 |
|-------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 3月 | 実習受入依頼 | 履修説明会時に、「理工インターンシップ」の説明 |
| 4月初旬 | | 第1回オリエンテーションの実施 (詳細説明、申込方法、提出物や今後の日程など) |
| 4月中旬 | 受入可否回答メ切 | 参加申し込みメ切 大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラムの説明会 ※1 |
| 5月 | 受入内容の確認 | 課程別に企業とのマッチング開始 |
| 6月中旬 | | 実習先決定 ※実習期間により、決定時期が異なる場合あり |
| 6月後半 | 正式依頼 ※実習期間により、依頼時期が異なる場合あり | 第2回オリエンテーションの実施 (実習中の心構え、提出物の説明、実習用定期購入方法など) ビジネスマナー講習会 |
| 7月初旬 | | 「学外実習」実習先へ電話連絡 (ご挨拶・服装・持ち物、スケジュール等確認) |
| 6月～9月 | | 「自己応募型インターンシップ」実習可能期間 ※2 |
| 8月～9月 | | 理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ 活動期間 ※3 ※日程は実習先や実習方法により異なる |
| 9月 | 報告会・交流会 | |

【備考】 ※1 大学コンソーシアム京都産学教育連携プログラム応募期間については別途定められている。

※2 自己応募型インターンシップについては学生の選択企業により応募時期・日程が異なる。

※3 「学外実習」「大学コンソーシアム京都産学教育連携プログラム」「学内実習」を含む。

3. オリエンテーション・事前・事後研修について

①理工インターンシップ(学外実習) I・II オリエンテーションについて

理工インターンシップに取り組む前に、2回のオリエンテーションを実施し、連絡事項・諸注意等の確認を行う。

◆第1回オリエンテーション

1. 実習目的や意義についての説明・確認
2. 受講対象者について
3. 単位と単位認定方法について
4. 実習の種類と実習内容について
5. 実習期間について
6. 申込方法
7. 連絡事項
 - 1) 実習上の注意事項
 - 2) プログラムのスケジュール
 - 3) 実習期間前・期間中の事務連絡等の周知
8. その他

◆第2回オリエンテーション

●理工インターンシップ運営委員長からのあいさつ

●連絡・共有事項

1. 実習先への事前連絡・確認について
2. 実習開始前について
3. 実習中の注意事項について
4. 実習報告書の提出について
5. 報告会・交流会の開催日程について
6. 実習中の保険加入について
7. 自然災害発生時の対応について
8. 提出物について
9. 実習用通学定期券購入の申請方法について
10. 実習先企業情報の配布

②理工インターンシップ(学外実習) I・II 事前・事後研修について

理工インターンシップをより実りあるものにするために、受講生に対し以下の事前・事後研修を行う。

◆ビジネスマナー講座

[目 的]

身だしなみや言葉遣い、あらゆるビジネスシーンを想定して学修することにより、実習受入機関で自信を持って実習に臨めるよう、理解を深める。

[研修内容]

ビジネスマナーやコミュニケーションの取り方など、講義だけではなくロールプレイングを交えて実際に体験する。また「こんなときはどうするか？」など、学生同士でディスカッションしながら、あらゆるビジネスシーンで役立つマナーについて学修する。

◆理工インターンシップ「実習先」調査カードの作成〈課題〉

[目 的]

実習受入機関についての詳細を調べ、理解を深める。

また実習先担当者と連絡を取ることで、実習に関する情報を再確認すると共に、心構えを高める。

[実施時期]

実習先決定後、約2週間で提出。

[研修内容]

実習先について、設立年月日、従業員数、資本金、事業内容などの企業に関する情報や、実習地までの利用交通機関や通勤時間などを調べる。

またビジネスマナーで学修した、言葉づかいや電話のかけ方を活かし、実習担当者と事前打ち合わせを行う。

[実施方法]

キャリアセンター資料室、就職情報図書、Web などを利用し、各自で調べる。

電話のつながりやすい時間などを工夫し、実習担当者と連絡をとり、実習期間や出勤時間、服装などを再確認すると共に、初日の集合場所など、必要な情報を打合せする。

◆ポートフォリオの作成〈課題〉

[目 的]

- ①**実習 [前]**：実習にあたって、設問に答えながら自分を見つめ直し自己分析を行い、自分の強みや弱みを認識する。さらに実習に対する目標を設定する。
- ②**実習 [後]**：実習前に設定した目標について、どの程度達成できたか等を振り返り、今後の大学生活において理工インターンシップの体験をどのように活かしていくかを考える。

[研修内容]

- ①**実習 [前]**：26 項目の設問に回答し、自己分析を行うとともに、その結果を受けて、実習目標を設定する。
- ②**実習 [後]**：実習前に設定した目標について、達成度を分析し、今後の学修計画等を考える。

[実施方法]

- ①実習開始前に、指定された期日までに各設問に回答し提出する。
- ②実習終了後に、指定された期日までに各設問に回答し提出する。

◆実習報告書の作成〈課題〉

[目 的]

実務体験を通して、学んだこと、身についたこと等を実習の成果物として報告書にまとめ、今後の学習や進路等に役立てる。

[実施方法]

- ・実習報告書（表紙）を 1 枚目にする。
- ・Microsoft Word を使用し、用紙は A4 縦、文字は横書きで作成。枚数は 10 枚程度とする。
- ・報告書には、以下の①～③について記載する。
 - ①実習内容について
 - ②実習を通しての感想
 - ③卒業までの取組等
- ・記述内容や様式等について、実習先からの指示がある場合はその指示に従う。
- ・写真やグラフ、資料などを掲載する場合は、必ず事前に実習担当者に、掲載が可能か確認する。
- ・実習報告書は、実習先に提出後、出勤簿・実習所見とともに大学に返送されるため、実習先へ実習報告書の提出が無い場合は、単位が認定されないので注意が必要。
※単位認定は実習先ではなく大学が行う。

[提出方法]

実習終了後 3 日以内に実習先の担当者へ提出する。

Ⅱ. グローバル人材育成プログラム について

1. グローバル人材育成プログラムとは
2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要

1. グローバル人材育成プログラムとは

先端理工学部では「世界のものづくりを支えるグローバルな視点を備えた科学技術者の育成」を掲げ、英語コミュニケーション能力とグローバルな実践力を備えた人材育成に取り組んでいます。

「グローバル人材育成プログラム」は、先端理工学部3年次生以上を対象に、R-Gap期間を利用して、アメリカ・カリフォルニア州のシリコンバレー周辺にある世界最先端企業の視察やビジネスパーソンによる講演および交流、さらに現地で事業展開する日系企業の協力を得て、ホームステイをしながら2週間の企業研修を含むおよそ3週間のプログラムで構成されています。なお、海外研修の事前・事後学修として、オンライン英会話学習や報告書作成、学修成果のプレゼンテーション等を実施します。

このプログラムの目的

働くことの意義、企業活動と仕事の内容、産業を支える技術力について理解し、自らのキャリアプラン構築のきっかけとなることを目的としています。また、実際に現地企業での就業体験やホームステイを通じて、実習先の方々やホストファミリーとのコミュニケーションをはかりつつグローバルな視点を養い、企業や社会が求めるグローバル人材に必要な要素を身につけることを目指します。

〈Point〉

- ・海外企業と日本企業の違いはどのようなものか
- ・海外の文化と日本の文化は何が違うか、異文化を理解できているか
- ・海外で生活し働くためにはどの程度の語学力が必要なのか
- ・グローバル人材にはどのような要素が求められるか

◆プログラム概要（2025年度実績）

- ・渡航前（3月～8月）
 - 申請・志望理由・書類および面接による選考
 - オンライン英会話学習
 - ビジネスマナー講座受講
 - ガイダンス受講
- ・現地（8月中旬～9月初旬）
 - 企業・大学等の視察
 - 現地ビジネスパーソンによる講演・交流
 - 企業での実習（2週間） ※実習期間中はホームステイ
- ・帰国後（9月中旬）
 - レポート作成・提出
 - 渡航前に設定した目標およびその達成に向けた計画に基づく自身の振り返り
 - 報告会での参加者同士のディスカッションとプレゼンテーション

・費用：40万円程度

※航空運賃・現地滞在費などのプログラムにかかる費用概算

※為替や原油価格の影響で変動します

※「理工学会」の補助制度の適用が可能です

2. グローバル人材育成プログラムスケジュール概要(2025 年度実績)

| 時期 | 内容 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月下旬 ～4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・志望理由等、書類選考により受講者を決定 ・担当教員等のヒアリング <p>★現地のコーディネーターとも面接し参加学生の意向を聞き取ったうえで現地実習先の企業およびホームステイの先のマッチングをおこなう</p> |
| 5月中旬 | <ul style="list-style-type: none"> ・「オンライン英会話」の実施（～9月） <p>★実践的な英会話能力（コミュニケーション力）の向上を目指す ★自分のレベルを確認し実力&スキルアップをはかる</p> |
| 5月末～ | <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修〈複数回実施〉 <p>★担当教員から企業実習に向けた意識醸成と共に、各自で実習の目的の明確化とその達成を意識した具体的な行動計画を作成する ★旅行会社による渡航に向けた準備や保険手続等の説明など諸注意をガイダンス</p> |
| 6月中旬 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師によるビジネスマナー講座の受講 <p>★身だしなみや言葉遣い等を中心に外部講師によるビジネスマナー、コミュニケーションの取り方の講義に加え、ロールプレイングを交えて実際に体験したり学生同士でディスカッションしながら、あらゆるビジネスシーンで役立つマナーについて学修</p> |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・現地実習プログラム ○サンフランシスコ見学ツアー ○シリコンバレー IT 企業見学 ○インターンシップオリエンテーション ○スタンフォード大学見学 ○グローバルキャリアセミナー（起業家、ビジネスマンによる講演） ○ホストファミリーや現地学生との交流会 ○グローバルキャリア実習プログラム（現地日系企業にて2週間の実務研修） ○ホストファミリーとの交流やアクティビティなど <p>★時間があれば公共交通機関が充実しているサンフランシスコ市街の散策や、足を延ばしてヨセミテ国立公園で自然を満喫するなど異国の地を肌で感じることもできます ★行動を起こせば起こすほど得るものは必ずあります。自らをバージョンアップしよう！</p> |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・帰国後の研修 ・報告会 <p>★実習前に策定した目標及びその達成に向けた行動計画に基づく、自身の実習内容の振り返りを参加者全員でプレゼンテーション ★理工インターンシップとの合同報告会による発表 ★理工学会への補助申請に向けた報告資料の作成</p> |

◆

Ⅲ. 2025（令和7）年度 理工インターンシップ （学外実習）Ⅰ・Ⅱ／ グローバル人材育成 プログラムデータ

◆

1. 2025年度受入機関数
2. インターンシップ参加学生 課程別人数

1. 2025 年度受入機関数（中止等は含めない）

| 種 別 | 依頼 | 受入可 | 実施 | 受入人数 |
|------------------------|----|-----|-----|------|
| 学外実習 | 87 | 62 | 57 | 103 |
| 自己応募型インターンシップ | — | — | 39 | 35 |
| 大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム | — | — | 2 | 2 |
| グローバル人材育成プログラム | — | — | 8 | 8 |
| 合 計 | | | 106 | 148 |

2. インターンシップ参加学生 課程別人数（中止等は含めない）

| 課 程 | 応募者 (4月 時点) | 学外実習 | 自己応募型 インターン シップ | 大学コン ソーシアム 京都産学 連携教育 プログラム | グローバル 人材育成 プログラム | 学内実習 (電子のみ) | 合計 | |
|-------------|-------------------|------|-----------------------|----------------------------------------|------------------------|----------------|----|-----|
| 学 生 数 | 数理 | 17 | 10 | — | 1 | — | — | 11 |
| | 知能 | 43 | 11 | 4 | — | 2 | — | 17 |
| | 電子 | 65 | 21 | 18 | — | 2 | 9 | 50 |
| | 機械 | 46 | 32 | 4 | — | 1 | — | 37 |
| | 応化 | 38 | 25 | 1 | — | 2 | — | 28 |
| | 環境 | 34 | 4 | 8 | 1 | 1 | — | 14 |
| | 合計 | 243 | 103 | 35 | 2 | 8 | 9 | 157 |

IV. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIを終えて (学生より)

| | | | |
|---------------|----|----|------|
| 数理・情報科学課程 | 3年 | 近藤 | 成 |
| 知能情報メディア課程 | 3年 | 柴田 | 朋香 |
| 電子情報通信課程 | 3年 | 芝崎 | 想平 |
| 機械工学・ロボティクス課程 | 3年 | 野中 | 美沙希 |
| 応用化学課程 | 3年 | 廣瀬 | 幸喜 |
| 環境生態工学課程 | 3年 | 木村 | 陸 駆 |
| | | 菴原 | 朋 弥 |

理工インターンシップを終えて

近藤 成
Naru KONDO



数理・情報科学課程 3年
実習先：株式会社秋村組

1. はじめに

私は2025年8月25日から9月4日の9日間、滋賀県近江八幡市にある「株式会社秋村組」のインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップの目標は建設業界の業務内容や、社内の仕組みなどを知ることと、現場でシステム開発をし、自分の今の実力と比較することです。

2. 実習内容

以下のようなスケジュールで9日間の実習を行いました。

| 日程 | 実習内容 |
|---------|-------------------------------|
| 8/25(月) | ORT、建設業について ラコリーナ見学、就活について |
| 8/26(火) | システム研修 |
| 8/27(水) | システム研修 |
| 8/28(木) | 建築見学、システム研修 |
| 8/29(金) | システム研修 |
| 9/1(月) | システム研修 |
| 9/2(火) | システム研修 |
| 9/3(水) | レポート作成 |
| 9/4(木) | レポート作成 |

2.1 ラコリーナ見学

秋村組の方々が建築されたラコリーナ見学に行きました。

ラコリーナは、屋根の上に植物を植え、手前にある植物と馴染むような工夫や、栗百本という店で本物の栗の木を100本使用されているなどのお話を伺いました。栗の木の形を残したまま店内で100本という多くの数を使うことで、支柱としての役割と共に仕切りとしての機能も果たしているそうです。

施主の思いを形にしていきながら内装にもこだわりがあり、建設の面白さを感じました。

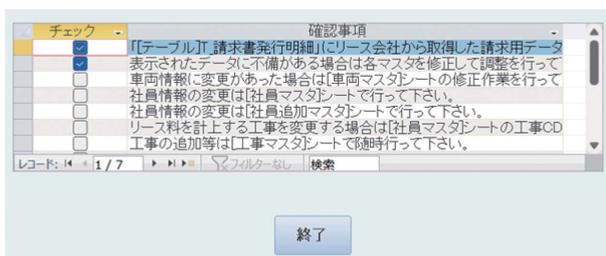
2.2 システム研修

システム研修では Access を活用しました。今回の課題は車両リース請求データを Net-びる用請求データに Excel で変換していたものを Access で変換するためのシステムづくりと、作ったシステムを、フォームを使ってより分かりやすく使用できるようにすることです。

前半の課題ではデータベースに登録したデータをクエリで変換、抽出する機能の作成でした。後半ではフォームに作成したボタンに SQL や VBA を利用して、別のフォームの呼び出しやデータの

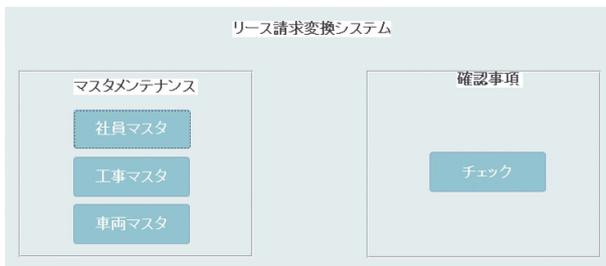
変更、フォームの終了といった処理ができる機能を作成しました。

また、Excel でリース請求データを変換しているデータには変換の仕方やメンテナンスの手順が記載されていたため、Access の変換システムにもそれを導入しようと考えました。ただ手順を記載するだけでは Access を学んだことが活かしきれないように思ったのでチェックボックスを作成し、チェックした状態を保存しておけるシステムを作成しました。



実際のチェック画面

画面を終了させてもチェックボックスの情報が保持される。



作成したホーム画面

社員マスタ、工事マスタ、車両マスタ、チェックボタンを押すと各フォームに移動する。



作成した社員マスタメンテナンス画面

社員 CD を選択すると自動的に社員名、部署名、部門名、工事 CD、工事名が入力される。

クリアボタンを押すと入力された内容が消え、各内容を書き換え、更新ボタンを押すと新しいデータの内容に更新される。終了ボタンを押すとこのフォームが閉じる。

3. 実習を通しての感想

今回インターンで Access について学ばせていただいて、これから社会人として自分が足りていないところは物事に取り組む前に順序立てて作業をすることだと感じました。初めて Access を使用して課題に取り組んだので、Access の使い方に慣れ、覚えながら作業に取り組むことになり、効率的に順序だてて作業をできていなかったと感じます。その課題に取り組むためにどのようなデータが必要で、何と組み合わせればよいのか、という事前の準備をはじめに行うべきだと身に染みて思いました。初めにその整理をすることで、効率的に作業ができるだけでなく、エラーが出てつまづいたときに修正すべき点が洗いだしやすいです。また、このようなシステム開発の取り組みでは修正作業を行うのは自分ではない可能性も十分にあり得るので、誰が見てもわかりやすいように配慮をもって作業を行うということは、結果的に最も有意義で効果的な仕事になるのだと実感しました。

4. 後輩に伝えたいこと

今回私がインターンシップに参加させていただく前では、プログラミングにあまり自信がなく、数学を活かした職に就きたいと考えていました。しかし今回課題に取り組んだり、お話を伺ったりする中で自分の努力次第で、情報系の職業に進んでも良いのではないかと考えるようになりました。

今回の経験を参考にして自分のことをもう一度良く振り返り、今後の就職活動に取り組みたいと思います。これからインターンシップに参加される方や、参加するか迷っている方は現場で働く方の意見を直接伺い、自分の考えを見つめ直す貴重な機会だと思いますので、是非積極的に参加することをおすすめします。

ジェイズ・コミュニケーション株式会社での学び

柴田 朋香
Tomoka SHIBATA



知能情報メディア課程 3年

実習先：ジェイズ・コミュニケーション株式会社

1. はじめに

私は8月25日から9月5日まで、土日を除く10日間、ジェイズ・コミュニケーション株式会社で実習をさせていただきました。これまで大学の講義においてネットワークやセキュリティの基礎を学んできましたが、座学だけでは理解が不十分であり、具体的なイメージを持つことが難しいと感じていました。そこで今回のインターンシップに参加し、実際の現場で学ぶことで理解を深めるとともに、将来の進路を考えるヒントを得たいと考えました。また、実習を通じて自分の課題や興味分野を明確にし、今後の学生生活やキャリア形成に役立てたいと考えました。

2. 実習先概要

ジェイズ・コミュニケーション株式会社

ジェイズ・コミュニケーション株式会社は、ネットワークおよび情報セキュリティ分野に強みを持つ企業として、1995年4月に設立されました。本社は大阪市淀川区にあり、東京にも拠点を構えています。事業内容は大きく分けて、ネットワークおよび情報セキュリティシステムの設計・構築・保守・運用、ITコンサルティング、通信機器

やセキュリティ製品の販売・輸入、さらに独自ソリューションの開発です。サービスの事例としては、企業向けセキュリティ基盤の構築や「RevoWorks」シリーズといった独自製品の提供が挙げられます。また、同社は「安全で、快適なネットワークソリューションをすべてのお客さまに。」を理念に掲げ、多くの顧客にサービスを提供しています。

セグエグループ株式会社

セグエグループ株式会社は、グループ会社の経営管理を目的として2014年12月に設立された持株会社です。本社は東京都中央区に所在し、東京証券取引所プライム市場に上場しています。事業内容は、グループを通じたITインフラ・ネットワーク・セキュリティ製品の設計・構築・販売や運用・保守サービスの提供、さらに自社プロダクトやソリューションサービスの展開です。技術者育成や高度なセキュリティ技術教育にも力を入れており、社会の情報基盤を支える役割を担っています。

3. 実習内容

実習では、主にネットワーク構築やセキュリテ

イ設定に関する基礎的な作業を体験しました。以下に、2週間のスケジュールに沿って内容をまとめます。

| | |
|------|----------------------------------------------------|
| 1日目 | オリエンテーション・会社概要説明 |
| 2日目 | ネットワークの基礎の座学・VLANの構築演習 |
| 3日目 | スタティックルートの実習 |
| 4日目 | 3日目の続き・ファイアウォールを使った通信 |
| 5日目 | Revo Worksの導入・操作体験 |
| 6日目 | 復習・NAT・NAPT |
| 7日目 | httpが見ることが出来ないようにする実習 |
| 8日目 | 7日目の続き・httpsのサイトを見ることができ、httpのサイトを見ることができないようにする実習 |
| 9日目 | 8日目の続き |
| 10日目 | 成果発表・振り返り |

3.1 実習内容について

Juniper 機器を用いたネットワーク実習を行いました。初日はオリエンテーションと会社概要の説明を受け、2日目からはネットワークの基礎座学と図1のようなVLAN構築演習に取り組みました。その後、スタティックルートの設定やファイアウォールを用いた通信制御、NAT・NAPTの設定演習を行い、さらに図2のようにHTTP通信を制限しHTTPSのみ閲覧可能にする演習など、実践的な設定操作を経験しました。実習中は、分からないコマンドや設定方法をネットで調べたり社員の方に質問したりしながら進め、座学で学んできた知識の重要性を改めて実感しました。実際の機器を操作することで理論と現場の結びつきを理解でき、ネットワークやセキュリティに対する理解を深めることができました。最終日には成果発表と振り返りを行い、今後の学習やキャリアに活かすための気づきを得ることができました。

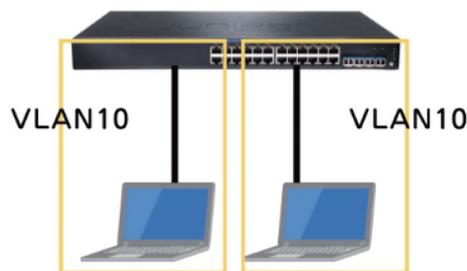


図1 VLANの実習

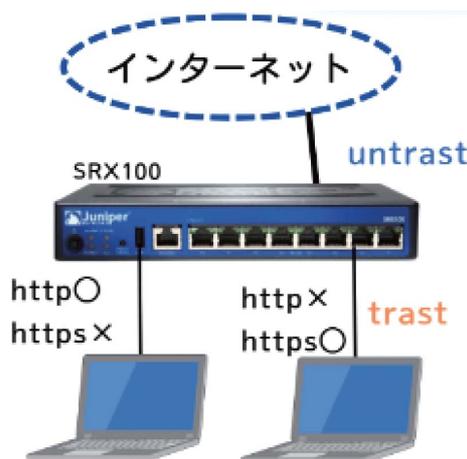


図2 httpの許可とhttp拒否

4. 実習を通して学んだこと

(1) 技術面での学び

今回の実習を通じて、VLANやルーティング、ファイアウォールといったネットワーク技術を、理論だけでなく実機で理解することができました。特に、通信が通らない原因を探す際には、設定を一つずつ確認するの必要があり、その手順を踏む中で「問題解決のプロセス」を学ぶことができました。これは今後の学習だけでなく、将来の仕事においても役立つ力だと感じました。

(2) 体験から得た気づき

座学だけでは、なんとなく理解している状態だった知識が、実習を通して具体的なイメージとして理解できるようになりました。また、通信が通った瞬間の達成感が大きくありました。

(3) 将来に向けた学び

この実習を通して、ネットワークやセキュリティの分野に対する関心が一層強まりました。同時に、基礎的な知識や設定を確実に理解しておくことが、今後の発展的な学習の土台になると感じました。

5. 後輩に伝えたいこと

実習を通して、事前学習の重要性を強く感じました。特に、IP アドレスの基礎やネットワークの基本用語をあらかじめ理解しておくことで、実習内容の理解度が大きく変わると実感しました。また、分からないことをそのままにせず、積極的に質問する姿勢も大切だと思いました。質問を通じて理解が深まり、自信を持って取り組むことにつながります。さらに、実習では座学とは違い実際に手を動かしながら学ぶことができました。

6. 感想と今後の展望

今回の実習は、私にとって大きな成長の機会となりました。特に印象に残っているのは、通信が思うように通らなかった場面で、一つずつ設定を確認し、原因を切り分けて解決していった経験です。この過程を通じて、論理的に考え、順序立てて問題を解決する力を養うことができたと感じています。さらに、実習を通じてネットワークやセキュリティ分野への関心がこれまで以上に強まりました。

今後は、今回得た基礎的な知識を土台に、より発展的な技術を学び専門性を高めていきたいと考えています。学生生活では、講義や自主学習を通じて理解を深めるだけでなく、資格取得や演習にも積極的に取り組みたいと思いました。

学外インターンシップ実習報告

芝 崎 想 平
Sohei SHIBASAKI



電子情報通信課程 3年
実習先：湖北工業株式会社

1. はじめに

私は8月25日から9月5日までの土日を除く2週間、滋賀県長浜市に本社を構える湖北工業株式会社でインターンシップの機会を賜り、実習をさせていただきました。本インターンシップの目的は、研究開発職に求められる理論や知識を、実際の研究テーマやプロジェクトを通じて応用し、学問的理解と実務的知識との間にあるギャップを埋めることにありました。さらに、研究現場で不可欠な技術スキルを実践的に習得し、自身の得意分野と課題を明確にすることを目指して取り組みました。

2. 実習先概要

湖北工業株式会社は、1959年に滋賀県長浜市で創立された電子部品メーカーです。現在では東京証券取引所スタンダード市場に上場し、グローバル企業へと成長しております。主力事業はアルミ電解コンデンサ用リード端子の製造・販売で、この分野においては世界シェア約60%を占めております。また、光通信用部品やデバイスにも力を入れており、特に海底ケーブルに使用される光アイソレータでは世界シェア50%以上を誇るな

ど、国際的にも高い技術力と信頼を獲得しております。「オンリーワン技術」の追求と「全員参加型経営」を理念に掲げ、世界市場で独自の地位を築きながら、電子部品産業の発展に寄与し続けております。



図1 湖北工業株式会社（長浜市高月町）

3. 実習内容

今回の実習では、各部署をおおむね2日ごとに回りながら研修を受けさせていただきました。次世代製品開発課、製品開発課、製造技術課を順に経験し、それぞれで設計や実験、製造技術、品質評価など、表1に示すようにさまざまな実習内容に取り組みました。

| 日程 | 部署 | 実習内容 |
|-------|-----------|-------------------|
| 8月25日 | | 会社案内 |
| 8月26日 | 次世代製品開発1課 | マグネットの作製シミュレーション |
| 8月27日 | | ファラデー回転子の特性評価、研磨 |
| 8月28日 | 製品開発課 | 光アイソレータの特性理解 |
| 8月29日 | | コリメータ対向実験 |
| 9月1日 | 次世代製品開発2課 | マルチコアファイバ製品の作製補助 |
| 9月2日 | | |
| 9月3日 | 製造技術課 | 光ファイバの融着による挿入損失評価 |
| 9月4日 | | 光アイソレータの評価実験 |
| 9月5日 | 全体 | 実習内容の発表 |

表1 実習のスケジュール表

3.1 ファラデー回転子の特性評価

ここでは、経験させていただいた多くの実習内容の中から、ファラデー回転子の特性を評価した結果につきまして、紹介いたします。まず、ファラデー回転子とは、透明な強磁性材料を用いることを特徴とした光学素子であり、強磁性体のファラデー効果により、素子の光路長とその材料が持つ磁化状態に依存して入射光の偏光面を回転させることができます。今回は、実際に製品の特性を測定させていただくという貴重な経験もさせていただきました。

ファラデー回転子の回転角の測定系

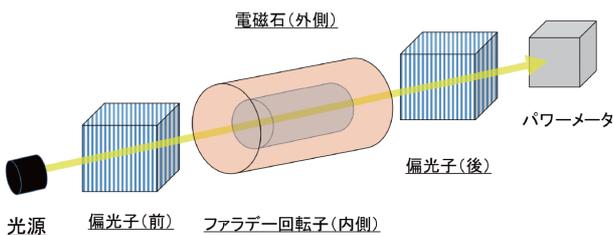


図1 ファラデー回転子の特性測定系

・測定系

構成：光源 → 偏光子（前） → ファラデー回転子（磁場中） → 偏光子（後：解析子） → パワーメータ

・測定方法

解析子（後段偏光子）を角度スイープし、出力強度（dBm）を記録。角度 - 強度の頂点近傍を2次近似し、頂点角（最大強度角）を求める。回転

子なしの系で基準角（0° 付近）を確認し、回転子挿入後の最大強度角のシフト = 回転角とする。

・条件

偏光入射（前段偏光子で直線偏光化）。

回転子は飽和磁界条件を満たすように電磁石で磁界を印加。

・角度掃引範囲

基準確認（±5° 周辺） → 近似式

$$y = -0.001400x^2 - 0.000536x - 3.125639、$$

頂点 $x \approx -0.19^\circ$ 。

回転子あり（45° 周辺） → 近似式

$$y = -0.001274x^2 + 0.115893x - 5.808190、$$

頂点 $x \approx 45.48^\circ$ 。

3.2 考察

最大透過強度は、解析子の偏光軸が出射偏光と一致したときに得られるため、このときの頂点角は出射偏光の方位を示しております。基準系の頂点が -0.19° とゼロ近傍であることから、測定系における光学軸や角度原点のずれは極めて小さいと考えられます。回転子を挿入した場合、頂点が 45.48° に位置しており、理想値である 45° に非常に近い結果となりました。これは飽和磁界条件を満たしたことで、偏光回転が安定しており、可逆ではないファラデー回転（往復で同符号）が期待通り実現していることを示しています。なお、頂点がわずかに $+0.48^\circ$ ずれている要因として、磁界の非一様性や試料の長さ、材料定数の許容範囲、偏光子の角度読み誤差などが考えられます。加えて、角度と強度の関係曲線が放物線状で滑らかなことから、ノイズ（S/N）も良好であり、測定系のアライメントは適切であると判断できます。

3.3 まとめ

本測定系によって、ファラデー回転子の回転角

は約 45.5 度となり、設計目標である 45 度と非常によく一致しました。今後さらに精度を高めるためには、角度原点の校正（オフセット補正）の実施、測定に用いる波長の固定化、印加磁場の均一度の評価に加え、反射や試料の偏心を抑制する工夫が必要です。こうした取り組みを積み重ねることで、回転角の測定における不確かさをさらに減少させることができると考えています。

4. 実習を通して学んだこと

現場では「測定の確かさ」と「工程間の連携」がいかに重要かを身をもって学びました。特にわずかなアライメントの違いが大きな損失や品質の差につながる体験は印象的であり、製品の信頼性は一つひとつの丁寧な作業の積み重ねによるものであることを理解しました。また、失敗やうまくいかないときも、その原因を積極的に調査し相談する姿勢が成長につながると実感しています。

5. 後輩の皆さんへ

これからインターンや現場実習に臨む後輩の皆さんには、ぜひ「自分から動くこと」、「疑問をそのままにしないこと」を大切にしてほしいと思います。どんなに小さなことであっても、自ら積極的に質問し行動することで得られる学びは非常に大きく、自信にもつながります。また、どの現場でもコミュニケーションの基本である“報告・連絡・相談”を意識することが、チームワークと信頼関係の構築に直結します。技術のみならず、人としての成長の機会として、臆せず何事にも挑戦していただきたいです。

6. 学生生活への展望

今後は今回の実習で身につけた現場目線や課題意識を、研究活動や大学生活にも活かしていきたいと考えています。たとえば私の研究テーマであ

る FM-AFM による観察研究の精度向上や、日々のデータ整理・プレゼンテーション力の強化など、「測り、整理し、伝える力」を徹底的に磨くことを目標としています。そして失敗や気づきも記録し、繰り返し見直すことで自らの成長に役立てていくつもりです。

7. 実習で特に強調したいこと

設計から製造・評価へのスピーディなフィードバックと、徹底した品質管理の大切さを強調したいです。現場でのノウハウは一朝一夕では身につきませんが、自分の手で実際に操作し、確かめることが一番の学びになります。個々の小さな作業や連携が、最終的には世界レベルの技術や製品の信頼性を支えていることを、身をもって実感しました。

8. 講義内容と実習の関連

大学の講義で学んだ物理や電磁気学、材料科学の知識が、現場の設計や品質評価の場面で実践的に活用されることを実感しました。特に波動や偏光、伝送損失など理論の根拠が実務の現場でどのように生きるのかを体験できたことで、学問と実践のつながりを深く認識できたのは大きな収穫です。

9. 実習前と実習後の感想

実習に参加する前は、自分の知識や技術が現場で通用するのcaという不安と緊張を抱いていました。しかし、現場の方々と積極的にコミュニケーションを取りながら実践を重ねることで、今まで気づかなかった多くの発見や手応えを得ることができました。特に、インプットした知識を現場ですぐにアウトプットするというサイクルを繰り返したことで、単なる知識の習得に留まらず、実務で生かせる体系的な学びを積み上げることができ

ました。この経験を通じて自らの成長を大いに実感するとともに、今後もこの姿勢を忘れず、日々

の研究活動や社会で新たな課題に積極的に挑戦していきたいと考えています。

理工インターンシップを終えて

野中 美沙希
Misaki NONAKA



機械工学・ロボティクス課程 3年
実習先：株式会社ゴーシュ

1. はじめに

私は8月25日から9月5日までの土を除く10日間、滋賀県湖南市にある株式会社ゴーシュで学外実習を行わせていただきました。今回のインターンシップの目的は、大学で学んでいる内容が実際の現場ではどのように用いられているかを知ること、社会で働くイメージをつかむことでした。

2. 実習先概要

株式会社ゴーシュは1946年に創業し、滋賀県湖南市に本社を置く鍛造製品メーカーです。自動車や二輪車、農業機械、建設機械向けに、熱間

・温間・冷間鍛造や回転成形など幅広い加工を行い、機械加工や金型製造にも対応しており、「強さ」「軽さ」「高精度」を重視した製品づくりを特徴とし、国内外に複数の拠点をもちグローバルに事業を展開しています。トヨタやホンダなど大手企業への納入実績があり、独立系鍛造メーカーとして業界トップクラスの規模を誇ります。

3. 実習内容

3.1 実習スケジュール

今回の実習は事前面談からどのような実習をしたいか希望を聞いていただき、結果として1週目で技術部、2週目は品質保証部での実習となりました。以下表1に具体的なスケジュールを示しま

表1 実習スケジュール

| 実習スケジュール | | | |
|----------|------|------------------|------------------|
| | | 午前 | 午後 |
| 技術部 | 1日目 | オリエンテーション | 技術部紹介・3DCAD研修 |
| | 2日目 | 3DCAD研修 | 3Dモデル作成 |
| | 3日目 | 3Dモデル作成 | 3Dモデル・サンプル作成 |
| | 4日目 | 3Dスキャナによるサンプル作成 | 工場見学・モデル・サンプルの比較 |
| | 5日目 | 3Dモデル作成 | まとめ |
| 品質保証部 | 6日目 | 確性についての安全教育 | SEM装置の教育・事前説明 |
| | 7日目 | 材料研磨-マイクロスコプでの確認 | 引張試験 |
| | 8日目 | SEM前段取り | SEM観察 |
| | 9日目 | データとりまとめ | データとりまとめ |
| | 10日目 | 3Dモデル作成 | データとりまとめ・発表 |

い、材料を樹脂に埋め込んだ後、金属組織を観察しました。その結果、現行品と変更品の間に組織的な差は認められませんでした。

②製品から採取した鋼材の引張試験

次に、製品から採取した鋼材を試験片の形状にしたものを用いて引張試験を実施しました。万能試験機に試験片をセットし破断させた後、試験片の標点距離等から破断伸びなどを算出し、規格下限値を超えているかを確認しました。結果として、すべての項目において現行品および変更品は規格を満足していました。

③走査電子顕微鏡（SEM）による試験片観察

さらに、引張試験後の試験片について走査電子顕微鏡（SEM）（図3）を用いて破断面を観察しました。観察の結果、現行品と変更品の破断面に差異は見られず、異常も確認されませんでした。



図3 走査電子顕微鏡（SEM）

以上の3種類の試験結果から、現行品と変更品の間には有意な差は認められず、変更品は現行品と同等の品質を有していると判断できました。したがって、変更品は合格とみなすことができました。

品質保証部での実習は鋼材の強度試験や組織観察を通じて、製品の信頼性を確保する上で材料試験が欠かせないことを理解しました。また、引張試験やSEM観察の結果を規格値と比較し、合否を判定するプロセスから客観的な評価基準の大切さを学びました。

4. 実習を終えて

このインターンシップを通じて、大学で学んだ知識の重要性を再認識するとともに、新しい知識や概念に対して主体的に学び、整理し、活用する力の大切さを実感しました。現場では未知の事柄に直面することが多く、メモを取り復習を重ねることで少しずつ理解を深め、応用できるようになりました。また、指示や質問に対しててきぱきと返事をする中で、周囲とのコミュニケーションが円滑になり、実習全体の進行もスムーズになりました。さらに、分からないことは考え込み過ぎず、ためらわずに質問することの大切さも学びました。質問することを恥じず、積極的に聞く姿勢は、知識の吸収だけでなく、信頼関係の構築にもつながると感じました。これらの経験を通じ、社会で求められるのは単なる知識量だけでなく、柔軟に学び、積極的にコミュニケーションを図る姿勢でもありと強く認識しました。

5. 後輩に向けて

インターンシップは、大学で学んでいることが実社会でいかに重要であるかを実感できる、非常に有意義な機会です。実際に現場で業務や作業を体験することで、大学で得た専門知識や理論がどれほど大きな助けとなるかを体感できます。知識は、講義や演習などでのインプットと実践でのアウトプットの両方を通じて初めて深く定着すると私は考えています。この貴重なアウトプットの機会をぜひ生かすべきだと考えています。また、インターンシップは単に専門知識を活用する場にとどまらず、社会人として必要とされる礼儀や常識、コミュニケーション能力、責任感などを身につける絶好の機会でもあります。大学生のうちに一度社会に出て現場を経験することは、将来のキャリア形成や自己成長に大きくつながる貴重な経

験ですので、ぜひ積極的に参加することをお勧め
します。

現場に魅せられて

廣瀬 幸喜
Kouki HIROSE



応用化学課程 3年

実習先：国立研究開発法人国立循環器病研究センター

1. はじめに

私は8月19日から9月5日までの14日間、大阪吹田市にある国立研究開発法人国立循環器病研究センターで学外実習をさせていただきました。今回の実習では、以下の3項目を目標に設定し、実際の研究機関での活動を体験し具体的な研究内容に直接触れることで、実験方法やデータのまとめ方等、研究活動を実施するための重要なスキルを身に付けることを目的にしました。

1. 生体由来組織を用いた医療機器作製法の理解と実地
2. 医療機器の物理的・化学的な評価方法の技術習得
3. 勉強内容や研究成果のプレゼンテーションを通じた発表・ディスカッション技術の習得

2. 実習先概要

国立循環器病研究センターは「病院」「研究所」「オープンイノベーションセンター」の3部門からなり、これらを一体として運営していることが大きな特徴です。病院は、「心臓血管部門」と

「脳血管部門」が併設され、それらが連携して最先端の医療を提供している世界的にも稀な施設です。私が実習をさせていただいた研究所では、世界最先端の人材と機器を駆使しながら、循環器病の究明と制圧に向け、ペプチド・タンパク質医科学、ゲノム医科学、再生医科学、人工臓器開発、ナノメディスン、生理機能と画像解析といった分野で病院と連携して研究を行っている世界でも類をみない機関です。

3. 実習内容

3.1 実習計画

14日間の実習は次のようなスケジュールで進みました。各内容を表1に示します。

表1 実習スケジュール

| 日程 | 実習内容 |
|-------|------------------------------------------------------|
| 8月19日 | ペプチド合成実験の見学、細胞培養見学 |
| 8月20日 | 細胞培養(培地交換)の実施、器具滅菌の実施 |
| 8月21日 | 8-arm-PEG-FITC 合成の準備 (NMR、DLS などの使用装置の説明、使用器具の乾燥) |
| 8月22日 | 8-arm-PEG-FITC の合成実験、8月25日実施勉強会のスライド作成 |
| 8月25日 | 勉強会(発表)、8-arm-PEG-FITC 合成実験(収量・収率測定、NMR 測定) |

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------|
| 8月26日 | 動物実験準備見学、8-arm-PEG-FITC 合成実験 (NMR 解析、DLS 測定) 細胞培養 (継代) |
| 8月27日 | 8-arm-PEG-FITC 合成実験 (DLS 測定) |
| 8月28日 | 8-arm-PEG-FITC 合成実験 (NMR 解析、DLS 測定・解析) |
| 8月29日 | 大動物実験 (CT を用いた人口血管の撮影) の見学 |
| 9月1日 | 報告会 (発表) |
| 9月2日 | 大動物実験 (人工心肺を用いた人工血管の評価) |
| 9月3日 | 研究員の方の実験の手伝い、細胞培養 (培地交換) |
| 9月4日 | 学会発表練習見学、細胞培養 (培地交換) |
| 9月5日 | まとめ |

3.2 8-arm-PEG と FITC の合成

がん細胞は自身の成長に必要な栄養と酸素を得るために、周囲の細胞から新しい血管を引き込んでいるため、がん細胞の周囲には細い血管が数多く存在しています。そのため、細い血管まで行き届く造影剤が開発されると初期のがんであっても微細血管の構造を目印にして早期発見が可能となります。

血中に造影剤を入れた際に粒子サイズが小さい場合 (低分子状態) は、血管外組織へ造影剤が漏洩してしまいます。一方、粒子サイズが大きい場合 (高分子状態)、微細血管にまで届くことができません。そこで、国立循環器病研究センターでは、造影剤を血中に投与した直後から血管中で造影剤の粒子サイズが小さくなり、この作用によって微細血管にまで届く造影剤の開発を目指して研究を行っています。

今回の学外学習で私は上記で記した微細血管にまで行き届く造影剤の候補材料のひとつである 8-arm-PEG に蛍光色素である FITC (フルオレセインイソチオシアネート) を結合させる実験を実施し、以下の3項目を評価しました。

- ①8-arm-PEG (20kDa) を用いて合成した 8-arm-PEG-FITC を生理食塩水中に入れると、ゲル化したことから分子量の小さい 10kDa の分子量をもつ 8-arm-PEG (10kDa) を用いて 8-arm-PEG-FITC を合成し、水溶液中でゲル化するかを調べる。
- ②合成物の NMR 測定を行うことで合成した 8-arm-PEG-FITC の構造を調べる事で、NMR 測定の原理や方法について学ぶ。
- ③DLS 測定を実施し、8-arm-PEG-FITC 溶液の濃度を变化させた場合の流体力学半径の変化を調べる。

今回の実験では 8-arm-PEG150mg に対して FITC の導入率を 1 当量、0.5 当量、0.25 当量と変化させて合成を行いました。まず初めに、8-arm-PEG 及び FITC の必要量をそれぞれスターラッチップと DMSO を入れておいた 100mL ナスフラスコに入れ、スターラー上で攪拌し溶解させました。攪拌終了後、8-arm-PEG 及び FITC が完全に溶解していることを確認し、FITC が溶解している溶液を 8-arm-PEG が溶解している溶液に 1 滴ずつ滴下し、すべて滴下し終えてから FITC と 8-arm-PEG を 2 時間反応させました (図 1)。この時の化学反応式を図 2 に示します。

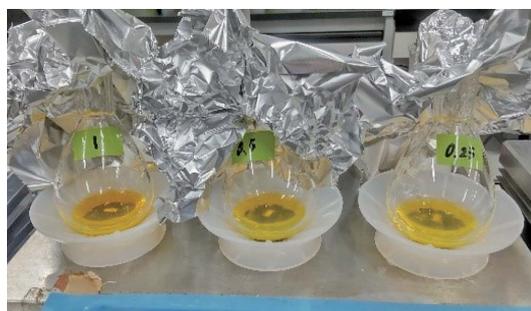


図 1 FITC と 8-arm-PEG の反応の様子

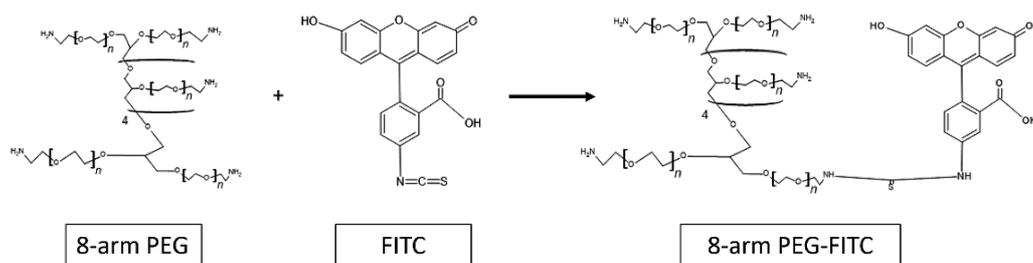


図2 8-arm-PEG と FITC の反応時の化学反応式

24 時間透析を行った後、液体窒素と凍結乾燥機を用いて 3 日間乾燥させ、粉末状の 8-arm-PEG-FITC を得ました。得られた粉末から収量及び収率を求めた後、FITC と 8-arm-PEG の単体と FITC の導入率を変化させた 8-arm-PEG-FITC の計 5 サンプルの NMR 測定をし、8-arm-PEG-FITC の合成が出来ているかの確認を行いました。

最後に、得られた 8-arm-PEG-FITC の粉末を生理食塩水で溶解し測定濃度 [mg/mL] を 100→50→25→12.5→6.25→3.125→1.5→0.75 の順に FITC の導入率を変化させた各サンプル 2 回ずつ合計 6 回測定し、溶液濃度と流体力学半径の関係をグラフにして求めました。

上記の①の目的に示したゲル化は、確認されませんでした。図 3 に研究員の方が行われた実験、図 4 に私が行った実験のゲル化の有無の様子を示します。



図3 8-arm-PEG-FITC がゲル化した様子



図4 8-arm-PEG-FITC がゲル化していない様子

3.3 細胞培養

国立循環器病研究センターでは、培養したがん細胞をラットに移植することでがん細胞を有するラットに 3.2 で先述した研究中の造影剤を注射し、がん周囲に存在する微細血管まで造影剤が行き届くかを評価する研究を行っています。その一環である細胞培養を C6 細胞と呼ばれるラットの脳腫瘍由来のがん細胞を使用して行いました。細胞培養は、起株→播種→培養→継代→凍結保存の 5 つの手順で構成されており、今回の学外実習では 1 週間かけて C6 細胞の培養を起株から凍結保存までをしました。

3.4 実験見学

3.4.1 CT を用いた豚の大動物実験

人工血管を移植した 3 匹のオス豚に耳の裏側にある静脈から造影剤を注射し、造影剤の人工血管中の通りを確認することで人工血管が閉塞していないかを CT を用いて確かめる実験の見学をしました。

3.4.2 人工心肺を用いた豚の大動物実験

ミニブタに人工心肺を装着することで体外で血

液循環を模倣し、ペプチドの修飾条件を変化させた複数の人工血管中にミニブタの血液を流し、人工血管中の血小板付着の程度を評価する実験を見学しました。本実験のようにオペをする実験では実際にオペをする人を清潔の人、器具の出し入れや機械調整、データを記録する人を不潔の人と呼び、2つのチームに分かれて行われています。実験がスムーズに行われるように、清潔の人は次どのような操作をするか、どのように進めていくかを前もって周囲に伝えており、不潔の人はオペの様子を常に把握し、先の操作を見越した上で作業をしており、手術室にいる全ての人が協力している姿が印象に残っています。

全ての実験が終了すれば、命を無駄にしないよう、勉強のために解剖を行い、豚の臓器（心臓、肺、肝臓、小腸、大腸）を観察させていただきました。大学の生物学実験でマウスの解剖を行ったときに見た臓器よりも大きさが人間に近いものであったため、マウスでは観察することが出来なかった心臓周りの血管や各臓器の表面の特徴を観察することができました。

3.5 発表

3.5.1 勉強会

8月25日（月）に行われた勉強会で「高分子のラジカル反応について」をテーマに PowerPoint を用いた発表を行いました。PowerPoint を使用した大学化学についての発表は経験が無く難しかったため上手く出来ませんでした。国立循環器病研究センターでは化学を専攻している方だけでなく、生物を専攻している方や医師の方も所属されており、専門の異なる方に向けて行う発表であるため、自分分かる発表ではなく、自分が発表内容を理解した上で、相手に伝わるように意識してスライド作成や発表内容の構成を考えなければならぬことを強く感じました。

3.5.2 報告会

9月1日（月）の報告会で学外実習で行った実験についての発表を行いました。自分が行った実験の方法や結果を相手に伝わるように説明するためには実験操作のひとつひとつの意味や使用装置の原理を理解しつつ、図や写真を用いるときは顕微鏡観察写真では拡大写真にすることやグラフでは縦軸と横軸の値が分かる大きさにするといった工夫をすることが大切であることを学びました。

4. 実習を通しての感想

実習で使われる実験器具や専門用語など新しく知ることばかりで、理解することに精一杯でした。研究現場での実験ノートの書き方、実験器具の扱い方、実験の進め方、データの取り方など実践的なことがとても多く、刺激の多い充実した3週間を過ごすことができました。また、1人の研究が全体の研究につながっていること、研究室のメンバー全員で研究に取り組んでいることが分かり、報告会以外でも報告・連絡・相談を密に行っている姿が目には焼きついています。さらに、研究員の方が研究について「どうしたら良いか」「なぜこの結果になったのか」を声に出して話し合っている姿がとても印象に残っています。実験が上手いかなかったとしても諦めることなく、どうしたら上手くいくかを考え、毎日挑戦されている姿を目の当たりにして、研究には地道な積み重ねとチームワークの大切さが必要だと感じた3週間でした。

5. 後輩に伝えたいこと

研究機関でインターンシップをしたことで、机上の学習だけでなく、自分自身で経験することが何よりも大切であることを実感しました。大学で学んでいる知識をどのように活かせるのか、これから学習していかなければいけないことは何かを

知るきっかけにもなりました。分からないこと、知らないことをそのままにしておくことのないように、質問をしたり自分で調べてみたりして、自分の幅を広げていくように努めてください。そして、ぜひたくさんの方にチャレンジをしてい

き、大学では体験できない貴重なコミュニケーション能力やビジネスマナーなどを学ぶ機会を逃さないように。今後の大学生活ではPCスキルやプレゼンテーション能力にも力を注いでいくことが重要だと思います。

株式会社西日本技術コンサルタントにおけるインターンシップ総括



木村 陸 駆
Riku KIMURA



菴原 朋 弥
Tomoya IOHARA

環境生態工学課程 3年

実習先：株式会社西日本技術コンサルタント

1. はじめに

私たちは、滋賀県草津市内で建設コンサルタント業務を営まれている株式会社西日本技術コンサルタントにおいて、8月25日から9月5日にわたる実働10日間の学外実習へ参加をさせていただきました。実習への参加を通じ、大学で学んでいる知識が、実際の現場でどのように活かされているのかを理解したいと考えたからです。実習では上下水道関連施設の設計に関わる現地調査等へ主に参加させて頂き、これらの業務が滋賀県内の水環境の保全・維持に対してどのように貢献しているのか学ぶと共に、建設コンサルタント業務とはどのような内容の仕事であるのかを、自身の学びと将来の進路のことと関連させながら考える上で良い機会となりました。

2. 実習を通して学んだこと

上下水道関連施設（管渠）の維持管理に関わる現

地調査（実習）を、社外で行いました。まず管渠内に入る前に酸素や硫化水素濃度を測定し、安全を確認する工程を見学しました。これは埼玉で実際に発生したマンホール事故とも関連していて、酸素や硫化水素濃度が高いと事故に繋がるため、安全確認することが重要であることを理解しました。

また管渠内壁等の劣化具合を調べるために鉄筋腐食試験と圧縮強度試験というのが実際に行われていました。鉄筋腐食試験は、既設管渠の鉄筋がどの程度劣化しているかコンクリートをはつり、鉄筋の状態を確認するものです。圧縮強度試験は、コンクリート管渠の圧縮強度をシュミットハンマーで測定し、残存強度を確認するものです。これらの確認作業は私たちの生活の基盤を支えていく上では大切な業務だと実感しました。

現地調査の一環としてマンホール蓋の開閉作業も体験しました。マンホール蓋の重量は約30～40kgであったことから、実際に蓋を持ち上げるこ

とは想像以上に大変でした。普段は何気なく目にしているマンホールですが、その裏には社員さんの体力や注意力が求められることを実感し、現場作業の厳しさを肌で感じる貴重な体験となりました。



図1 現地調査の様子



図2 実際にマンホール蓋を動かした様子

一方、社内では大型の図面折りや膨大な写真整理、管路埋設位置の地番確認、数量計算書の作成等に関わる実習を行いました。一つの数値のずれが大きく次の業務に支障が出てくるため、正確さと丁寧さが確認作業には必要不可欠であることを痛感しました。例えば、管の直径や延長を誤って記録すると数量や費用計算に大きく影響が出たり、地番を一つ間違えると土地の権利関係に関わる調整が変わってしまいます。こうした細かな部分の正確性が積み重なって正しい設計や工事につながっているのだと実感しました。また膨大な情報の量を扱う大変さを感じたと同時にこの情報が地域のインフラを整備する上では大切なことだと

実感することができました。

AutoCAD を用いた作業では、現地調査で測定したパイプの長さや口径を基に、パソコン上でスケルトン図を作成しました。図面は単に設計内容を記録するだけでなく、施工や維持管理に携わる人々にとって、正確かつわかりやすく情報を伝える大切な役割を果たしていることを実感しました。図面作成は安全性や作業効率に直接つながる重要な工程であると理解し、これまで以上に責任感を持って取り組む必要があると感じました。

また、断面図をもとに立体的な構造をイメージする場面では、自分の空間把握力の不足を痛感しました。特に流入管の位置確認では、地下構造物を正確に理解することが求められましたが、平面図だけでは立体的なイメージがつかみにくく、作業に苦戦しました。こうした経験を通じて、図面と実際の構造を結びつけて理解する力を高めることが課題だとわかり、今後は大学での専門科目の学習にもよって意識的に取り組みたいと思いました。

今後の学生生活では、授業で得た基礎知識を一層確実に身につけるとともに、自主的にAutoCAD を用いる機会を増やし、効率的かつ正確な図面作成ができる力を磨いていきたいと考えました。



図3 A市現地調査で測ったパイプの長さ・口径

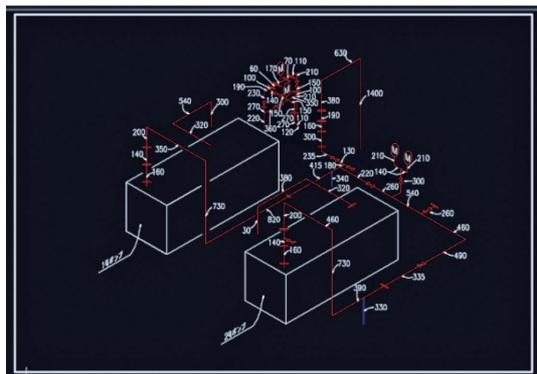


図4 図3や他の資料を見て作成した配管のスケルトン図

実習前は建設コンサルタント業務における仕事の内容に対し「管路の設計や計算を行う」というイメージしか持っていませんでした。しかし、数量計算や AutoCAD による図面作成に加え、現地調査や資料整理等といった幅広い業務に関わる実習を通じ、これらの業務が上下水道をはじめとする社会インフラを安全に支える大きな責任を伴うものであることを実感できました。

3. 実習後の感想

10日間の実習を終えて、建設コンサルタントの業務には多くの知識と責任が求められることを実感しました。事務所内での資料作成や写真整理などの地道な作業が、現場調査や設計業務を支える重要な役割を果たしていることを学びました。また、現場では安全確認や段取りが重要であり、調査結果がその後の設計や業務に直結することを理解しました。

今回得られた経験を今後の勉学や就職活動に活かすと共に、自分の将来について見つめ直そうと思いました。また建設コンサルタントだけでなく、他の業界について勉強し、自分のやりたいことを明確にしようと思いました。

実習で得た経験を今後の学生生活に活かすために、まずは基礎学習をより一層大切にしたいと思います。数量計算や水理計算は設計の基盤であ

り、正確さを支える重要な要素です。これからは講義での学びをおろそかにせず、一つひとつを確実に理解し、実務に応用できる力を養っていきたいです。また、CAD スキルの向上も課題として残りました。効率的で分かりやすい図面を仕上げるためには、さらに高度な操作スキルが求められることを実感しました。今後は自主的な学習を重ねていき、将来に活かせるスキルとして身に付けていきたいです。

4. 後輩に伝えたいこと

インターンシップに参加してみてもすごく充実した10日間だったと感じました。参加することで自身の成長につながる良い経験となり、貴重な機会になると思います。積極的に参加することで、自分の知識や進路にどう結びつけるかを意識してほしいと思います。今回の現場では安全確認や正確な情報整理が欠かせず、一つひとつの業務が人々の暮らしを支える重要な役割を担っていることを実感しました。そのため実習中は、分からないことをそのままにせず積極的に質問し、作業の意味を理解しようとする姿勢が大切だと感じました。このような経験が自分自身の成長に必ずつながります。最初は慣れない作業が多く不安に感じるかもしれませんが、今回で得た経験が大きな学びとなり、今後の自信にも繋がっていくので積極的に参加してみてください。

またこの2週間の実習を通して、社員さんの方から多くの貴重なアドバイスをいただくことができました。普段の授業では得られない実践的なお話を直接伺えたことや社会人としての在り方や人との関わり方、職場での人間関係の大切さについても学ぶことができました。実習先には龍谷大学のOBの方もおられ、同じ大学で学んだ先輩から直接アドバイスをいただけたことは、とても心強く、今後の学生生活や将来を考える上で大きな

励みとなりました。こうした経験ができるのは、学外実習という場ならではの特長であり、自分の成長にとって絶好な機会であったと感じました。

◆

V. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIを終えて(受入先機関より)

◆

株式会社中戸研究所 第2研究室 代表取締役 井 狩 雅 文

学外実習を終えて

井 狩 雅 文
Masafumi IKARI

株式会社中戸研究所 第2研究室代表取締役

1. 株式会社中戸研究所の紹介

当社は、ゾルーゲル法をベースとした機能性薄膜や機能性粒子の開発および製造を行っております。自社独自の触媒技術を用いることで、従来技術では複合化が困難とされていた（反応速度や反応温度が異なる）材料同士を、溶液中で均一混合することが可能となり、新たな機能性を有する有機-無機ハイブリッド材料を実現しました。

《食品包装用ガスバリアフィルム》や《防曇フィルム》、《多孔質ペレット》や《中空粒子》など、多数の特許を取得し、幅広い分野でご活用いただいております。

当社は1979年に創業し、開発型企业認定を取得後、1995年には龍谷大学 REC ホールに研究室を構えて、大学との共同研究なども積極的に取り組んでまいりました。

その後、滋賀県野洲市に工場を新設し、研究室を REC ホールから滋賀県大津市におの浜の方に移転して、現在は滋賀県内の2拠点で開発・製造・販売を行っております。



2. 学外実習生の受け入れについて

当社は、インターンシップを通して実習生の方には、実際にテーマを与えて実験に取り組み、自分たちで考えて課題解決に挑んでいただくことで、論理的思考の重要性を少しでも感じてもらえたらと思います。(⇒4. ①)

また、普段何気なく使っているものや目にしているものにも、生活をより快適にする工夫が詰まっていること、そしてそれを実現するために研究・開発から製造に至るまでいろいろな企業努力が存在することを知ってもらうことで、これまでとは少し違った視点を持つきっかけにしてもらえたらと考えております。(⇒4. ②)

尚、今回のインターンシップにおいては、3名の実習生に12日間履修頂きました。

3. 当社のベースとなる技術

《ゾル-ゲル法について》

ゾル-ゲル法は、金属の有機および無機化合物の溶液（金属アルコキシド）を出発原料とし、水溶液中での加水分解反応・重縮合反応を繰り返して、ゾル状態からゲル化を経て、金属酸化物（セラミックス）を形成することができます。

$\text{Si}(\text{OR})_4$ （アルコキシシラン）を出発原料とした場合のガラスが得られるまでの一般的な反応例は下図の通りです。

《当社技術の特徴》

金属アルコキシドの種類によって反応速度が異なるため、単一組成・複合組成ともに反応制御が課題でしたが、当社オリジナル触媒を用いることで、任意の組成のバルク体や粒子、薄膜形成が可能になりました。

4. 実習内容

①『ひび割れのないシリカゲル体の形成』に挑戦

本実習においては、まずはじめにアルコキシシランの加水分解液に当社オリジナル触媒を添加

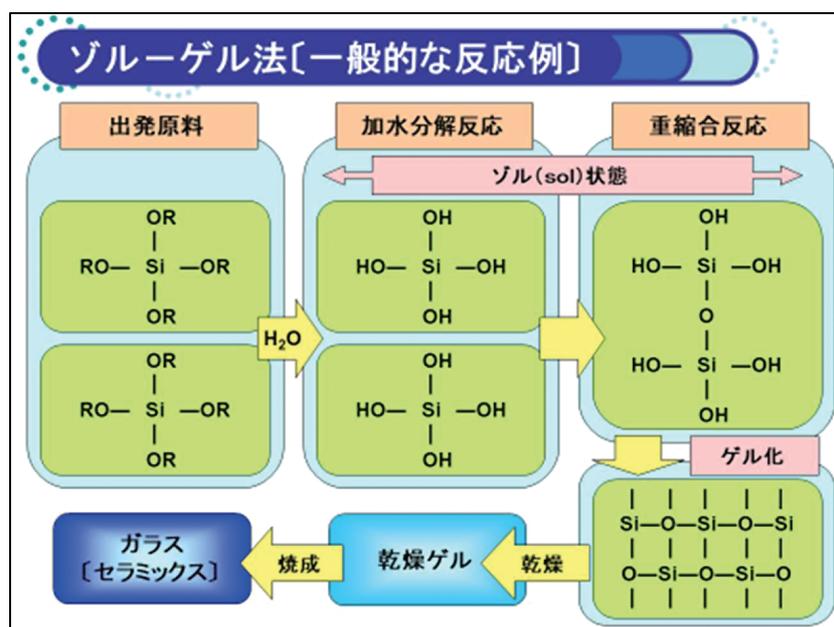
し、瞬時にゲル化するところから、反応進行によるゲル体の収縮に伴ってひび割れが発生する現象を観察してもらいました。

『ひび割れのないシリカゲル体の形成』を【目的】として、「なぜひび割れが起こるのか」「どうすればひび割れを防げるのか」について実習生だけで話し合ってもらい、【仮説】を立てて【検証】実験に取り組んでもらいます。

過去の実験結果や文献なども参考にしながら、トライアンドエラーを繰り返し、限られた時間の中で、効率的にゴールを目指すということも意識しながら進めてもらいました。

我々は、実験の方向性の正否をみるのではなく、【考察】した結果が次の【仮説】や【検証】、実験計画にしっかりと反映されているかや、こちらからの「なぜ」の問いに対して論理的に説明できるか、という視点でのディスカッションを心掛けました。

はじめは触媒の比率や溶液濃度など化学的視点のみで考えているようでしたが、自然現象全般を意識した科学的視点で【考察】することも大切であることを伝えると、皆で話し合い、いろいろと工夫を凝らし、実験に取り組んでいたのが印象的





触媒投入



ゲル化直後



ひび割れたゲル体

でした。

ゲル体の収縮に伴う内部応力の緩和や外部からのストレス低減を心掛け、実習最終日の直前に『ひび割れのないシリカゲル体の形成』に成功し、



ひび割れのない円柱状シリカゲル体
(直径 20mm×高さ 20mm)

【目的】を達成することができました。

②化粧品で実用化されている中空粒子の製造体験と SEM 観察

実習の3日目と10日目には、実習生たちが合成した原料を用いて、実際に工場（ラボ機）にて中空粒子の製造体験をしてもらいました。

その後、先端理工学部青井教授および研究室のメンバーにご指導いただくかたちで、走査型電子顕微鏡（SEM）にて、作製した中空粒子の外観観察を実施しました。

はじめは、慣れない電子顕微鏡の操作に戸惑っている様子もみられましたが、最終的にはそれぞれが数 μm サイズの中空粒子撮影に成功し、普段



中空粒子製造体験



SEM による外観観察

は目にすることのない化粧品原料のミクロの世界を覗いてもらいました。

5. おわりに

この度のインターンシップ研修にあたり、関係者各位のご協力を賜り履行できましたことに心から感謝申し上げます。

また、実習生のおかれましては、12日間という限られた時間の中ではありましたが、興味を持って自主的に実習課題に取り組んでいただけたことを嬉しく思います。

今年のノーベル賞受賞者のコメントの中で、成

功の秘訣として「興味」と「継続」というワードが共通して使われており、実習生たちが一生懸命課題解決に取り組む姿と照らし合わせ、我々もその重要性を改めて認識させていただきました。

実験に失敗はつきものですが、それをただの失敗で終わらせず、次に活かすためには「なぜ失敗したのか」を一生懸命考えることが重要であるということ、今回のインターンシップを通して少しでも感じてもらえていたら幸いです。

皆様の今後のご活躍を心よりお祈りいたします。

VI. グローバル人材育成 プログラムを終えて(学生より)

電子情報通信課程

3年 荒 生 敏 岳

知能情報メディア課程

3年 麻 田 滉 太

グローバル人材育成プログラムに参加して

荒 生 敏 岳
Hayataka ARAO

電子情報通信課程 3年



1. はじめに

2025年8月14日から9月1日まで、米国カリフォルニア州サンフランシスコおよびシリコンバレーにて実施された「グローバル人材育成プログラム」に参加した。本プログラムは、異文化や最先端の企業文化に直接触れることで国際的な視野を広げ、将来のキャリア形成に役立てることを目的としている。私は電子情報通信課程の学生として、海外での企業訪問、大学交流、現地講演の受講、さらには日系アメリカ人の歴史保存に関わる実務研修を経験した。本稿では、研修の概要とその成果、そして自身の成長について述べる。

2. プログラム概要

初日はサンフランシスコ市内の観光から始まり、その後は Oracle、Meta、Intel、Apple といった世界的 IT 企業を訪問した。スタンフォード大学では在學生との交流や講演会に参加し、シリコンバレー流の考え方やプレゼンテーション術を学んだ。また、Google 本社やコンピュータ歴史博物館を訪れることで、最先端技術とその歴史的背景を体感することができた。後半は National Japanese American Historical Society (NJAHS) に

て約2週間の実務研修を行い、現地のスタッフと協力しながら日系人史の保存と発信に携わった。

3. 主な活動

企業訪問では、Oracle 本社にて日本人社員から現地での働き方やキャリア形成について直接話を伺った。Meta Store では VR 体験を通じて次世代のデバイスに触れ、Intel Museum では半導体開発の歴史を学び、Apple Visitor Center では Apple Park の仕組みを体感した。

スタンフォード大学ではキャンパス見学と在學生との交流を通して、世界に羽ばたく人材が育つ環境を実感した。講演会では AI 研究者の井坂暁氏から「なぜ?」と問い続ける姿勢の重要性を学び、表現のプロである晴海 S. Rodriguez 氏からは失敗を恐れない挑戦心や伝える力の大切さを教わった。

4. 実務研修 (NJAHS)

2025年8月18日から8月29日までの10日間、米国サンフランシスコに所在する National Japanese American Historical Society (以下、NJAHS) において職場体験を行った。NJAHS は、日系アメリカ人の歴史資料を収集・保存・展

示することを使命とする団体であり、教育活動やコミュニティ活動を通してその経験を社会に伝える役割を担っている。本研修では、資料整理やデザイン補助、博物館での展示支援、さらに地域の歴史的背景を学ぶ活動を通じて、日系人史とその保存活動に直接関わる貴重な機会を得た。



National Japanese American Historical Society

Day1

初日は NJAHS の沿革や活動理念に関する詳細な説明を受けた。設立の背景には、戦時中の不当な強制収容や二世兵士の従軍経験を正しく後世に伝える必要性があったことが語られた。続いて日系アメリカ人史に関する映像資料を視聴し、戦前の生活や戦時中の収容所の実態、戦後の社会復帰の困難さを学んだ。映像には実際の証言や写真が挿入され、教科書では知ることのできない生活であったり感情が伝わってきた。その後、MIS Historic Learning Center（以下、MIS）を訪問した。ここでは、戦時中に二世兵士が語学教育を受けた歴史的建物を活用した展示を見学した。展示は写真や文書だけでなく、音声や映像を交え、臨場感ある構成となっていた。午後には日本から来ていた高校生2人と共に展示の説明や歴史の解説を受けながら、一緒に展示を見て回った。彼女らと共に展示を巡ることで、自分一人では気づかなかった視点から歴史を学ぶことができた。他者の視点を聞くことで、自分一人では気づかなかった視点

を得られたのが印象的だった。



MIS

Day2

この日は、日本町（Japantown）や NJAHS に関する英語の文章を読み、要約する作業をした。専門的な言葉や難しい表現も多く、簡単にまとめるのは大変だったが、英語を「理解して自分の言葉にする」いい練習になった。午後は MIS で清掃や展示物の移動を手伝った。普段は来館者として展示を眺める立場だが、裏側の作業を経験して初めて展示を支える人の努力に気づくことができた。

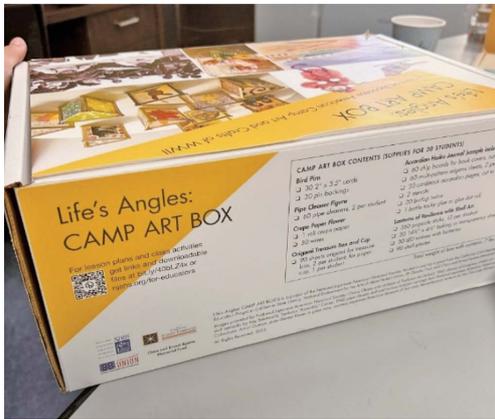


MIS の展示物

Day3～5

この3日間は、Photoshop を使ってスポンサー組織のロゴに“Sponsored by”を付け、それをアートボックスに貼り付ける作業を行った。また、

NJAHS のロゴを透過する作業も担当した。初めは経験がなく効率に欠けたが、試行錯誤を重ねるうちに徐々に慣れていった。自分が行った作業が実際のアートボックスに反映されると思うと、しっかりと一助を担えているのだと実感できた。一見単純そうに見える作業も、背景色や文字の見やすさを考えないと見栄えが悪くなる。細かい調整を重ねる中でデザインは見た目以上に奥が深いと感じた。また、この期間も英語の要約作業を続け、文章全体の流れをつかむ練習になった。少しではあるが、読むスピードも上がってきたように思う。



アートボックス

Day6

この日は「Farewell to Manzanar」を鑑賞した。この映画は、強制収容所に送られた日系アメリカ人家族の視点から描かれており、当時の生活や精神的苦悩をリアルに伝えていた。特に「忠誠を誓うか否か」を問う 27 番・28 番質問は、収容所生活の中で自分は何者であるかを強く揺さぶられる大きな質問であったことがよく分かった。個々の人間が置かれた状況や感情に触れることで、歴史を単なる過去の事実としてではなく生きた経験として理解できた点が大きな学びであった。

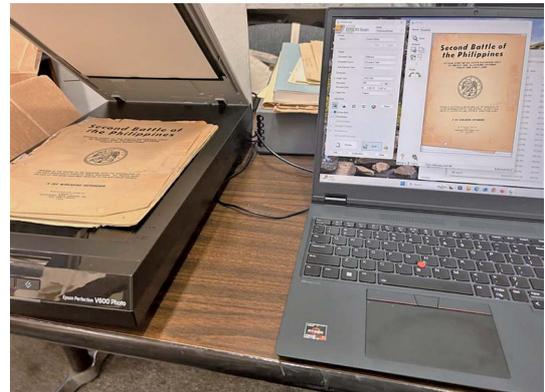
Day7

この日は、NJAHs の来館者の名前と連絡先を

記入した名簿を Excel に入力する作業を行った。筆記体で書かれた文字を読み取るのは普段馴染みのない私には難しく、判別に時間がかかることも多かった。それでも一つひとつ確認しながら入力を進め、作業を行った。単純に見える作業でも正確さが求められ、記録の価値を守るためには細心の注意が必要であることを実感した。

Day8～9

この二日間は文献や資料をスキャンし、電子化する作業を担当した。古い資料は紙の劣化が進んでおり、保存には限界があるため、デジタルアーカイブ化は必要である。スキャンしたデータを整理し、正しい形式で保存することで、NJAHs の収集・保存・展示活動に広く活用できる基盤が整うことを学んだ。



作業の様子

さらに収蔵庫を見学し、戦時中に実際に使用されていた水筒、軍靴、軍帽、軍服、日用品などを見せていただいた。摩耗した靴底や使い込まれた布地には、当時の人々の生活の跡が残っており、当時の歴史がものから伝わってきた。



戦時中実際に使われていた衣服

実物を目にして、文字や映像の資料では伝わらない臨場感と重みを強く感じた。また、この日には日本町（Japantown）を案内していただく機会もあり、商店街や文化施設を歩いた。Japantownは再開発によって、多くの建物や住民が失われたという歴史を学び、同時に地域がいまも祭りやイベントを通じて文化を受け継ごうとしている姿を知った。地域社会の現実に触れることができた体験であり、コミュニティを維持することの難しさや大切さを考えさせられた。



Japantown

Day10

最終日は MIS に行き、清掃業務を担当した。展示スペースをきれいに保つ作業は一見単純に見えるが、実際には来館者が快適に過ごせる環境を整えるうえで欠かせない役割であると強く感じた。小さな気配りや地道な作業の積み重ねが、展示全体の印象を左右することを体感できたのは貴重な経験であった。その後、スタッフの方に周辺を案内していただき、建物の歴史や地域に根付いた背景についても詳しく学ぶことができた。単なる施設見学ではなく、当時の人々の営みや地域社会との結びつきに思いを巡らせる機会となった。こうしてこれまでの活動を振り返りながら、現場に直接関わることの重みと責任を改めて実感した一日は、自分にとって実習全体を締めくくるにふさわしいものとなった。

5. 学びと気づき

研修を通して、自らの英語力不足を痛感したが、現地スタッフとの会話や英語要約の実践を重ねる中で、要点を掴む力や文脈を理解する力が少しずつ向上した。また、単純に見える作業でも正確さが不可欠であり、それが歴史や情報の価値を守ることに繋がると学んだ。さらに、アメリカの働き方や文化の違いを肌で感じる中で、「違いを受け入れ、適応する力」の大切さを実感した。

プログラム前はグローバル人材を「外国語で意思疎通できる人」と考えていたが、実際の経験を通じて「自分の意見を明確に伝えられる人」こそが真のグローバル人材であると認識を改めた。

6. おわりに

本プログラムで得た最大の収穫は、異文化に身を置くことで自身の課題と可能性を明確にできたことである。英語で思うように伝えられなかった悔しさは、今後の学習意欲をさらに高める原動力

となった。将来は、英語に限らず他言語でも意見をでき、異なる文化的背景を持つ人々と信頼関係を築ける人材を目指したい。

最後に、今回の研修を受け入れてくださった NJAHS の方々、そしてプログラム全体を支えてくださった先生方や ALICE の皆様に感謝する。多くの方々の支えがあったからこそ、この貴重な経験を得ることができた。本経験を糧に、今後も挑戦を続けていきたい。

グローバル人材育成プログラムを終えて

麻田 滉太
Kota ASADA



知能情報メディア課程 3年

1. はじめに

8月14日から9月1日まで、アメリカのカリフォルニアで活動しました。現地到着後4日間、企業、大学見学およびキャリアセミナーを行い、その後2週間、ホストファミリーにお世話になりながら、実習先で実務研修を行いました。

| 2025 藤谷大学理工学部 グローバル人材育成プログラム日程表 学生8名+先生1名 | | | |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日付 | 食事 | 時間 | 詳細 |
| 8/14(木) | 朝・昼・晩 | | SFO空港到着-サンフランシスコツアー |
| | | 16:55 | サンフランシスコへ渡来 UA034 |
| | | 10:55 | サンフランシスコ国際空港到着 |
| | | 12:00 | サンフランシスコ市内見学 専用車にて観光名所サンフランシスコ市内へ、 フィッシャーマンズウォーフ、ゴールデンゲートブリッジなどを見学します スタッフがサンフランシスコの歴史や文化についてお話しします *ゴールデンゲートブリッジやフィッシャーマンズウォーフでは地元の方言、観光客にインタビューする 機会を有し、移動のバスの中で実施させていただきます。 |
| | | 17:00 | ホテルにチェックイン手続きを行います Ramada Sunnyvaleを予定 |
| | | 17:20-17:40 | キックオフミーティング 研修の目的・目標をシェアしましょう |
| | | 18:00 | 夕食 |
| | | 8/15(金) | 朝・昼・晩 |
| 9:30 | 朝食を済ませてロビーに集合します | | |
| 10:00-11:00 | 企業訪問 Oscie 社員の方から、会社について、アメリカの働き方などのお話を聞きます。 【ゲスト詳細】 https://docs.google.com/file/d/7d5p04eLN0DY7nslLPUuJYQ1x2FSm9z2/view?usp=sharing | | |
| 11:00-11:45 | Meta Store Meta社 (@Facebook) が2022年にオープンした一歩、VRを体験したり、オーディオを楽しめる ウェアラブル眼鏡など、最新のテクノロジーを使ったアイテムを試してみよう | | |
| 12:00-13:00 | ランチ オラル社食 | | |
| 13:30-14:31 | INTEL 本社 インテル博物館 世界的な半導体メーカー「インテル(Intel)」の本社を訪問し、「インテル博物館」を見学します。博物館では、コンピュータやスマートフォンなどに使われている「半導体チップ」がどのように作られるのか、最新の技術が使われているのかを学ぶことができます。最新の製造工程の模型や展示、最新のコンピュータやチップもあり、テクノロジーの進化について楽しく体験できます。 | | |
| 15:30-16:00 | Apple 本社 ビジネスセンター アップルの新本社、アップルパークを訪問。館内の様子やエネルギー循環システムをシミュレート で体験。 アップルストアでお土産も購入できます。 | | |
| 16:15 | ホテル到着 | | |
| 16:20-17:00 | インターンシップ オリエンテーション インターンシップに取り組み始める際の注意点を、 活動地の確認などを行います | | |

| | | | | |
|-------------------|-----------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 8/16(土) | 朝・昼・晩 | | スタンフォード大学学生交流・企業訪問 グローバルキャリアセミナー | |
| | | 9:30 | 朝食を済ませてロビーに集合します | |
| | | 9:50 | シリコンバレー発祥の地 ヒューレット・パッカードのガレージ見学 | |
| | | 10:00 | アップル創始者 スティーブ・ジョブズの家 | |
| | | 10:15-10:45 | スタンフォード大学で学びたい企業・学校 実際のクラスの見学はございません | |
| | | 11:00-12:00 | スタンフォード大学の仕組みによるキャリア支援 スタンフォード大学の学生と一緒にキャンパスを案内し、施設を見て回ること、キャンパスの歴史や大学の雰囲気を感じることでも貴重な機会です。 | |
| | | 12:00-12:30 | 交流懇話会 スタンフォード生と一緒にランチを食べながら質疑応答 | |
| | | 12:45-13:45 | スタンフォード大学ブックストア 自由時間をとりますので、人気のスタンフォード大学限定グッズを購入できます | |
| 14:00-14:50 | ホテルへ移動 休憩 | | | |
| 8/17(日) | 朝・昼・晩 | | シリコンバレー見学/ビジネス交流イベント | |
| | | 9:45 | 朝食を済ませてロビーに集合します | |
| | | 10:00-10:45 | Google本社 Google pixelを体験します | |
| | | 11:10-12:10 | コンピュータ歴史博物館見学 シリコンバレーとコンピュータ開発の歴史について説明を聞きます | |
| | | 12:30-14:00 | ビジネス交流会 お昼でランチを食べながら、ゲームなどのプログラムで交流を深めましょう | |
| | | 14:00 | ホストファミリーと一緒に散歩。 または専用車で各ファミリーへ移動します | |
| | | 8/18(月) ~ 8/22(金) | 朝・昼・晩 | --- |
| | | 8/23(土) ~ 8/24(日) | 朝・昼・晩 | --- 休日自由行動 各自移動 |
| 8/25(月) ~ 8/29(金) | 朝・昼・晩 | --- | | |
| 8/30(土) | 朝・昼・晩 | --- 休日自由行動 各自移動 | | |
| 8/31(日) | 朝・昼・晩 | 8:30 | サンフランシスコに集合 ホームステイから空港まで、ホストファミリーまたはICF担当者が送迎します。 ※各自の荷物とパスポートを一緒に持参してください。 | |
| 9/1(月) | 朝 | 14:50 | 関空空港まで | |

*雨天等やむを得ない事由により、観光ポイントや旅行日程が変更となる場合があります

*会社訪問・社内見学は、ご協力頂く社員の方のご都合により、当日変更または実施できない場合もあります。
あらかじめお約束した企業・見学先、訪問先は訪問先を調整して実施いたします。

図 1.2.3 プログラムの日程表

2. プログラムの目的

私は「グローバル人材とは何か」という問いを胸に、19日間のグローバル人材育成プログラムに参加しました。IT系の学問を専攻する私が、なぜ民間航空機整備会社での実習を選んだのか。それは、日本とは異なる米国の文化、特に個人が飛行機を所有する文化に深く興味を抱いたからです。この文化の背景にある技術や人々の価値観を理解することが、このプログラムの大きな目的でした。私はこの実習とIT企業訪問を通じて、専門知識の応用力、異文化対応力、そして未知の状況における問題解決能力を向上させたいと考えていました。本稿では、プログラム全体を網羅的に報告します。

3. ITの学び

○シリコンバレーでの訪問

プログラムの冒頭4日間で、私は世界のテクノロジーを牽引するシリコンバレーのIT企業を訪問しました。Oracle、Meta、Intel、Appleといった企業での説明や施設見学は、私に大きな刺激と深い学びをもたらしました。普段、大学で学んでいるAI、AR/VR技術、半導体の進化といった最先端技術が、現実世界でどのように応用され、未来を創造しているのかを目の当たりにしました。特に印象的だったのは、アメリカでAIに関する研究をされている方が語った「なぜ？」を問う姿勢の重要性でした。この言葉は、その後のインターンシップでの私の行動や思考を大きく変えるきっかけとなりました。

4. 実習での学び

○実習先の概要について

会社名：Norcal Aviation Services Inc.

私がインターンシップに参加したのは、サンノ

ゼのリード・ヒルビュー空港（Reid-Hillview Airport）に拠点を置く民間航空機整備会社であるNorcal Aviation Servicesです。

この企業は、年次点検、100時間点検、50時間点検といった定期点検に加え、エンジンの圧縮チェック、オイル・フィルター交換、スパークプラグの清掃・調整、車輪軸受（wheel bearing）の清掃・点検・再梱包、航空機のシステムチェック、そしてSTC（Supplemental Type Certificate）の取り付けなど、多岐にわたる整備サービスを提供しています。ビーチクラフト、セスナ、パイパー、シーラス、ムーニー、ダイヤモンド、ヤコブレフ機といった様々な機種に対応しています。実習初日から現場での実務に触れる機会をいただき、座学だけでは得られない貴重な経験を積むことができました。

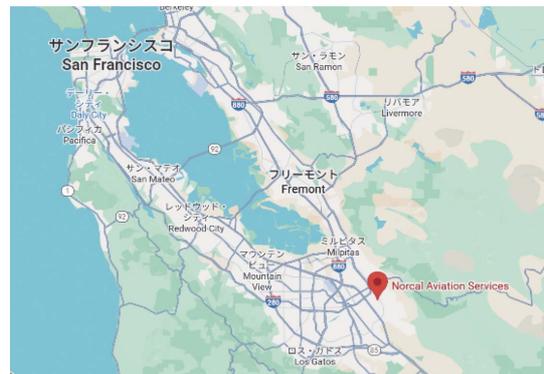


図4 実習先の位置情報



図5 会社のロゴ

○基礎整備と主体性

インターンシップは、言語の壁や慣れない作業

に戸惑うことから始まりました。しかし、「まずは自分から挨拶しよう」と決意し、積極的に話しかけたことで、セスナ機のプロペラやエンジン回り、そしてタイヤ周りの整備作業を任せてもらえるようになりました。機体清掃は単純な雑用に見えますが、実は機体の細部まで観察し、亀裂や損傷がないかを確認する重要な点検作業であると教わりました。こうした些細な作業の一つひとつが、いかに航空機の安全運航に直結しているかを学び、責任感を持って取り組むことの重要性を理解しました。

○応用作業と安全管理

実習後半は、より専門的で複雑な作業に挑戦しました。エンジンの取り付け作業では、チームで声掛けをしながら、ミリ単位の調整を行う精密な協調作業を経験。言葉や文化が違っていても、互いに意見を出し合い、協力して困難を乗り越えることの重要性を痛感しました。また、タイヤ整備ではセーフティワイヤーによる二重固定など、徹底した安全管理の重要性を学びました。

○飛行体験とプロ意識

セスナ機に搭乗し、別の空港へ向かう体験もしました。飛行前チェックや、飛行中の周囲の確認など、幾重にもわたる安全確認を目の当たりにし、空の上での事故がいかに危険かを痛感しました。そして、普段の些細な作業が、飛行機の安全な運航に直結していることを再認識しました。



図6 ホストカンパニーとの集合写真

5. ホームステイ

○異文化の中での生活

2週間のホームステイでは、職場とは異なるアメリカの生活文化に触れる貴重な機会を得ました。食事の習慣や、家族間のコミュニケーションの違いなど、日本の「当たり前」が通用しない場面に何度も直面しました。しかし、ホストファミリーは私のつたない英語にも耳を傾け、身振り手振りを交えながら丁寧に接してくれました。この経験から、個人の意見を率直に表現し、それを受け入れるオープンな姿勢が、円滑な人間関係を築く上でいかに重要かを学びました。



図7 ホストファミリーとの写真

6. 休日の思い出

実習のない週末は、サンノゼとサンフランシスコの観光をしました。ウィンチェスター・ミステリー・ハウスやミュニシパル・ローズ・ガーデンを訪れ、サンフランシスコでは観光名所を巡りま

した。ウォルト・ディズニー・ファミリー・ミュージアムでは、創造性の源泉に触れ、新たな視点を得ることができました。特に印象的だったのは、大好きなスヌーピーの聖地であるミュージアムを訪れたことです。ホストファミリーの家から往復10時間以上かけて訪れましたが、その苦労を全く感じさせないほど感動的な体験でした。



図8 スヌーピーミュージアムでの写真

7. まとめ

○渡航前後の変化

このプログラムを通じて、私の「グローバル人材」に対する認識は大きく変わりました。渡航前は語学力や海外で働くことだと考えていましたが、それだけではありません。「グローバル人材」とは、多様な価値観を理解し、尊重しながら協調する「多様性への適応力」、未知の状況に対し、

自ら「なぜ？」を問い、解決策を探し出す「主体性と問題解決能力」、そして、自身の専門性を異分野に応用し、新たな価値を創造する「専門性と応用力」を兼ね備えた、総合的な人間力であると確信しました。

○今後の展望

この19日間のプログラムは、私の人生において非常に貴重で、多くの学びと成長をもたらしてくれました。私は今回得た知識と経験を活かし、今後も新しい学びと挑戦を続けていきたいと考えています。特に、IT分野の専門知識を物理的な世界と結びつけ、社会に貢献できるような分野での活躍を目指していきます。



図9 プログラムに参加した仲間たち

◆

VII. 理工インターンシップ(学外実習) I・IIポートフォリオ、 アンケート集計結果

◆

1. ポートフォリオ〈実習前〉集計結果
2. ポートフォリオ〈実習後〉集計結果
3. 報告会・交流会アンケート集計結果

学生には、実習開始前に【ポートフォリオ〈実習「前」〉】を、実習終了後に【ポートフォリオ〈実習「後」〉】を提出してもらいます。

実習前には自分自身を見つめ直し、実習で取り組みたい事や目標を立ててもらいます。また実習後には、どれくらい達成できたかを振り返り、この実習体験を踏まえて、さらなる今後の目標を立ててもらいます。

1. ポートフォリオ〈実習前〉集計結果 ※一部抜粋

各設問に答えながら自分を見つめ直してください。

さらに自身の理工インターンシップに対する目標を考えてください。

実習終了後まで大切に保管し、時々自分自身を客観的に振り返ってください。

2025年度 ポートフォリオ〈実習前〉

■理工インターンシップの受講に際し、自分を見つめ直して下さい

〈自己自身〉について、設問 1～8 (省略)

〈大学生活〉について 設問 9～16 (省略)

〈アルバイト〉について 設問 17～19 (省略)

〈職業観〉について 設問 20～24 (省略)

〈未来の自分〉について 設問 25～26 (省略)

■自己分析を終え、理工インターンシップについて考えて下さい。

I. 実習中、特に気をつけたいことは何ですか？

II. 実習中、積極的に取り組みたいと思っていることは何ですか？

III. 最後にあなたの実習の目標は何ですか？

I. 実習中、特に気をつけたいことは何ですか？

- ◆「報告・連絡・相談」を徹底すること。自分の短所でもある「アドリブが苦手」な点を自覚し、自己判断で業務を進めるのではなく、些細なことでも必ず社員の方に確認し、指示を正確に理解してから行動に移すこと。
- ◆アルバイト中も社会の一員として働いているつもりではあるが、インターンとして実際に働いてみると感じるギャップがあると思うので、失礼に当たらないように社会を知ること。
- ◆メモを取ることで、分からないことは積極的に聞くこと。指示をいただいたのに何度も聞き直すことは実習先の方の時間を無駄に奪うことになり失礼なのでメモはしっかり取り、与えられた仕事で大きなミスを防ぐためにも分からないことがあったら質問をしたい。
- ◆社員の方々の迷惑にならないことを心掛ける。
- ◆失礼のないように且つ、人との距離を取りすぎないようにする。
- ◆実習では、あいさつや報連相など基本的なマナーを大切にしながら、周囲の動きをよく観察し、自分にできることを積極的に探そう心がけたい。現場の方々に迷惑をかけないように、責任ある行動と体調管理にも気をつけたい。
- ◆実習先の方々に出来るかぎり不快感を与えない。
- ◆仕事場にお邪魔させてもらっている意識を常に持つこと。わからないことはわからないと伝え時間を無駄にしないこと。
- ◆期間中に研究を終わらせる。中途半端には終わらせたくない。
- ◆報告の際の担当者や他大学の人がいるので、伝えたいことが伝わるような言葉遣いができるように気をつけたい。
- ◆ビジネス用語や作法に関しては疎いので気をつけていきたい。
- ◆緊張して自分の意見が伝えられないようなことはないようにする。
- ◆自分自身の力に慢心せず、人に頼ることを忘れないこと。
- ◆仕事場での失礼、失敗に気をつけたい。
- ◆時間を無駄にしないこと。学べることは全て学んで帰ってくる。
- ◆マナーや報連相を徹底し、迷惑をかけないようにしたい。
- ◆社会人としての礼儀作法に関して一番気を付けていきたい。
- ◆一度してしまったミスを繰り返さないように気をつけたい。
- ◆分からないことを考えすぎると時間を無駄にすること。
- ◆勤務先の人のご迷惑にならないように一生懸命に学びたい。
- ◆実習生である私のために、社員の方々が貴重な業務時間を割いてくださっているという感謝の気持ちを常に忘れないこと。その上で、業務の進捗や不明点については、適時・的確な報告・連絡・相談を徹底する。
- ◆実習中は「報・連・相」を徹底することを特に意識したい。指導して下さる方々との円滑なコミュニケーションを心がけたい。また、マナーや時間厳守など、社会人としての基本も大切にしたい。
- ◆職場での信頼関係を築くため、報連相を必ず行うこと。
- ◆休憩をとることを忘れないこと。
- ◆礼儀正しく誠実に取り組むこと。
- ◆企業のご厚意でインターンシップを受けさせてもらえることへの感謝を忘れないようにすること。身だしなみや言葉遣い、勤務態度を崩さない。
- ◆インターンシップや実習中は、報告・連絡・相談を怠らず、指示を正確に理解してミスを防ぐことに気をつけたい。また、社会人としての責任感を持ち、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、周囲との円滑なコミュニケーションを心がけたい。
- ◆報連相を怠らないこと。自分でできる事のほうが少ないので抱え込まずに報連相を徹底したい。
- ◆職場では報連相が大切なので、勝手な判断や適当な判断をしないようにしたい。また、時間管理も怠らないようにしたい。
- ◆与えられた情報を漏らさないようにする。
- ◆インターンシップ先の方々にとにかく尊敬の念を持って、誠実に対応することに気をつけたい。
- ◆実習先の機材の扱い。人間関係、特に立場の違う人間とのかかわり。
- ◆働いている方を敬う。迎えてもらっているため、失礼なことをしたくない。

- ◆実習先の方々のお話をよく聞き、考えすぎずに確実に進めていきたい。
- ◆相手への無礼。失敗しても気を落とさず持ちこたえること。
- ◆相手先に失礼のないように、学ばせていただく立場であることを忘れずに実習に取り組みたい。
- ◆実習中は、安全管理と報・連・相の徹底に特に気をつけたい。危険な作業がないか常に意識し、疑問点があればすぐに確認することを心がける。また、些細なことでも積極的に報告・連絡・相談を行い、貢献したい。
- ◆気持ちを切らさない。
- ◆実習先に失礼のないようにすることと実習させてもらっている感謝の気持ちを忘れないこと。
- ◆プロ意識、礼儀、マナー、時間管理、コミュニケーション、情報・個人情報の取り扱い、安全意識、自主性、姿勢、人間関係
- ◆遅刻や欠席をしない。ミスを出来るだけ少なくする。
- ◆指示やアドバイスなどを取りこぼさないように、メモを取る習慣を付けたい。そして、業務の進行の妨げないように注意する。
- ◆社会の中で必須の礼儀を欠かさないこと。
- ◆実習中は、あいさつや礼儀、時間厳守などの基本的なマナーを大切にし、社会人としての自覚を持って行動することに特に気をつけたいと思う。また、分からないことがあったときに曖昧なままにせず、素直に質問し、しっかりと理解してから行動する姿勢を大切にしたい。
- ◆普段学んだことが実際にどう使われているか知る。
- ◆ものごとに取り組む姿勢・態度。
- ◆自分がどんな顔をしているか気に掛けたい。
- ◆失礼がないようにしたい。挑戦をしながらも、迷惑をかけないように一生懸命頑張りたい。
- ◆基本的なマナーや報連相を意識し、安全第一で行動することに気をつけたい。
- ◆龍谷大学の代表という自覚を持ち、失礼のないようにしたい。
- ◆実習先の方たちへの言葉遣いや態度、出勤時刻や身だしなみ。情報管理、安全面。
- ◆責任感を持つ。
- ◆失礼のないように立ち振る舞いや言葉遣いには気をつけたい。話をよく聞いて、その内容をしっかりと頭に入れるように努める。
- ◆担当の人からの指示を聞き逃さないように、メモを取るようにしたい。
- ◆実習先の部品や工具を壊さないように丁寧に扱うこと。担当の方やすれ違う人への気配りや挨拶をきちんと行うこと。
- ◆絶対に遅刻・無断欠勤はせず、清潔感のある身だしなみで、言葉遣いには気をつけたい。そして、教えてもらったことや仕事内容は聞き逃さずメモを取って忘れないように気をつけたい。
- ◆マナーやモラル。
- ◆担当者の説明をよく聞き確実に実行し、分からなければ聞く。やってはいけないことは特に聞いておく。
- ◆礼儀を軽んじないこと。インターシップをさせてもらっている立場であることを忘れない。
- ◆一度言われたことはメモをとるなどして、再び説明してもらうなど迷惑をかけないようにしたい。また挨拶など当たり前前のことは当たり前に行う。
- ◆単純作業でも頑張ること。
- ◆実習先の方々にご迷惑をおかけするような行動は慎むように心がけること。
- ◆どんなことにも前向きに取り組む。事前連絡の期間を過ぎて電話してしまったので、期日までに余裕をもってすべてに取り組む。
- ◆指示されたことをメモし、気になることわからないことがあればすぐに聞きに行くように気をつけたい。
- ◆安全面に気を付け、実習先は大切な時間を割いてインターシップの時間を作ってくださっていることを忘れない。
- ◆実習先で出会う人たちへの礼儀。自分はこの会社の人たちに体験させてもらっているのだという気持ち。
- ◆私は塗料の会社でのインターンシップに参加する予定で、まだ知識も経験も浅く、何もわからない状態からのスタートになるため、「何か役に立とう」と焦るのではなく、まずは人として基本的なことを大切にしたい。会社は人と人とのつながりで成り立っていると思うので、たとえば明るく挨拶をする、感謝の気持ちを言葉にするなど、基本的なマナーや礼儀をおろそかにせず、誠実に実習に取り組むことを心がけたい。
- ◆現場での工程や技術に触れながら、自分の知識との違いや応用を積極的に吸収すること。
- ◆指示をしっかりと理解し、わからないことは素直に質問する姿勢を大切にしたい。嘘をついて曖昧なまま進めるのではなく、誠実に向き合いたい。
- ◆報告・連絡・相談をしっかりと行い、指示を正確に理解して行動することを特に意識したい。また、失敗を恐れ

ずに積極的に学ぶ姿勢を持ち、実務の現場でのマナーや安全意識にも注意を払いながら取り組みたい。

- ◆基本的なマナーや時間を守ること。また、自分から積極的に学ぶ姿勢を大切に、分からないことは素直に質問すること。安全面にも十分注意し、責任を持って行動するよう心がけたい。
- ◆社会のインフラに関わる業務で、自分が失敗しても自分だけの責任ではないことを十分に理解した上で、指示された安全規則や手順を守り、常に意識するように心がけたい。チームでの連携が大事になってくると思うので、些細なことでもわからなければ質問、連絡を行い円滑に業務が進められるようにしたい。社会人として礼儀正しさとマナーを身に付けるため、挨拶や言葉遣い、時間厳

守など意識して過ごしたい。

- ◆集中力とコミュニケーション力。新しい環境に慣れるのに時間がかかってしまい、それが作業の進み具合に影響が出る。だからこそ、集中して取り組むことと、周囲の人と積極的にコミュニケーションをとって早く環境に慣れるよう努めたいと思っている。
- ◆報告・連絡・相談をしっかりと行うこと。実習では、慣れない環境や初めての作業が多くなると思うので、自分一人で判断せず、わからないことやミスしそうな場面ではすぐに相談することを大切にしたい。また、進捗や状況をきちんと伝えることで、信頼関係を築くことにもつながると思う。

Ⅱ. 実習中、積極的に取り組みたいと思っていることは何ですか？

- ◆ただ言われたことをこなすだけでなく、「なぜこの作業が必要なのか？」を考え、もし改善点などがあれば、臆せず提案してみたい。また、社員の方々や他の実習生とコミュニケーションをとり、自分の課題である「社交性」を高める機会にもしたい。
- ◆その業界について、学ばせていただけるシステム、社会人としての人とのかかわり方を知りたい。
- ◆実際に働いている方々と関わる。関わることで職場の雰囲気を感じ、仕事に対する価値観や考え方を学びたい。これはインターンシップ期間中でしか体験できないので積極的に取り組みたい。
- ◆資料の作成や社員の方へのアシスト、配慮など、社会人の入門のようなものにチャレンジしていきたい。
- ◆自分で決めた研究テーマに対して納得のいく結果を出すこと。
- ◆どう振る舞えば社会人らしい動きができるかを学んでいきたい。
- ◆実習では、現場でしか得られない実践的な知識や対応の仕方を積極的に吸収したいと考えている。特に、大学では学べない現場の空気や流れ、人との関わり方を意識して学び、自分にできることを一つひとつ増やしていきたい。
- ◆実際に企業で働く人の様子を具体的に知るために、周りに目を配りたい。
- ◆説明会やインターネットで調べただけでは得られない会社の雰囲気や仕事の内容を体感、理解すること。
- ◆複雑系に関する知識は少ないので、インターンシップ中

の研究を通してできるだけ身に付けたい。

- ◆自分の興味あるテーマを研究するので、それについて深く追求し他者と意見交換をとることで、より深い面白さを発見することができると思うので意見交換も積極的にしたい。
- ◆授業で学んだプログラムがどのようにして使われるか知ることと、システム開発工程について実際どのような流れでしているのか実務を通して理解したい。
- ◆会社の方との会話やコミュニケーションをちゃんととる。
- ◆プログラミングなどを使用したグループワーク。
- ◆元気な挨拶
- ◆積極的に質問をして、現場でしか学べないことを学んでいきたい。
- ◆社員の方とコミュニケーションを取りながら、社会人に必要な実務のスキルや考え方を身につけたい。
- ◆実際に働いている SE や PG の仕事を間近で見ることのできる機会なので、どのように仕事に取り組んでいるのかを学ばせてもらいたい。
- ◆他人から見た短所で、はきはきさが足りないと言われたので、はきはきと話すことに取り組みたい。
- ◆プログラミング演習
- ◆画像処理装置の実習をするので、それを積極的に取り組みたい。
- ◆現場で使われている技術と自分の知識がどれほど離れているのか確認し、スキルアップを目指し、理解を深めたい。

- ◆特に大学では学べない実務的な知識などを積極的に身に付けたい。わからないことは積極的に質問し、失敗を恐れずにチャレンジしていきたい。
- ◆規則正しい生活の上、実習で知りえる経験値をしっかりと積んでいくこと。
- ◆習ったことを理解し、できなければ質問することで、自分のものにする。
- ◆聞いて経験して、そこでしか得られないことを得ること。
- ◆社員の方々との交流。仕事を現場で理解する。
- ◆わからないことや疑問点を積極的に質問し、今後につなげていけるようにしたい。
- ◆実際の業務を通じて知識やスキルを身につけたい。また、本当の社会人の一員としての立ち振る舞いについても学びたい。
- ◆Arduino などの機器を使った製品開発の上流工程から下流工程までを積極的に学びたい。
- ◆実習系
- ◆わからない部分は積極的に質問し、実際の業務内容やそれに必要な技術を学びたい。
- ◆技術に対する理解とそれに準ずる他の実習生との意見交換。
- ◆人見知りせず、積極的に挨拶をすることに取り組みたい。
- ◆社内での人間関係の形の観察。
- ◆実験などがあれば積極的に取り組んでいきたい。
- ◆会社内でしか出来ないことをさせていただく。現場の声をたくさん聞いて、自分のやりたいことを細かく分析する。
- ◆自ら考えた意見を主張し積極的に会議に参加したい。
- ◆インターンシップでお世話になる人たちとの交流（質問や世間話）。また、大学で学んだことがどこでどのように使われているかを注視すること。
- ◆企業ではどんな仕事が行われているか、実際に感じたい。
- ◆オリジナルの製品を作る機会を設けていただいているため、積極的に自分の案を出して参加したい。
- ◆意見を言う場面では自分の意見をしっかりと伝える。
- ◆理系職はどのような作業を行うのか、可能な限り様々な分野の仕事内容を学ぶこと。
- ◆実習中は、与えられた課題だけでなく、自ら課題を見つけて解決策を提案することに積極的に取り組みたい。分からないことは臆せず質問し、能動的に知識を吸収し、チームの一員として、周囲と協力しながら目標達成に貢献できるよう努める。
- ◆自分からできることを探すこと。
- ◆大学では学ぶことができないことを1つでも多く吸収すること。
- ◆挨拶、自己紹介。「今、何かできますか?」を繰り返す。提案、改善、質問、メモ、感謝の気持ち。
- ◆受け身ではなく、自分から仕事や課題に取り組もうとする姿勢を見せていきたい。
- ◆業務内容を理解し、現場での作業補助などを積極的に取り組みたい。
- ◆実習担当者様に積極的に質問し分からないことは放置せず、解決するように心がけたい。より実践的で充実した実習期間にしたい。
- ◆3DCAD 等専門知識を実践的に磨くこと。
- ◆積極的に取り組みたいことは、現場で働く社員の方々の姿勢や仕事の進め方をよく観察し、吸収することである。実習を通じて、教科書だけでは学べない仕事の現場で必要とされる考え方や実際のチームでの動き方を学びたい。
- ◆実際の現場ではどのような工夫がされているか。
- ◆部品の設計・加工
- ◆システム開発について積極的に学びたい。
- ◆周りを見て多くの情報を収集したい。
- ◆指示されたことをしっかりやり遂げたい。慣れて少し余裕ができたなら、自分で+a を考えて行動したい。
- ◆目上の方々とのコミュニケーション
- ◆周りをよく観察し、積極的に関わり、わからないことは積極的に質問して学ぶ姿勢を持つ。
- ◆人間関係の構築
- ◆自分から積極的に学ぶ姿勢を持つこと。そして、わからないことがあればどんなことでも聞いて、自分の力に変えていきたい。
- ◆だらしない姿勢ではなく、正しい姿勢で過ごすようにしたい。自分から気になるところを学びに行くようにしたい。
- ◆上からの指示を待つのではなく、自分からできることをしたり、質問したりして、自ら考えて主体的に行動できるようにになりたい。また、社員の方々とあいさつや会話などのコミュニケーションをとって、交流を深めていきたい。
- ◆先輩社員の話を聞く。
- ◆社員に色々質問を行ったり、やるべき作業を真剣に行うこと。

- ◆質問やアドバイスを積極的にもらいに行くこと。
- ◆実際の現場ではどのような実験・研究をされているのか体験したい。
- ◆業務内容や注意点を毎日まとめ振り返り、日々成長したい。
- ◆社員の立場に立てる貴重な機会なので、会社における働き方や人との関わりについて学びたい。
- ◆アドバイスや指摘は自分のためになると思って素直に受け入れたい。仕事についてわからないことはためらわずに聞きたい。仕事内容について興味の持てたことは積極的に話を聞きたい。
- ◆仕事内容を覚え、吸収すること。
- ◆主な実習内容の射出成形や分析に取り組み理解したい。
- ◆他大学と共同で行うので、その人たちとも話していきたい。
- ◆自分の知らない知識を学びたい。
- ◆社会人に求められること、心構え。
- ◆自ら考え、疑問を疑問のままに残さない。
- ◆実習中は、わからないことがあっても積極的に質問し、理解を深めることに努めたい。実務を体験する貴重な機会なので、受け身にならず、自ら進んで業務に関わり、知識やスキルを身につけたい。また、チームの一員としてコミュニケーションを大切に、周囲の方々から学びながら、円滑な業務遂行に貢献できるよう積極的に行動したい。
- ◆現場での工程や技術に触れながら、自分の知識との違いや応用を積極的に吸収すること。
- ◆実際の職場でどのような工程や役割分担が行われているのかを、自分の目で見て学びたい。また、少しでも役に立てるよう、自分から動いて学ぶ姿勢を持ちたい。
- ◆分からないことを自分から質問し、実際の業務を体験する中で社会人として必要な姿勢やスキルを身につけてい

きたい。また、実習先の方々との関わりを通じて、コミュニケーション力を高めていきたい。

- ◆実際の製品開発や評価の現場に触れることで、大学で学んだ化学の知識がどのように活用されているのかを実感したい。特に、顔料や樹脂の選定、耐久性・環境対応など、塗料に求められる多様な性能について理解を深めたい。
- ◆測定や分析。
- ◆実習では興味のある業務には自分から積極的に関わりたい。周囲の仕事も観察し、自分にできることを見つけて行動する。また、実際の現場を通して、働く姿勢や考え方も学びたい。
- ◆実習中に自分には何ができるのかを常に考えて行動し、専門的な知識や技術を身につけたい。現場で働く社員の方々との交流はインターンならではの学びの機会になるため、積極的にコミュニケーションを取り、働く上での専門知識、仕事のやりがい、社会人として必要なことを学びたい。
- ◆主にはコミュニケーション。これは、わからないことをそのままにせず積極的に質問や確認をすることであり、自分から周囲の人とコミュニケーションをとり、チームの一員として協力しながら経験を深めていきたいと思っている。
- ◆業務内容を深く理解し、分からないことは自分から質問して積極的に学びたい。
- ◆実習中は、「分からないことをそのままにせず、自分から積極的に学ぶ姿勢」を大切にしたい。現場では、授業で学んだ知識だけでは対応できないことも多いからこそ、目の前の業務や先輩の動きをよく観察し、「なぜこうするのか？」を自分なりに考えたり、積極的に質問したりすることで、実践的な力を身につけたい。

Ⅲ. あなたの実習の目標は何ですか？

- ◆企業における技術者の役割と責任を、実体験を通して理解すること。大学で学んだ知識が、実際の現場でどのように活かされ、製品として世の中に貢献しているのかを肌で感じたい。
- ◆社会人として恥じない行動、精神を学び、学業で学んできたことが事業内容にどう活かしているかを知り、今後役に立てること。
- ◆自分の強みを見つけること。与えられた仕事を自分で行

い体験することで自分のできることを見つけ、逆に自分に足りない部分を見つけることによって今後自分のやりたい仕事を見つける時の判断材料の一つになればと考えている。

- ◆企業の方々に役に立ったと思わせるアクションを起こすこと。
- ◆大学での学びをどのように生かすことができるのかを知ること。

- ◆一度本物の職場を見て、何も知らない考えをアップデートすること。
- ◆実習では、情報を活用している現場がどのように機能しているのかを体感し、システム開発の流れやチームでの進め方について学ぶことを目標としている。現場の雰囲気や働く方々の姿勢を実際に見ることで、将来の働き方のイメージを具体的にしたい。
- ◆最後まで無事に終える。
- ◆会社の一員として働くことの責任を体感する。
- ◆複雑系に関する知識は少ないのでインターンシップ中の研究を通してできるだけ身に付けたい。
- ◆自分の興味のある職業を実習できるので、実際に体験し自分に合っているのかを確認すること。
- ◆最終的には自分が約1年半後どのようにして働いているか想像ができるようになって、このインターンを通してさらに求められる人材を知り、自分に足りない物は何か把握し少しでも近づけるようになること。
- ◆これまで学んできたことを生かし、社会に通用する人間になる。
- ◆将来をより明確にすること。
- ◆スキルの向上や専門的な知識をしっかりと学ぶこと。
- ◆実際の業務などを体験しながら、自分が目指したい業界を探すヒントを得ること。
- ◆実習を通して業務の理解を深め、自分自身の成長を実感しながら将来のイメージを具体的に考えられるようになること。
- ◆貴重な経験なので少しでも働くことについて学ぶこと。
- ◆業界について詳しく知ること、働くとはどういうことなのかを理解すること。
- ◆社会人として働くイメージを持つことと、「もの作り」の企業の雰囲気を感じ取って今後の就活に生かすこと。
- ◆実習で学ぶことができた実習後に自信を持って言うようにしたい。
- ◆自分が今学んでいることがどのように使われているのかわかることと、いずれ社会人になるのでそのために少しでも社会人の方たちと接して社会を学ぶこと。
- ◆一つでも自分の成長につながることを見つける。
- ◆仕事をすることの辛さやそこで得られる達成感を得て、今後の就職活動に活かせるようにしたい。
- ◆学校での学びが実務でどのように活かされるのかを具体的に理解すること。
- ◆自分の専門知識が実際の仕事の中でどのように活かされているのかを理解し、将来の進路の選択に活かすこと。
- ◆また、社会人として必要な考え方を身に付けることで、自分の将来像をより具体的にしたい。
- ◆自分の興味のある分野での実務経験を通じて、将来の進路選択に活かせる具体的な視野を広げること。
- ◆社会の先取りした経験をしっかりと得ること。
- ◆実際の仕事の難しさなど、仕事のリアルな部分を知ること。
- ◆たくさん学んで、何事もなく無事に実習を終えること。
- ◆実習で今後のキャリアに役立てることを学び取る。
- ◆社会人としてのビジネスマナーを学び、実際にできるようになること。
- ◆実際の業務を通して専門知識やスキルを身につけることはもちろん、社会人としての責任感やコミュニケーション能力を高めること。これを通じて、自分の成長につなげたい。
- ◆自分のキャリアアップをすること。その中で、関わって下さる方の時間や給料、労力を割いていただいているということを再度自覚し、それに対して少しでも還元できたらいいなと考えている。
- ◆社会を知り、礼儀を知り、大人へと近づくこと。
- ◆これから社会人になるにあたって、基礎的な姿勢を身につけながら、将来の進路を具体的にみつけるきっかけとすること。
- ◆働くことの実態を知り、今後の就職活動に活かす。
- ◆実習を通して、長時間の勤務に対する向き合い方を学び、実習内容から技術を得て成長すること。
- ◆業界への解像度の上昇。社会での人間関係を正しく認識する。
- ◆社会で一社員として生きることがどのようなものなのかをしっかりと学ぶこと。
- ◆自分のやりたいことを明確に固める。ここでしか体験できないことをたくさんさせてもらって経験を積む。
- ◆自分の強みや弱点を、実習させていただくことで改めて分析しつつ、実習先の会社様のお役に立てるよう頑張りたい。
- ◆大学生活やアルバイト、普段の生活との違いに気づき、社会であるべき姿をインターンシップの企業先の社員の方々から学習し、身につけること。
- ◆機械加工に携わり、設計や製作を行うことのやりがいを見つけること。
- ◆自分が将来働きたい分野を定め、実習先の方々にこの人と一緒に仕事をしたいと思ってもらう。
- ◆機械系の職業とは、今まで学んだことがどのように活か

- されているのか体験して、今後の進路に役立てること。
- ◆座学で学んだ知識を実践で活かし、現場を肌で感じる。将来ロボット産業で働く上で必要なスキルや心構えを習得したい。この実習を通じて、自身のキャリアに対する理解を深め、将来の目標をより明確にしたい。
 - ◆社会に出て働くということを感じる。
 - ◆社会人の一端に触れ人間として成長すること。
 - ◆大学で学んでいることがどのように活かされているのを知り、立派な社会人になるために様々な知識や技術について学ぶこと。
 - ◆すべての人が笑顔で働けるように過ごすこと。
 - ◆コミュニケーション能力の向上と問題解決力の強化。
 - ◆自分自身の課題を発見すること。
 - ◆社会人としての全般的なスキルを身につけること。また、社内の雰囲気や肌で感じ現場への理解を深めること。
 - ◆実習を通して将来自分が就きたい仕事や、職種のビジョンを鮮明にする。
 - ◆社会人としての基本姿勢を身につけるとともに、自分の将来像を具体的に描けるようにすること。実際に働く現場を見ることで、大学での学びがどのように活かされるの理解し、自分にどのような力が足りないのを知り機会にしたいと思う。
 - ◆実習先を通じて世界を知り必要なものを知ること。
 - ◆専門的な業務を理解する。
 - ◆部品の加工技術について学ぶこと。
 - ◆建築業界について詳しく学びたい。
 - ◆次につながるような学びを得ること。
 - ◆今後のインターンのために、インターンや働くことがどういうことか、会社の雰囲気や仕事の大変さなど学びたい。
 - ◆本格的な社会経験をして、将来に活かす。
 - ◆学校で学んだ知識や理論を実際の現場で実践し、理解を深めること。
 - ◆自身の能力が社会でどのように役に立つかを知る。
 - ◆実習先での経験を通して、自分がつきたい職業の輪郭をつかむこと。また、仕事とはどんなものなのかを実際に体験して、将来働くときに役立つような実習にする。
 - ◆正しい姿勢を保つ。礼儀を意識する。担当者からの聞き逃しがないように、メモを取る。大学の授業で学んだことを実習でも活かす。
 - ◆実習先の方に好感を持ってもらえるよう行動する。
 - ◆大学で学んだことが企業でどのように活かされているの

- かを知り実践的なスキルを磨く。そして、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を磨いて、社会人として必要なスキルを身に付ける。また、実習を通して、自分のやりたいことは何なのかを明確にする。
- ◆会社の方とコミュニケーションを取り好印象だと思ってもらうこと。
 - ◆実習を通して、アルバイトではなく実際に社員として働くときの心構えなどについて学ぶ。
 - ◆遅刻しない
 - ◆研究、開発とは具体的にどのようなことを行うのを知り、今後のキャリアに生かせる知識を得る。
 - ◆実際の研究現場での実習や研究者として働かれている方との交流を通じて、研究における知識や技術を身につけること。
 - ◆言われたことだけを仕事としてやるのではなく、興味を持って行動し積極的に質問することで今後役立つスキルを身につけたい。
 - ◆単位取得
 - ◆業務などを通じて、自分にはどのような仕事に向いているのか将来設計を考える。
 - ◆まだまだ自分を中心に世界が回っているという考え方をしていると思うから、人として成長したい。
 - ◆開発型企業の取り組みに触れることで、少しでも研究所で何をしているのを知り、今後の研究やキャリア形成に新たな視点で得た知識を役立てたい。
 - ◆実習を通して業務内容や業界の他に、社内の雰囲気や社風を感じる。
 - ◆社会に出て恥ずかしくない人間になる。
 - ◆この実習を通して研究職の現実を知り、将来のビジョンを明確にすること。
 - ◆会社の雰囲気に慣れる。
 - ◆実際に企業を見て、仮社会人としてその様子を体験すること。
 - ◆研究職について知り今後のキャリアに役立てる。
 - ◆職場での礼儀を学ぶことと、社会ではどのような機材や試薬などを利用して製品を開発しているのを知ること。
 - ◆実際に働く現場で社会人としての基本的な姿勢やマナーを身につけること。職場でのコミュニケーションや責任感、チームワークの重要性を学び、実務を通して自分の成長につなげたいと考えている。この経験を通して、今後の自分の働き方や考え方の基盤を築き、将来に活かせる力を身につけたい。
 - ◆技術者としての姿勢や現場でのリアルな課題を知り、自

分に必要な力を具体的に見つけること。

- ◆インターンシップを経て、4年生の1年間をどのように過ごしたらいいか、見通しを持てるようになること。
- ◆将来自分が働く姿を具体的にイメージできるようになること。そのために、職場の雰囲気や仕事内容をできるだけ深く知り、今後の進路選択に活かしていきたい。
- ◆実習先で学んだことを活かして、自分に合った業界や職種をさらに深めること。また、報連相や時間を守ること、身だしなみを整えると言った社会人として当たり前のマナーを学び、自分自身に何が足りていないかを考えるきっかけにしたい。
- ◆報告・連絡・相談をしっかりと行い、指示を正確に理解して行動することを特に意識したい。
- ◆大学で学べない内容のため、そのスキルを身につける。
- ◆今までは経験したことのない社会勉強をすること。
- ◆実習を通して自分の興味や適性を見つめ直すこと。現場での経験を通じて、働くことへの理解を深め、将来の進

路選択に役立つ学びを得たい。

- ◆インターンシップを通して、社会人になることへの意識を持つ。社会人として求められる責任感、チームで働く上での規則、コミュニケーションの重要性を感じること。
- ◆職場の環境に早く慣れること、コミュニケーション力やチームワークを向上させること、そしてできるだけ多くの化学の知識を学ぶこと。
- ◆経験を通じて自分の強みと課題を知り、将来に活かせる学びを得ること。
- ◆現場の仕事を実際に体験し、自分に必要な力や課題を見つけること。授業で学んだ知識が、実際の仕事の中でどのように活かされているのかを体感しながら、社会人として必要なコミュニケーション力や責任感も身につけたい。また、自分の興味や適性を見つめ直す機会にし、今後の進路選びにもつなげたい。

2. ポートフォリオ〈実習後〉集計結果

実習終了後まで大切に保管し、時々自分自身を客観的に振り返ってください。

実習を終え、受講前に自分なりに設定した目標について、どの程度達成できたかを振り返ると同時に、今後の大学生活において、どのようなことに取り組んでいきたいかを考えてください。

2025年度 ポートフォリオ〈実習後〉

実習を振り返って、自分の思いを自由に書いて下さい。

問1. 実習前、積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組みましたか。

取り組めた 取り組めなかった (どちらかに○印をしてください)

またどのような点で、そのように感じましたか。

()

問2. 実習前に定めたあなたの実習の目標はどのくらい達成できましたか。

十分達成できた ほぼ達成できた ほとんど達成できなかった

(いずれかに○印をしてください)

またどのような点で、そのように評価をしましたか。

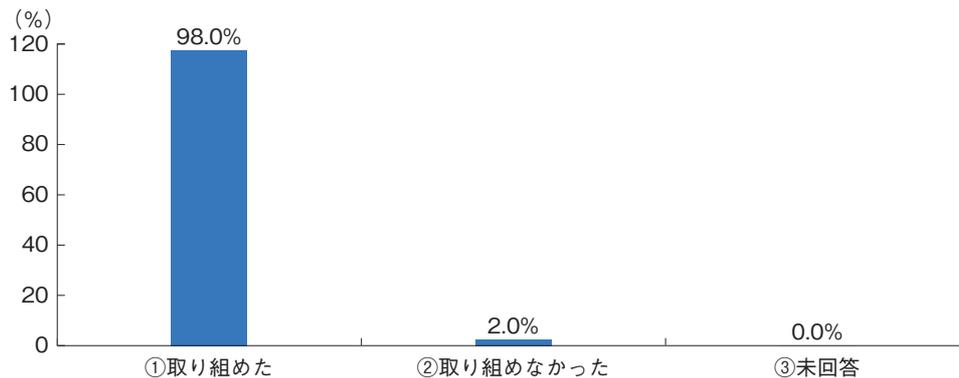
()

問3. 実習の体験をふまえて、今後どのような学生生活を過ごそうと思いますか。

()

問 1. 実習前、積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組みましたか。またどのような点で、そのように感じましたか。

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | 全 体 | |
|-----------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| ①取り組みました | 9 | 100.0% | 10 | 90.9% | 21 | 100.0% | 31 | 96.9% | 24 | 100.0% | 4 | 100.0% | 99 | 98.0% |
| ②取り組みなかった | 0 | 0.0% | 1 | 9.1% | 0 | 0.0% | 1 | 3.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 2.0% |
| ③未回答 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |



①取り組みました

- ◆今回の実習では、CAD/CAM を用いた製品の設計からプログラム作成、マシニングセンタでの加工、そして加工後の仕上げ作業、さらには品質管理部門での検査業務に至るまで、製品が完成するまでの全ての工程に深く関わることができた。各部署でご指導いただきながら、自ら手を動かし、頭を使って課題に取り組むことができたため、積極的に取り組みたと感じている。
- ◆Access の扱いが初めてでわからないことが多かったが、自分で調べ、インターン生と相談をしながら、自分で課題に興味を持って主体的に取り組むことができた点。
- ◆特に気を付けたいと考えていたことは、メモを取ることとわからないことを積極的に質問することであった。指示をいただいたのに、何度も聞き返すのは失礼だと思っていたので実習中もしっかりメモを取った。またせっかく仕事を任せていただいたのに、ミスをして迷惑をかけたことなく、現場での実習でも、専門的な単語などは積極的に質問し、その結果、実習中は安心して業務に取り組むことができた。
- ◆わからない所は積極的に担当の方に聞き、メモをし、自分なりにまとめたこと。そのまとめた内容を成果発表に

- 含め、発表終了後担当の方に褒めていただいた。
- ◆実習前に意識していたのは、研究の進め方を実際に体験し、自分で考えたテーマをプログラムやシミュレーションを通じて検証することだった。その点については、関連論文を調べ、実際に C 言語や Java でプログラムを実装し、シミュレーションを行うことができた。特に、「ルールを少し変えるだけでゲームの性質がどのように変化するか」を自分の手で検証できたのは、事前の目標と直結しており、自分なりに積極的に取り組みたと感じている。
- ◆社会人と交流を深めてどのようなマナーや振る舞いをすればいいか参考にしようと考えていたので、普段より多くの人と交流をすることに取り組んだ。日常ではこちらから人に話しかけることはあまりしないが、今回の実習では質問や話題をこちらから話かけることが多くできた。
- ◆ソフトウェア開発を行う部署での実習を行った際、予想以上にオフィス内でのやり取りが多かったことなど、外からではわからなかった実際の業務の様子などを知ることができた。
- ◆インターン生の指導をしてくださった方々と会話を重ね

たり質問したりすることで実際に仕事に携わっている方の仕事の具体的な内容や会社の雰囲気を知ることができた点。業務の見学や実務を通して仕事の内容を体感できた点。

- ◆研究について、自分の研究テーマに関して積極的に様々な論文を査読し、その分野の知識を身に付けられた点。
- ◆毎回の報告会でその日にしたこと気づいたことや分からないことを共有し、担当者から意見をもらいより深い理解をすることができた。
- ◆私が就職したいと思っている会社がシステム開発ということもあり、プログラムのコードを書くだけでなく要件定義などほしいたいと考えていたのでそれができて良かった。
- ◆わからない点があれば、すぐに聞き積極的な姿勢を示すようにした。挨拶や言葉使い、対人関係はまだ未熟ではあるが、知らなかった常識を教えてください実践することができた。
- ◆インターン生が全員で自分含め11人いたが、それぞれの人たちと交流を深め、互いに助け合うことができた点。また、実習中に課された課題でも、最後まで意欲を高く持ち取り組めた点。
- ◆インターンの実習の中の課題で分からない部分を逐一聞いた点。
- ◆「機会があれば社員の方に積極的に質問をする」という目標に対して、作業内容に関することや進路選択に関することについて何度か質問できたことから目標を達成できた点と考える。作業内容については授業で学んだことをより発展させた内容について教えていただき、進路選択については同じ課程出身の先輩方から様々なアドバイスをいただくことができた。
- ◆ネットワークの仕組みを実際に設定や確認を通して学んだことで、想像的な理解から実際の業務に近い形で知識を捉えることができた。また、通信がうまく通らないときに原因を考える経験を通じて、単に覚えるのではなく応用する力の重要性を感じた。さらに、働く現場の雰囲気に触れることで、知識だけでなく社会人としての姿勢も学ぶことができた。
- ◆事務の方や担当の方に挨拶したり、実習中にわからないことや興味のあることがあれば先輩の社員の方に積極的に質問したりして、コミュニケーションをとることを意識した。
- ◆どの実習も今まで自分が経験したことがないことばかりであったので、自分なりに双方にとって使いやすく工夫

するなどの点で真剣に取り組めていたと感じた。また、コミュニケーションを取る機会を与えてくださり、積極的に取り組めたと感じた。

- ◆社員の方々と交流する機会を多く設けていただけだったので、多くの学びを得ることができた。また、本社にほとんど壁がなく、ガラスでフロアを区切っていたので間近で実際に働いている社員の方々の姿を見ることができ、実習前に決めた「実際に働いているSEさんやPGさんの仕事を間近で見ることのできる機会なので、どのように仕事に取り組んでいるのかを学ばせてもらいたい」という目標は達成できた。
- ◆社員の皆様との会話の中で、はいとしっかり返事したり、おはようございますなどのあいさつをしっかりでき、はきはきとコミュニケーションをとれたと感じているので、取り組めたと思う。ただ、発表や質問をする時などは、言葉詰まりが起きたこともあったので、そこは今後の課題になると思った。
- ◆インターンのプログラム実習では、ToDoアプリの作成に積極的に取り組んだ。新しい言語や環境に最初は不慣れだったが、自分から調べたり質問したりしながら課題を進め、データベースとの連携やUI部分の改善なども工夫できた。特に分からない部分をそのままにせず試行錯誤を繰り返したことで、理解を深めながら着実に機能を完成させることができたと思う。
- ◆会社の製品や働き方について実習前に思っていた。社員の方々とお話をすることで、様々な会社の事を教えて頂いた。そのおかげで、就職後の自分を想像する事が出来た。
- ◆実際の職場の雰囲気を知ることができた。分からないことを積極的に聞いた。働いている方々と会話などの交流をしっかりと行うことができた。
- ◆仕事がどんなことなのか知ることができたし、自分の知識を蓄えることができたので取り組めたと思う。
- ◆実習前には、技術的な学びに加えて「社員の方とのコミュニケーション」を積極的に行うことを意識していた。実際の実習では、作業中に疑問に思った点をその場で質問したり、業務の進め方や考え方について会話を重ねたりすることで、単に作業手順を学ぶだけではなく、現場での工夫や価値観を知ることができた。また、社員の方々からも丁寧に答えていただき、温かい雰囲気の中で学ぶことができた。自分から積極的に声をかけた結果、普通の大学生活だけでは得られない多くの気づきを得られたと感じている。

- ◆実習中は、分からないことを積極的に質問し、実務的な知識や考え方を学ぶように心がけた。特に、大学では学ばないソフトや機器の扱いや、信号の処理の仕組みを理解するために指導者の方に質問した点では、目標通り取り組めた。マナーや時間厳守もしっかりと守れて取り組めた。
- ◆実習前には、「学んだプログラミング言語を使って、実際に動くものを作る」ことを目標にし、講義で学んだプログラミングの知識を活かしながら、自ら社員の方に相談し、応用のプログラミング課題に挑戦した。エラーが頻発し、何度も挫折しそうになったが、自分で原因を特定し、解決策を見つけるというプロセスを経験できた。この経験を通して、単に講義を聞くだけでなく、実際に手を動かすことの重要性を強く実感できた。
- ◆分からないことはその都度質問し、何故そうするのかを考えながら取り組むことができた。
- ◆企業紹介の時点で興味を持っていた3Dプリンター・レーザー加工業務の体験をすることができた。社員の方と交流しながら社会人として経験してきたことを教わった。
- ◆実習先で指導してくださった方以外にも挨拶をすることができた。また、指導を受ける際の言葉遣いなどに気を付けて実習に臨むことができた。
- ◆実習前、今回の実習先では電子部品を使った研修が多いだろうと考えており、私は電子系分野が苦手だったため、不安を抱きつつも積極的に理解しようと意識して取り組もうと思っていた。実際に研修を受けてみると、担当の方が丁寧かつ優しく教えてくださったおかげで、少しずつ苦手意識が薄れ、自分から前向きに学ぼうという姿勢を持てるようになった。また、普段学校で学んでいる知識が、実際に企業でどのように活用されているのかわることができ、とても良い経験となった。学校での学びと実社会とのつながりを実感できたことは、今後の学習意欲を高める大きなきっかけになった。
- ◆実習を通して、Arduinoを活用した製品開発の流れを実際に体験することができた。特に、回路設計やプログラムの実装だけでなく、アイデアを形にするための検討や改良といった上流から下流までの工程に関わることができ、自分が実習前に積極的に学びたいと考えていた内容に取り組めたと感じている。具体的には、基板のはんだ付けを行った際に一度失敗してしまったが、その原因を考え改善する過程で、手作業の重要性や慎重さの必要性を学ぶことができた。この経験により、製品開発の工程全体を理解する上で貴重な学びを得ることができた。
- ◆いろいろなことを質問でき、いろいろなことが体験できた。
- ◆開発職について、ネットで調べるだけでは得られない知見を得られた。現場の人と直接話せるというインターンのアドバンテージを活かして、いろんなお話を直接伺えた。
- ◆実習前に「わからない部分は積極的に質問し、実際の業務内容やそれに必要な技術を学びたい」と考えていた。実習が始まってすぐわからない部分があったとき、担当の人は作業中のため、作業中なので話しかけない方がいいかと最初は考えていたが、わからないままにすると仕事が進まなかったり、ミスにつながってしまうのではないかと考え直し、積極的に質問をした。質問したときは嫌な顔をされず丁寧に説明していただき、同じことを何度も質問したりするのは失礼だと考え、メモを取ったり、一度の質問で複数聞いたりすることで、上手に質問ができたと感じている。
- ◆実習前に立てた目標の、「積極的に質問すること」「メモをしっかりと取ること」「インターン生や社員さんと積極的にコミュニケーションをとること」を意識した。実際に社員や他のインターン生と交流を深めることができ、社員の方から「ここまで仲良くなれたグループは初めて」と言ってくれただけのほど関係を築けた。さらに社員と食事を共にする機会も多く、実習前に考えていた取り組みを実現できたと感じている。
- ◆私が今回積極的に取り組みたいと思っていたことは、実験機器の操作、測定手法、データ解析、シミュレーション、プログラミングといった研究現場で不可欠な技術スキルを体験的に習得し、自らの得意分野と課題を明確にすることである。今回のインターン期間中の業務では製品パーツの作成シミュレーション、溶接のための製品パーツの細かいセッティングや製品評価実験などを行った。それらを通して私は細かい作業の飲み込みが早く予定よりもかなり早く業務が終了したことから、測定や制作作業が得意であることが分かった。一方、測定したデータなどの考察については不十分であり、これから研究室の活動などを通して改善するべき点であると分かった。
- ◆出勤時に自分の席に向かう道中にすれ違った社員の人に必ず挨拶をして自分の席の周りの人、社長やインターンの担当者に「おはようございます」と挨拶をして、退勤時も自分の席の周りの人、社長やインターンの担当者に

「お疲れ様です。お先に失礼します」と言ってから退勤したので積極的に取り組みたいと思ったことは自分なりに取り組めた。

- ◆私はインターンシップを通じて、社会経験を積むこと、またどのように人間関係が構築されているのかを学びたいと考えており、積極的に実習先の環境にかかわり質問や雑談といったコミュニケーションによって、社会の形、社風、人間関係など大学では体験できない様々な経験を得ることができたこと。
- ◆自ら考えた意見を主張し積極的に会議に参加したいという目標に対し、窓ふき機の設計の際にペアのメンバーと沢山意見を話し合い方針や細かいことを決めることができた。
- ◆実習前に積極的に取り組みたいと思っていたことは、「インターンシップでお世話になる人々たちへの交流（質問や世間話）」と、「大学で学んだことがどこでどのように使われているかを注視すること」であったが、満足的には取り組めていなかった。ただし、意識的に担当者の方へ「聞かれる度毎回、質問を一度必ずする」ということをしていたので、交流するチャンスを逃さないようにはしていた。一部の担当者の方とは満足に世間話ができず、交流を深められなかったため、まだまだ改善点が見られた。仕事では、上手く質問したいことが伝えられなかったことがあったが、「疑問が出た直後に聞きに行く」ということも意識していたため、分からないまま時間が過ぎるということにはなかった。また、大学で学んだことは、意外にも全てが全て使われている訳ではなかったので、ところどころ使われていることに少し驚いた。機械設計の実務に携わることになったので、製図の知識がとことん使われていたり、工業炉を扱う職場では組み立てをする際のボルトの締め方に気をつけなければならなかった。こういう点では、実習中に大学で学んだことが使われているか注視できていた。
- ◆インターン実習前は、社会人とのコミュニケーションを積極的に取ることを目標とし、最初は緊張したが、自分から挨拶をしたり、業務について質問するなど、少しずつ会話の機会を増やすよう心がけた。その結果、相手の話をしっかり聞く姿勢や、報告・連絡・相談の大切さを実感することができた。
- ◆私は大学で学んだことを業務内容に積極的に活かしたいと考えており、実際に授業で学んだ CAD や SolidWorks を用いてデザインや設計を行う機会があった際に、担当者の方にそれらの作業スピードの速さを褒めて

いただいた。

- ◆実習前には「現場での作業を積極的に体験し、大学で学んだ知識とのつながりを理解すること」を取り組んでいきたいと考えており、実習では測定や加工、組立、CAD を用いた設計など、幅広い業務を実際に経験することができた。その際、単に指示通り作業するだけでなく、なぜその工程が必要なのか、どのように品質や効率に影響するのかを考えるよう心掛けた。
- ◆会社の方々と挨拶をすることや、わからないことは忘れないうちに質問して理解を深めることを心掛けて取り組んだ。これにより大学だけでは味わうことのできない貴重な体験を得ることができた点で積極的に取り組めたと感じた。
- ◆実習前に積極的に取り組みたいと考えていたことは、自分なりに実践できたと強く感じている。特に、CAD 操作を通じて設計者の思考プロセスを学ぶという目標は大きく達成できた。CAE 2D や SolidWorks の実習では、慣れない操作に直面しながらも、マニュアルを見たり、先輩社員の作業を聞いたり、自ら積極的に情報収集を行い課題解決に取り組み、終端滑車の複雑なモデリングでは何度も試行錯誤を繰り返し、最終的に完成させることができた。また、八幡山や天橋立の現場見学では、疑問に思った点を積極的に質問し、技術的な理解を深め、与えられた業務をこなすだけでなく、自ら課題を見つけて解決策を模索する姿勢が十分に発揮できました。
- ◆分からないことがあったときに積極的に質問した。
- ◆製造業の現場を見学でき、親戚以外の社会人に社会について質問する貴重な機会となった。工場見学や新人教育を受け、社会に対する理解を深めることが出来た。
- ◆実習前、積極的に取り組みたいと思ったことは、大学では学ぶことができないことを 1 つでも多く吸収することであった。設計業務の方では、それぞれの機器の選定方法や実際に自分で部品の形状を設計することなど大学では経験していないことを経験でき、加工業者のことや費用などの様々なことを設計業者は考えないといけなことを知り、設計業者のすごさや面白さ、難しさなどを学べた。また、社会人として、挨拶の大切さや上司への言葉遣い、礼儀作法などの社会人としての意識や姿勢についても学べた。このようなことを学べた点から、取り組めたとと思う。
- ◆私がこの理工インターンシップに参加しようと思った理由は学校で学んだことや身に付けた技能が社会に出たと

きにどのような生産性を生み出しているのか、本当に必要とされているのかを実際に体験して感じ取りたかったからであり、また、得た意欲をこれから行う研究のモチベーションにしたいと考えたからである。これらの目的があったからこそ話された内容はメモをとる、積極的に質問、社員との交流、意欲的な実務、感謝の気持ちの表現など多くのことができた。

- ◆インターンシップに参加するにあたり、私は積極的に質問し、現場での業務を理解することに特に取り組みたいと考えていた。その理由は、単に作業を経験するだけでなく、現場の方々がどのような意図や工夫を持って取り組んでいるのかを理解することで、自分の学びをより深められると思ったからである。実際の実習中には、疑問に思ったことを自分の中で留めておかず、指導して下さる社員の方や先輩方に質問し、具体的な背景や目的を教えていただくように心がけた。その結果、与えられた業務をただこなすのではなく、なぜその作業が必要なのか、どのように改善できるのかといった視点を持って取り組むことができた。そのため、自分が積極的に取り組みたいと考えていた姿勢は、ある程度実行できたと感じている。ただし、振り返ると、質問のタイミングや内容が浅くなってしまい、もう一步踏み込んで聞けなかった場面もあり、そうした点では課題が残ったと思うが、全体としては当初の目標に対して一定の成果を得られたと感じている。
- ◆実習前に「大学で学んでいる知識が実際の製造現場でどのように活かされているのかを積極的に理解したい」と考えていて、実習では、工場見学や CAD を用いた設計体験、金型設計や溶接体験など、幅広い工程に参加することができた。特に品質や安全の管理体制を直接学ぶことで、授業内容が現場で応用されている実感を得られた。そのため、事前に意識していた取り組みを自分なりに果たせたと感じている。
- ◆疑問を放置せず、分からないことはその場で質問し、問題や課題について理解を深めることができた。また、実務において積極的に行動し、実践的で充実した実習期間にすることができた。さらに、企業の理念を理解し、安全対策を徹底し作業するうえで、身の回りの管理を行い、事故を未然に防ぐことが重要だと分かった。
- ◆今回のインターンシップでは、大学で習った知識が現場でどう生かされているかを知ること、また得意分野である CAD を重点的に習いたいと考えていた。今回のインターンシップではその両方において重点的に学ぶことが

できたと感じた。

- ◆実習前には「現場で働く社員の方々の姿勢や仕事の進め方を観察し、吸収する」ことを積極的に取り組みたいと考えていた。実習中に印象的だったのは、社員の方々が同じ部署の人だけではなく、違う部署の人とも気さくに会話しており、業務だけでなく休憩時間でのちょっとしたコミュニケーションも大切にしていた。仕事を円滑に進めるうえでは、こうした日常的な関わりが信頼関係を築く基盤になることを学び、自分も社会に出たときには、このような姿勢を意識したいと感じた。
- ◆実習先で学んだことを積極的に取り組みたいと考えていたが、その意識を持って実践することができた。与えられた作業をただこなすのではなく、作業の意味や背景を理解しようと努めた点で「取り組めた」と感じている。また、現場で教えていただいた内容をすぐに実践に移すことができたのも、積極性を発揮できた理由である。
- ◆今回のインターンシップで部品の加工について学びたいと思い取り組んだ。実習先の企業では、旋盤やフライス、金型、研磨、ワイヤーカット、摩擦攪拌接合といった加工を行っており、実習ではサンプル製作のためにマシニングと NLX を使わせてもらい、旋盤やフライスの加工を体験し、加工について学ぶことができた。
- ◆実習前にシステム開発について積極的に学びたいと思っており、実習では 2 日目から 7 日目の間マイクロソフトアクセスでシステム開発について学んだ。その中で分からなかった部分はあったがその都度マイクロソフトアクセスの参考書で調べたり、社員に聞き、わからなかったことを理解するところまでもっていくことができた。今回の実習で学んだことは単なる勉強だけでは何を目的として行っているのかが分からなかったことが、実習をすることによって、この目的のために勉強をしていたということが分かったことである。このようにシステム開発について積極的に学ぶことができた。
- ◆インターンシップを通して、発表を行う機会が多くあったため、発言の重要性を理解し、積極的に取り組むことができた。具体的には、緊張との付き合い方や、時間間隔をつかむ技術が向上した。しかし、仕事の体験としてはあまり取り組めなかったように感じた。インターンの内容が、授業を受けるような形式であったこともあり、知識は身についたが、実践の経験はあまり得られなかったように感じた。
- ◆実習前には「指示されたことをしっかりやり遂げ、慣れて少し余裕ができれば自分で $+ \alpha$ を考えて行動する」

ことを目標としていた。今回のインターンでは、実習中に与えられた作業に受け身で取り組むのではなく、自分から手を動かすことを意識した。特に、図面作成や3Dプリンタを用いた試作、組立・検証の場面では、担当の方に確認しながら積極的に作業に参加し、作業中に疑問が出たときはそのままにせず質問し、理解を深めながら進めるよう努めた。その結果、指示された内容を確実に遂行するとともに、自分なりの工夫や $+ \alpha$ の行動にもつなげることができたと感じている。

- ◆社会で生きていくうえでコミュニケーションを大切に、今回の実習では業務のことはもちろん、休憩時間では大学の話や趣味の話などでたくさんの人と交流することができた。
- ◆実習中は、作業の仕方や治具の工夫について周囲の方の動きを観察し、自分では気づけない点を多く学ぶことができた。わからないことを質問すると丁寧に教えていただけたため、積極的に関わることで理解が深まるだけでなく、信頼関係づくりにもつながると感じた。
- ◆実習前に取り組みたいと思っていた人間関係の構築について、積極的に質問をすることで人間関係の構築ができたと感じた。
- ◆全てが初めての経験だったので、装置の操作方法などは一度説明してもらったことであっても、自信がなければ聞き直したり、合っているかの確認を取りながら操作していったりした。それによって、扱った機械の基本的な操作方法は分かるようになったと、自信をもって言うようになった。
- ◆実習前はただただ実習に取り組むだけでなく、気になるところを質問し、さらに踏み込んだ知識を得たいと思っていた。そこで、実習中は少なくとも1日1回は質問することを目標にし、メモなどを取りながら、毎日質問できた。
- ◆部品の設計をCADを用いて行えた点。
- ◆実習先から様々な説明を聞いた時に、わからないことや疑問に思ったことを質問することができた。そして、実際に作業をさせてもらった時にわからないことが出てきた時も、すぐに質問するように心がけることができた。また、社員の方々とすれ違う時に挨拶することができ、同じインターンシップに参加していた学生とも会話をすることで交流を深めることができた。
- ◆インターンシップの中で熱計算を行う際に、どの数値や範囲を計算に使えばよいのかということや質問したり、その計算を集中して行った点。また、組立や検査の際

に、このネジを使えばよいのかということやこの数値の読み方で合っているのかなどを質問することができた点。

- ◆率先して自分から挨拶するように努めた。
- ◆研究とはどのようなものなのかを知ることができた。また、研究内容について積極的に質問し、知識を付けたいうえで、自ら進んで試料の作製、測定を行うことができた。
- ◆実習先で取り組まれている研究テーマの実験を約2週間かけて行い、プレゼンテーションで実験成果を発表したからです。また、実際の研究現場での実験の方法やデータのまとめ方などを学ぶことが出来た。
- ◆塗料などを作成するときの秤量などが大学とは違う感じでもとても刺激があった。また苦手な単純作業もあまりなく楽しく作業が出来た。
- ◆今回の実習を行ったうえで、やはりアルバイトと会社員の負う責任の差が違うことを感じた。実習中の業務では取引先の会社に提出する資料を作成したが、ミスは許されないため、日々の業務における責任の重さが大きいことを実感した。また、こまめな報告・連絡・相談が業務をスムーズに進める上で非常に大事であることも学ぶことができた。
- ◆実習先の方々のアドバイスや指摘を素直に受け入れることが出来た。また、気になったことには1から100まで聞くことが出来た。しっかりノートをとることもできたし、最後の振り返りでインターンシップの実習担当の方から「私の言ったことや、話をしっかり聞いてくれている」という評価も得られた。
- ◆人任せにせずに、何をするか自分で考えて計画的に行動できた点。また、実習先の仲間と協力しながら話し合いをし、実験を進めたことで自分の頭で考えて行動する力が付いた。このことから、社員とバイトの違いも知ることが出来てよかった。
- ◆わからないこと気になったことなどを積極的に質問できた。
- ◆インターンシップ先の方々と積極的にコミュニケーションを取り、業務以外の場面でも様々なことを教えて頂いたこと。
- ◆研究とは何か、雰囲気はどのようなものか、人前での発表をどのようにするかなど、今後の自分に役立ちそうなものを吸収していきたいと思っていた。研究所にいらっしゃる方と対話や実験を行い、また、プレゼンテーションと報告会で発表を行ったことで、自分なりに取り組み

たと感じた。

- ◆今回、実習に行かせていただいたのが、機械系の会社だったので、設計等の技術を学ぶことができた。CAD という使ったことのないソフトや組み立てに使用する工具などの使用したことのないツールの使用方法を学んだ。
- ◆企業の方々と多くコミュニケーションをとる機会があり、社会人としての知識、マナーを感じ取れた。
- ◆実習先で研究職を理解するために疑問点を積極的に質問しようと考えた。実習を通して、研究職のメリット、デメリットを自分なりにまとめることができた。
- ◆相手先の企業での業務を知ることができた。
- ◆実習前に積極的に取り組みたいと思っていた調色実習を自ら志願してすることができた。
- ◆実習前には、現場での工程や技術に触れながら、自分の知識との違いや応用を積極的に吸収したいと考えていた。実習中は、実際の現場で使われている手法や工夫を見学・体験することで、教科書的な知識との違いを実感できた。また、理解が浅かった部分についても担当の方に質問することで、自分なりに整理し直すことができた。全てを十分に吸収できたとは言えないが、知識を現場の実践につなげる意識を持って取り組めた点は良かったと感じている。今後はさらに、気づいたことをその場で言葉にしながらか理解を深める姿勢を強めていきたい。
- ◆今回のインターンシップでは、今までの大学生活では知ることのできなかったことをたくさん知ることができたとともに実りのある期間になった。その中でもコミュニケーションを積極的にとることで大学で学んだ知識を活かせる場面や、新たな知識を得ることができたりなど自分から積極的にコミュニケーションをとったことにより、より多く学べたのではないかと思う。
- ◆実習前に「できるだけ主体的に学び、実習先の方々と多くのことを吸収する」という姿勢を持つことを意識していた。実際の実習では、自分から質問したり、作業の意図を確認することで、理解を深めることができた。もちろん知識不足を感じる場面もあったが、積極的に関わろうとした点では自分なりに取り組めたと考えている。
- ◆実習前、積極的に取り組みたいと思っていたこととして、「分からないことを自分から質問し、実際の業務を体験する中で社会人として必要なことを身に着けたい」と「実習先の方々とコミュニケーション力を高めたい」の2つを目的とし、実習を通して、上記の2つの目的に積極的に取り組むことができたと思う。実習先が大学の授業で学んでいる内容より応用的な範囲であったた

め、分からない内容や指示について、自分から質問するように心がけたことで、実際の業務の流れを理解することができた。その結果、責任感を持って取り組むことができたと感じた。また、業務の中で職場の方々と積極的に話したり、作業の報連相をする機会を大切に行ったことで、最初、緊張していたコミュニケーションが次第にできるようになった。その結果、相手の話を聞くことと、自分の意見を伝えることの大切さを感じた。

- ◆塗料に関する会社で、大学での塗料についての知識が全くなかったため、知識を積極的に学べたと思う。また、研究内容についても積極的に調べたり、質問したりできたと思う。
- ◆実習前に、わからないことがあればそのままにするのではなく聞きに行くという目標を立てた。その中で実習が始まると自分なりに仕事でのわからないことや、将来の進路のことについてなど聞くことができたため、取り組めたと思った。
- ◆分からないことをそのままにせず、担当の方にすぐに聞いて解決するという点。実際に作業を進める中で疑問が出てきたときには、その場で質問して理解を深めるようにした。そのおかげで効率よく作業に取り組めただけでなく、同じ内容でつまづかないように知識を自分の中に整理することもできた。こうした姿勢を持てたことは、今回のインターンで得られた大きな収穫だと感じている。
- ◆実習前は「自分の興味や適性を見つめ直すこと」を目標にしていた。そのため、CAD による図面作成や数量計算のような机上作業だけでなく、現地調査や写真整理といった現場に近い作業にも意識して取り組んだ。結果として、計算業務では自分の集中力や正確性を発揮できる一方で、断面図から立体をイメージする空間把握には苦手意識があることを自覚した。このように、自分の得意・不得意を実感できたことから、「興味や適性を見つめ直す」という目標に向かって自分なりに取り組めたと感じている。
- ◆社会人としてのマナーとして報告・連絡・相談をすることを実習期間中必ず行うと自分なりに思っていたので、報告・連絡・相談を必ず行なって実習を行っていた。
- ◆実習前には大学で学んでいる知識が現場でどのように活かされているか理解することを積極的に取り組みたいと考えており、実際に現地調査や写真整理、数量計算書の作成などに携わることで、授業で学んだ環境保全の知識

が、現場や設計業務と結びついていることを理解できた。

- ◆実習前、有機元素分析における装置の原理や操作を深く理解し、実際の測定過程を体験することを目標としていた。特に、講義で学んだ理論と現場との違いを確認し、精度管理や安全性の意識を高めたいと考えた。実習では、装置の仕組みや測定・データ処理を実際に経験し、疑問点についても積極的に質問することで理解を深めることができた。これらの学びを通じて、事前に設定した目標に主体的に取り組めたと考える。
- ◆実際の実習では、業務をただ行うのではなく背景や意図を確認するようにし、分からない点は遠慮せずに質問することで理解を深めることができた。
- ◆実習前は自分の考えをしっかりと持ち、実習に取り組み

②取り組めなかった

- ◆当初の目標としていた「社員の方々とコミュニケーションをとりながら社会人に必要な実務のスキルや考え方を学ぶ」は、あまり達成できなかったと感じた。主な理由としてはマイコンの研修内容の難易度が高く業務を理解することに精一杯で、コミュニケーションに意識を割くことができなかったことがあげられる。また、社員の方への質問がマイコンに関する技術的なことに偏ってしま

たいと考えていた。実習中では自分たちで実験の条件を変えたり結果から考えられる要因を考察することができた。

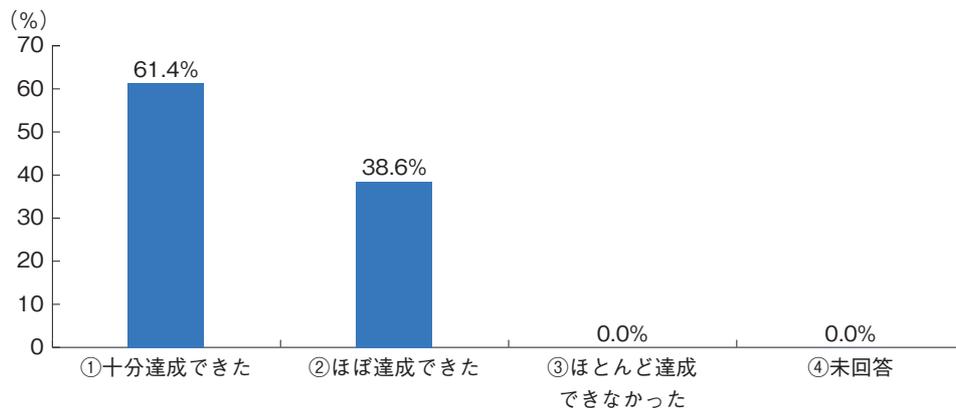
- ◆実習中、分からないことがあればすぐに質問をして、たくさんの知識や専門用語を身につけることができた点。また、トクデン株式会社でしかできない貴重な製造体験をさせていただいた点。
- ◆会社で実際に働いている社員の方たちと積極的に交流を行い、会社を志望した理由、就活で気をつけていたことなど、社会の先輩としてアドバイスをたくさんもらった点。
- ◆実際に自分で設計したものを組み立てて技術的にどうやって落とし込むか体験でき事前のイメージよりも必要な工程がよく理解できた。

い、社会人に必要なスキルや考え方について学ぶ機会を十分に得られなかったことも反省点である。

- ◆ものづくりの現場を知り、実際にどのような流れで行っているかを知り、体験したいと考えていたが、想像していたことよりも製造業の現場ではデータ管理や検査が多く専門的なところではない事務作業が多いと感じたため。

**問 2. 実習前に定めたあなたの実習の目標はどのくらい達成できましたか。
またどのような点で、そのように評価しましたか。**

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | 全 体 | |
|---------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-----|-------|
| ①十分達成できた | 4 | 44.4% | 4 | 36.4% | 13 | 61.9% | 22 | 68.8% | 15 | 62.5% | 4 | 100.0% | 62 | 61.4% |
| ②ほぼ達成できた | 5 | 55.6% | 7 | 63.6% | 8 | 38.1% | 10 | 31.3% | 9 | 37.5% | 0 | 0.0% | 39 | 38.6% |
| ③ほとんど達成できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| ④未回答 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |



①十分達成できた

- ◆自分が学校で学んでいることやプログラミング言語を使用したわけではないが、基礎的な考え方や、わからないところを調べ書いてみる経験が活きていると分かった。
- ◆私に取り組みたかったことは、働いている方々と積極的に関わり、仕事に対する価値観を学ぶということであった。その結果、様々な方から仕事の話や当時の就職活動の経験談などを聞くことができ、仕事に対する価値観は人それぞれであることを実感しました。この経験から私自身も自分にあったワークライフバランスを見つけないと感じた。
- ◆特に興味があった営業で自分と似た学部の方がいて、気になっていたことを質問し満足な答えをいただき、今後の就職活動に活かせると感じた。
- ◆実習を大きな問題を起こすことなく、最後まで終わることが出来た。
- ◆それぞれの人たちと交流を深め、互いに助け合うことができた点。グループワークでも積極的に取り組みお互いの意見をうまくまとめることができた点。
- ◆課題の進み具合という点で、他のインターン生がやっていない追加の課題の部分も進められていたので、制御に関する専門知識をよく学ぶことができたと感じる。
- ◆「実際の業務を体験して、自分の目指したい業界や業種を見つける手がかりを得る」という目標を設定した。配属された部門では営業職と技術職の方が密に連携を取っており、両方の仕事内容を知ることができた。営業職と技術職のどちらで働きたいかを決められていなかったが、実習を通して技術職として働きたいと考えるようになったため目標を達成できたと考える。
- ◆会社で働くとはどんな雰囲気なのかを知ることができた。また自分の知らないことにも集中して取り組むことができた。少し時間を要する実習も根気強く集中して続けることができた。
- ◆実習前に立てた目標は、実習期間中に達成する事が出来た。また、実習期間中にも様々な目標を増やしながら実習に取り組む事が出来た。1日の始めにその日の目標をいくつか立て実習に参加する事が出来た。その日の目標をその日中に達成する事が出来た。
- ◆自分が未知の分野に触れて自分なりにできることを行う

ことができた。

- ◆実習前に掲げた目標は「学校での学びが実務でどのように活かされるのかを具体的に理解すること」であり、この点については、大きく達成できたと考えている。実習を通して、CADによる設計からPLCやC言語を用いた制御まで、大学で学んできた基礎知識が企業の製品開発の中で連携しながら活用されていることを肌で感じることができた。また、技術的な学びに加え、社員の方々の協働の姿勢から、専門分野を超えたコミュニケーションの重要性も理解でき、学びをより実践的に捉えることができた。
- ◆今回の実習の目標は、「IT業界の仕事の進め方を理解し、開発の一端を体験する」ことで、プログラミング実習を通じて、要件定義から実装、テストに至るまでの一連の開発プロセスを体験し、SEとPGの役割分担や連携の重要性を肌で感じることができた。特に、IT業界ではコミュニケーション能力や問題解決能力が求められることを痛感した。IT業界で働くことのイメージが明確になり、目標は十分に達成できた。
- ◆実際の業務に生じる責任や、会社の雰囲気など、リアルな部分をすることができた。
- ◆普段の生活で知ることのない実際の企業での業務を体験することができた。企業で働く社員の方々がどのような心構えを持って働いているかを知ることができた。
- ◆実習前に掲げた「キャリアアップのために実践的に学ぶとともに、関わってくださる方々への還元を意識する」という目標は、十分達成できた。実習中は、担当者の指導や時間、労力を意識しながら、自分のできる範囲で作業や提案に積極的に取り組んだ。例えば、基板作成やArduinoのプログラム実装など、失敗もあったが改善策を考え試行錯誤することで、周囲の方々のサポートに応えられるよう努めることができた。この経験を通して、学びと同時に周囲への配慮も意識しながら行動する重要性を再確認できた。
- ◆インターン活動でしか学べないことを持ち帰ろうという目標が達成できた。今後の研究活動に活かせる知見を持ち帰ろうという目標が達成できた。
- ◆事業内容についての理解を深めたい、自分の就活軸を明確にしたい、社会人としての処世術を学びたい、という目標を立て、実習では社員の方々と直接コミュニケーションを取る中で、働く姿勢や考え方を間近で学ぶことができた。また、具体的な業務内容や今後の事業展望についても理解が進み、自分の進路を考えるうえで大きなヒ

ントを得られた。

- ◆2週間を通して、月曜日から金曜日まで7時間半という長時間の間、勤務させていただき、向き合い方を学んだ。実習内容は自分が初めて行うことばかりで自分の知識不足を痛感していたが、実習内容から新しい知識や技術を得ることができたと感じているため、長時間勤務に対する向き合い方を学び、実習内容から技術を得て成長するという私の目標を十分達成できた。
- ◆大学で学んでいる物事がどのように関連しているか、実習にて活用することで理解することができた。入社後すぐに使えるわけではなく、数年後、または前提知識として記憶していることで、関連した知識を会得しやすくなるといった、間接的にかかわっていることを知った。このような点から実習前の目標が達成できたのではと考えている。
- ◆自分の強みや弱点を実習させていただくことで改めて分析しつつ、実習先の会社のお役に立てるよう頑張りたい、という目標に対し、思考力や新しい意見を考える能力が欠けていると感じたので、想像力や知識を蓄える必要があると気づくことができた。
- ◆実習前では、学校で学んだ知識が実際にどのような場面で活用されているかを知ることを目標とし、今回の製造工場での実習を通して、材料力学や加工技術、品質管理など、授業で習った内容が現場でどのように応用されているかを具体的に学ぶことができた。特に、鉄柱の配置や成形工程では、構造の強度や安全性に関する知識が重要であることを実感した。
- ◆今回の実習を通して、自分の将来の選択肢を増やすことが大きな目標であった。そのため今まではIT系の職業に就くという大まかな目標しか決まっていなかったが、自分に合った具体的な仕事を2つ以上見つけることができた。
- ◆実習の目標を「業界や職種への理解を深め、将来の進路選択の参考にすること」とし、実際に生産技術部に配属され、治具や金型、測定機器の扱いなどを学んだことで、製品開発から量産に至るまでの流れを具体的に理解できた。また、社員の方々の働き方に触れることで、技術者に求められる姿勢や考え方も知ることができた。
- ◆大学で学んでいることが会社で行われている作業とどのように結びついているのかを学ぶことであったり、製造業とはどのような仕事なのかを作業を通じて実感することを経験できた点で評価した。
- ◆実習前に掲げていた座学では得られない実務の流れを肌

で感じ、技術者として求められる安全への意識と責任感を学ぶという目標は、達成できたと評価している。CAD 設計から応力解析までの一連のプロセスを体験し、設計の妥当性を数値で検証する重要性を理解できた。また、八幡山ロープウェイや天橋立ケーブルカーの見学では、実際の設備の構造や多層的な安全システムを間近で見学し、何十年も稼働し続ける設備が、技術者の高い専門性と日々のメンテナンスによって支えられていることを実感した。技術者としての責任感と倫理観が格段に高まったため、目標を上回る達成感を得られた。

- ◆2 週間実習に行ったことで、社会人として働くということが想像しやすくなった。
- ◆実習前に定めていた目標は、大学で学んでいる内容が実際に社会でどの様に使われているのかを見ること、そこから自分が進みたいと考えている進路がどのようなものかを理解し自分に必要なものを知ることの二つで、今回の実習で、機械要素や先進材料プロセス学などの内容が使用されているところを製造の現場で見ることが出来た。また、SOLIDWORKS や Excel などのソフトに対する理解の低さを感じ、より使いこなせるよう練習していくという目標を持つことが出来た。
- ◆1 つ目の目標の「大学で学んでいることがどのように活かされているのかを知る」については、今回の実習を通してねじやボルトなどの機械部品の知識やモーメントの計算など大学で学んだことが活かされているのを知ることができた。2 つ目の目標の「立派な社会人になるために様々な知識や技術について学ぶ」については、挨拶の重要性や上司への言葉遣いなどについて学ぶことができた。また、分からないことを聞く際には、端的に分かりやすくまとめて伝える事の大切さについても学べた。
- ◆企業の社員との関わりを大切に、コミュニケーションを取ることで自分の意見が尊重され、意欲的に取り組むことができた。
- ◆実習前には 3DCAD の技術向上を目標としていた。実習期間中には初めて触れる 3DCAD ソフトと実際に使われている図面を用いてより実践的な経験を積むことができた。
- ◆実習を通して加工技術を学ぶことを目標として取り組んだ。マシニングを使ったフライス加工では、加工の指示を出すプログラミングを組むうえで G コードや M コードといった機械を制御するコードについて知っておく必要があった。こういった知識を教えてもらい、プログラムを組み、工具の付け替えや工具の位置調整などに

いても学んだ。加工技術には、ものを加工することだけでなく、様々な知識が要求されることを知った。

- ◆実習前の目標は建築業界について詳しく学んでいきたいということだった。今回、実習を通してインターンシップ先が携わった建築物を見に行ったり、工事中の建築物に上ったり、解体現場に行ったりなど普段ではできない貴重な経験をすることができた。そして、建築業界についての詳しい説明を聞くことができた。このように建築業界について詳しく学んでいきたいという目標を十分達成できたと思う。
- ◆実習を通して、実際の職場での作業の流れや雰囲気を感じることができた。設計から試作、組立・検証までの一連の工程に関わる中で、仕事のやりがいや大変さを実感するとともに、社員の方々の協力や工夫の重要性を学ぶことができた。実習前に掲げた「働くことや会社の雰囲気を知る」という目標を十分に達成できたと感じている。
- ◆今回のインターンシップではアルバイトでは経験できないような様々なことを経験させていただき、目標にしていたインターンシップでの経験を将来に生かすために十分なことを経験できたので、これを今後の生活に生かすことで目標が達成されると思う。
- ◆現場での作業を通して、学校で学んだ理論がどのように実際の工程に活かされているかを体験的に理解できた。特に、加工精度や治具設計において理論上の数値と実際の作業との違いを実感し、学んだ知識をより具体的に捉えることができた。この経験から、目標としていた「知識を現場で実践し、理解を深める」という点を十分達成できたと評価した。
- ◆実習前に定めた自身の能力が社会でどのように役に立つかを知るといった目的は、実習先での仕事に製図や材料力学などが使用されており、自身の能力が社会に出ても活かせると感じた。
- ◆企業の方と積極的に会話をして、仕事というものがどのようなものなのかを学ぶことができ、さらにそれを受けて、自分が就きたい職種や分野を考える指標を持つことができた。また、今回体験させてもらった分野は、興味はあったがあまり詳しくは知らなかったものだったので、このインターンを通して 1 番わかる分野になった。だから、自分のつきたい職業がより定まってきたので、とても有意義な時間だったと思う。
- ◆毎日の挨拶や座るときの姿勢、敬語など、礼儀や姿勢を意識することができた。実習で教えられたことをメモし

て実習の振り返りを行った。エンジンの分解・組立実習などでは、一度大学で行ったときの知識を活かして、スムーズに行うことができた。このような点から、実習の目標は十分に達成できた。

- ◆CADの操作実習や様々な加工機や加工法についての説明を聞いて、大学で学んだ知識が活用されていることが分かり、実践的なスキルを磨くことができた。そして、社員の方々と接することで挨拶や礼儀などのビジネスマナーやコミュニケーション能力を磨くことができた。また、実習を通して、知らなかったことを知って、自分の視野を広げることができた。
- ◆インターンシップを通してアルバイトとは違い、どのような内容であっても自分が行ったことに対しては自分が責任を持つことになり、また、他の人から指示されたことを行うだけではなく、自分から率先して行動したり質問したりして、他の人が気づいていないことなどに気づくことが必要であるということを知ることができたという点。
- ◆一度も遅刻しなかった。
- ◆実際の研究テーマに深く携わることができ、研究の目的を知ったうえで、計画、作製、測定、評価を経験することができた。
- ◆分からない所は積極的に質問をすることが出来た。また最終日には塗装作業もうまくなっており褒めていただいた。
- ◆研究職の業務を知ること、バイトとの違いを知ること、通勤の雰囲気を知ること、迷惑が掛からないように積極的に行動することなどが出来た点。
- ◆インターンシップを通して、今まで知らなかった社会人としての姿勢やマナーをしっかりと学ぶことができたこと。
- ◆先生の論文を要約したり先輩方と一緒に実験を行うことで、実験や研究の楽しさや難しさなど様々な角度から見るができ、より研究の現実を実感することができた。
- ◆色々な部署を体験させていただいたが、それぞれの部署の担当してくださった人とたくさんお話をした。自分の意見を発表する機会もたくさんあり、ボトムアップ型の会社であるという社風に触れることができた。
- ◆社会人に求められること、心構えを意識して、本インターンシップに挑んだが、その内容に該当する講義や機会が多くあり、充実したインターンであった。
- ◆実習先での目標として、研究職を理解し、疑問を残さな

いという目標を立て実習を行った。実習先では疑問点に対して自ら質問し、疑問点を残すことなく実習を終えることができ、研究職への理解を深めることができた。

- ◆私はこの実習で「分からないことは積極的に質問すること」と「挑戦してみたいことには取り組むこと」を目標としていた。その一環として、当初予定にはなかった調色実習に興味を持ち、ぜひ体験してみたいとお願いしたところ、実際に参加させていただくことができた。
- ◆実習前に定めた私の実習の目標とした、「実習先で学んだことを活かして、自分に合った業界や職種をさらに深めること」と「報連相や時間を守ること、身だしなみを整えと言った社会人として当たり前なマナーを学び、自分自身に何が足りていないかを考えるきっかけ作りをする」ことを、実習を通して十分に達成することができたと思う。実際に現場での業務を体験する中で、自分が興味を持つことができる仕事や、人との関わり方を具体的に学ぶことができたため、このような評価を行った。また、2つ目の目標としては、普段の生活では見落としやすい部分でも、実習という場所であるからこそ意識的に取り組んだため、このような評価を行った。
- ◆研究職がどのような仕事なのか知ることができ、今後自分が研究職に就きたいと強く思えた。
- ◆実習前には今までにしたことのない社会勉強をすることを目標にしていた。実習に行かせていただくと、今までに体験したことがないことや、これから生きていく上で体験しないようなことも実習で体験させていただいたので、十分達成できたと思った。
- ◆実習前に定めた目標については、おおむね達成できたと感じている。特に「分からないことをそのままにせず、担当の方にすぐ質問して解決する」という姿勢は、実習中を通して意識的に実践することができた。その結果、作業の理解を深めながら効率よく取り組むことができ、最初に立てた目標を達成できたと感じている。ただ、まだ自分から提案する力や主体的に動く場面では課題が残っていると感じたので、今後の学びや学生生活の中でさらに伸ばしていきたい。
- ◆10日間の実習を通して、CADによる図面作成や数量計算といったデスクワーク、現地調査や写真整理といった現場に近い業務を幅広く経験できたことで自分の得意・不得意が明確になった。特に、数量計算や水理計算では集中して正確に取り組むことができ、自分の適性を感じた。一方で、断面図から立体をイメージする空間把握は難しく、今後の課題として意識する必要があると分か

った。このように、興味を持てる業務や苦手な作業の両方を具体的に認識できたため、当初の目標は十分に達成できたと評価した。

- ◆実習の目標としてコミュニケーションをとっていくことを目標としていた。コミュニケーションをとることとして報告・連絡・相談がしっかりできていたと思っているためしっかりコミュニケーションを取れていたのではないかと思いそのような評価にした。
- ◆実習を通じて、理解の速さや知識の応用力といった自分の強みを確認できると同時に、報連相の徹底や確認不足など改善すべき点も明確になった。これらを把握できた点で目標は達成できたと考える。

② ほぼ達成できた

- ◆CADでの3Dモデル作成やCAMでのプログラム作成は、大学の授業で触れた知識の実践の場となり、仕上げ工程での手作業の重要性や、品質管理でのマイクロメートル単位の精度へのこだわりは、座学だけでは得られない現場ならではの学びとなった。一連の工程を体験したことで、知識と実践が繋がり、目標はほぼ達成できたと考えている。
- ◆当初の目標は、「研究の流れを理解し、決定論的だが予測困難なゲームのルールを考案し、その複雑性や公平性をシミュレーションで確かめること」でした。実際には、新ルールを提案し、複数のシミュレーションを行い、勝率の統計や評価関数の変動を分析するところまで進めることができました。その結果、研究の進め方や検証方法を体系的に体験するという目標は十分に達成できた。ただし、シミュレーション規模や統計の信頼性の向上など、改善すべき点が残っており、完全な達成とまではいかなかった。
- ◆本物の職場を見て何も知らない自分をアップデートすることが目標だったが、上記の取り組みたいことと絡めて職場の方々と交流し、少なくとも今回の実習先の空気感や社会での最低限のマナーや立ち回りを学ぶことができたと思う。だが、今回の会社だけの情報しか知らないのので他の会社でも同じようなことを学んでいきたいと思う。
- ◆業務内容が専門知識や資格が必要なため、現場での見学が多かった点。2週間という実習期間で起きた緊急事態に冷静に対応する経験ができた点。実際の現場に行き点検や検査の一部に携わることができた点。
- ◆研究という体験を通して、研究とその発表資料の作り方

- ◆自分で考える力が成長したと強く感じた。実習では自分たちで考えて行動に移す機会が多かったため、今何をやる必要があるかなど考えることができた。
- ◆聞いたこと、見たことは全てメモを取り、分からないことは質問をして教えていただいたので、実習で学べることは全て持ち帰ることができた点。また、怪我や失礼がなく実習を終えることができた点。
- ◆大学の講義の内容は会社の業務でどのように必要になっているか、用いられるかを、身をもって体験し知ることが出来た点。
- ◆事前に知りたかったことは就業体験を通して知ることができ、具体的なイメージが持てた。

なども詳しく学べ、また一応は自分の定めた研究をやり切れた点。

- ◆研究の流れを理解して取り組むことができ、研究の大変さや楽しいところを知ることができ、今の自分の課題となるところを確認することができた。
- ◆今回の目標として働くということについてイメージを持つことが目標だったが、その点では私が一年半後、就職をして働く姿がある程度のイメージはついたと思う。
- ◆学校で学んだ内容が社会でどのようなことに役立つのかを見つけることが大きな目標であったため、C言語を用いたプログラミングで学校の授業の内容を生かすことができた。ただ、C言語以外の内容を生かすことができなかったためこの評価にした。
- ◆ネットワークやセキュリティの基礎を理解し、業務の流れを学ぶという目標については実習を通じて十分に経験でき、知識の定着や就職活動に向けた視野の広がりにつながったと感じた。しかし、社員の方々にもっと積極的に質問や会話をすれば良かったと思い、ほぼ達成できたにした。
- ◆実習前は実習先の会社の情報はほとんど分からない状態であったが、実習をしていく中で、実習先企業について知ることができた。また、2週間という期間を通して社会人として働くことについて理解し、エンジニアの具体的な業務であったり、業務に必要な知識について知ることができた。
- ◆事前に掲げていた「働くイメージを持つこと」と「もの作りに触れて就活に役立てること」はほぼ達成できた。社会人の生活リズムを实际体験することで、漠然としていた働くイメージをより具体的に持つことができた。し

しかし、社会人としてのマナーや振る舞いを十分に学ぶことはできなかった。

- ◆実習前に定めた「実習で学ぶことができた」と実習後に自信を持って言えるようにしたい」という目標の通り、実習で多くのことを学べたと思います。上記の通り、社員の方々と交流する機会を設けていただけ、特に社長のお話からは多くの学びを得ることができた。
- ◆実際の開発の流れや内容で、自分が学んだこともある内容もあれば、逆に知らないこともあり、実際の業務で自分の学んだことがどのように使われているのかを具体的に学べたかどうかはわからないが、ある程度のイメージはできたので良かったのと、社会人の方たちと接してたくさんお話しさせてもらい、こういった経験があったとか、考え方とかを学べてよかったので目標はほぼ達成できたと思う。
- ◆インターンのプログラム実習中は慣れない言語や環境に挑戦する機会が多く、その中で自分から積極的に調べたり周囲に質問したりする姿勢を意識した。その結果、プログラムの知識だけでなく、課題に向き合う姿勢や問題解決力といった面でも成長を実感でき、目標を達成することができた。
- ◆自分が知りたいことを知れたし、2週間濃密な体験ができたので、自分の目標を達成できた。
- ◆専門知識が実際の仕事でどのように活用されているかを理解するという目標については、実務を通じて多くの学びを得ることができた。特に、信号の制御や同期の仕組みなど、理論と実務のつながりを実感できた。ただ十分に理解できていない部分もあり、今後の学習に活かす必要があるのでは達成できた。また、社会人として仕事に対する必要な姿勢についても指導していただくことができた。
- ◆実習内容の中に座談会というものが含まれており、龍谷大学の卒業生の方々から就職などの体験談や社会人になって苦労することなど聞くことができた。
- ◆実習前に定めた目標は、二週間という長い期間のインターンを通じて、できるだけ実習先の会社のことを知ること、実際に研修を受ける中で、会社の雰囲気や福利厚生、仕事内容について詳しく理解でき、この目標を達成できたと感じている。また、先輩方から就職活動を進めるうえで大切なことを直接伺うことができ、とても貴重で参考になる経験となった。加えて、普段学校で学んでいる知識が、実際に企業の現場でどのように活用されているのかを知ることができ、学びと実務のつながりを実

感する良いきっかけにもなった。今回の実習を通じて得られた経験は、今後の学習意欲や就職活動に大きく活かせると感じている。

- ◆計画性やストレスコントロール力を高めることができたが、創造力を高めることが出来なかった。
- ◆私は実習前に「これから社会人になるにあたって、基礎的な姿勢を身につけながら、将来の進路を具体的にみつけるきっかけとすること」という目標を立てた。元々、光学系の研究室に所属しており、インターン先ではさまざまな光学部品に触れることができた。現在の社会では光学系の職場はあまりなく、さらに地元の近くにインターン先があったので、将来の進路は今回のインターン先を第一希望に考えることができた。基本的な姿勢について、自分では真面目にしていたつもりですが、2週間では完璧に身につくものではないので、これからの習慣を改善して身につけていきたい。
- ◆私が今回のインターンで最も知りたかった、働くことの実態においては、研究開発という分野についてだけではあるがこの機会を通して良い環境で体感、体験することが出来た。二週間の間に研究開発に関わる多くの部署で実際に業務することによって、クライアントからの要求を製品としてクライアントの手に届けるまでの一連の流れを大まかにではあるがつかむことが出来た。また、その際の実際の業務において最も大切なことはこの一連の流れを要求されるクオリティを担保しながら、できるだけ早くクライアントに届けるために、個々人の迅速かつ、的確なアウトプットの技術が不可欠であることが分かった。
- ◆実習前に定めた実習の目標は「大学生活やアルバイト、普段の生活との違いに気づき、社会であるべき姿をインターンシップの企業先の社員の方々から学習し、身につけること」であったが、実務中に実施した製図や開発では、1つもミスや失敗がない状態にして完成させるという点で普段の生活と比較すると、そういう点で社会ではとても厳密であることを学んだ。自分は元々慎重な人間ではあったが、正確な自己確認と責任者への質問を心がけたことによって実習を通してより慎重さが磨かれた。そういう面では実習環境に適応し、社会の厳密さというものが少し身についた。
- ◆目標はすべての人が笑顔で働けるようにすることで、これは私がアルバイトしているところの目標でもあり、人間関係が素晴らしくなるなと思ったので採用した。実際、すべての場面で笑顔を与えることはできなかった

- が、休憩時間など自由時間でコミュニケーションとすることで自然と笑顔が出ていたと思う。
- ◆実習前に掲げた目標である「失敗を恐れずにチャレンジし、改善点を次に生かすこと」は、ほぼ達成できたと感じている。その理由は、まず実習中に取り組んだ作業の中で、最初から完璧にこなすことは難しく、実際にミスをしてしまう場面が何度かあったが、その際にただ落ち込むのではなく、どこに問題があったのかを振り返り、指導していただいた方のアドバイスを参考にして次の作業へとつなげることを意識したからである。
 - ◆目標は「自動車部品製造の一連の流れを理解し、問題解決に向けた考え方を学ぶこと」で、実習を通して、設計から試作、量産化に至るまでの多くの工程を学び、また不具合が発生した際に原因を追及し改善につなげる姿勢を目の当たりにした。この点で目標に大きく近づけたと思うが、自分の知識やスキル不足から、積極的に質問できなかった場面もあり、「十分に」達成できたとは言いつれないため「ほぼ達成できた」と評価した。
 - ◆目標として「社会人としての基本姿勢を身につけること」と「将来像を具体的に描くこと」を掲げていた。時間厳守や礼儀、あいさつなどの基本的な部分は実際に意識して行動することができ、社員の方々の姿を見て、自分が将来働くときに必要な姿勢や能力をイメージすることもできた。ただし、自分からもっと積極的に質問や発言をする勇気が足りなかった部分があり、その点では課題が残ったと感じている。
 - ◆「実習先を通じて世界を知り必要なものを知ること」という目標は「ほぼ達成できた」と考える。現場での業務を体験する中で、自分が普段学んでいる理論や実験がどのように社会で役立っているかを実感できた。また、社会人としての姿勢やコミュニケーションの取り方など、大学の授業だけでは学べないことを知ることができた。ただし、限られた期間では「世界を知る」という大きな目標を完全に達成するには至らなかったため「ほぼ達成」という評価とした。
 - ◆インターンシップに取り組む中で、就職活動についての説明や、面接練習を行った。このような活動を通して、今後の活動がしやすくなり、次につながる学びを得たいという目標を達成することができた。また、周りの人の行動を見ることで、社会人のマナーが実際の職場で使われている様子を見ることができ、自分でも実践することができた。
 - ◆好感を持ってもらえるように行動できた点。
 - ◆実習前に、「製造現場で実際の業務の流れを理解すること」と「社会人としての基本的なマナーやコミュニケーションを学ぶ」という目標を立てていた。実際の現場では、作業工程の見学や補助作業を通して全体の流れを理解することができ、報告・連絡・相談の大切さも体験できた。ただ、専門的な技術作業に深く関わる機会は少なく、実践的なスキル習得という点では不十分だったと感じた。そのため「ほぼ達成できた」と評価した。
 - ◆2週間かけて行った実験や豚を用いた大動物実験の見学、勉強会と報告会での発表を通して、実際の研究現場での活動や具体的な研究内容に直接触れたことで、研究活動をする上での重要なスキルを身に付けることが出来たから。
 - ◆私はもともと研究職に就くことを考えていた中で、今回の実習で研究開発に携わらせていただくことができた。業務は大変だったがその分やりがいや達成感も大きく、改めて研究職を目指すことを考えた。
 - ◆実習には実際に関係ないことも含むが、すごく人間的に成長できたと感じた。働くとは何か。実習担当の方が、私の「働くって何ですか？」という漠然とした質問に回答してくれた。「自分の持っている能力を、自分だけのために使わずに、誰かのために使うこと」誰かの言葉と聞いていたが、すごく感動する言葉だった。私の働くとは何かという考え方が、「暇つぶし」という、自分中心の考え方だけだったが、「誰かのために何かをしたい」という、誰かを思う考え方にも気付けることが出来た。私は人生ですれ違ふ、顔も名前も知らない人たちの悪いところばかりが目に入り、正直生きにくいと感じることが多かった。しかし、このインターンシップをきっかけに、顔も名前も知らなかった実習先の方々が、私にただ、「何かを学ぶ機会にしてほしい。」と一生懸命に向き合ってくれた。自分の人生を振り返り、改める機会となった。もちろん実習先の仕事内容をはじめとした、環境についても学び、成長することが出来たが、人間として成長できたことがすごく大きいと感じている。
 - ◆現場での作業の流れを理解し、専門的な知識を実務と結びつけることができた。教科書だけでは分からなかった具体的な工程や工夫を学ぶことができ、この点では大きな成果があった。しかし、8日間では十分に理解するには少なく特に3D-CADでの設計を十分理解できなかった。
 - ◆社内での礼儀やマナーを知ることができた。
 - ◆実習前に定めた目標は、技術者としての姿勢や現場での

リアルな課題を知り、自分に必要な力を具体的に見つけることで、実習中には、現場の方々が課題に直面した際の対応や工夫を間近で見ることができ、技術者として求められる姿勢を実感できた。また、知識だけでなく柔軟な発想やコミュニケーションの大切さなど、自分に不足している力を具体的に認識できたと感じ、この点で目標は概ね達成できたと思う。

- ◆ 普段の大学生活では知ることのできなかつたこと、例えば、大学で学んだ知識は使うのか、自分は将来どのようなことをしたいのかなど、今まで曖昧だった部分がインターンシップに参加したことで見えてきたことがたくさんあったのでほぼ達成できたと思う。
- ◆ 目標としていた「研究に役立つ知識や技術を学ぶ」という点については、実際に作業や観察を通して多くの新しい発見を得られた。特に、大学で学んできた理論が現場でどのように応用されているのかを知ることができたのは大きな収穫となった。ただ、専門的な部分についてはまだ理解が浅く、完全に自分のものにできたとはいえず、そのため十分達成ではなく、ほぼ達成と評価した。
- ◆ 実習前の目標は、建設コンサルタントという職種を理解

すること、そして大学で学んできた知識を自身の将来の進路に役立てること、さらに社会人としてのマナーや仕事への取り組み方を身につけることであった。実習では、現場調査や資料整理、数量計算書の作成など幅広い業務に携わり、建設コンサルタントが社会基盤や生活環境を支える重要な役割を担っていることを学ぶことができ、社員の働き方を間近で見ると、報告・連絡・相談の大切さや、正確さと安全を最優先に行動する姿勢を学び、社会人として必要な基礎から体験し理解することができた。一方で、専門的な知識や技術については、授業で学んだ内容を実際に現場でどのように応用するのかを十分に理解しきれなかった部分もあり、まだ自分の知識が浅いと感じる場面も多くあった。

- ◆ 目標は、有機元素分析の基本的な原理や流れを把握し、精度管理や安全管理の重要性を理解することであった。実習を通じて、装置の操作やデータ処理を実践し、管理の重要性を現場で学ぶことができたため、この目標はほぼ達成できたと評価する。しかし、限られた時間の中で測定結果の詳細な解析や考察については十分に学ぶことができなかつたため、「十分達成」とは言えない。

③ほとんど達成できなかつた

回答なし

問 3. 実習の体験をふまえて、今後どのような学生生活を過ごそうと思いますか。一〇

- ◆今回の実習経験を経て、今後の学生生活では、一つひとつの学びが製造現場のどの部分に繋がり、どのように活かされるのかを常に意識しながら学んでいきたいと考えている。
- ◆実習先の方のお話を伺って、これから自分の学びたいことを学び、努力をすれば良いという考えになったので、数学系の科目も情報系の科目も学び、自分が将来に活かしたいことを良く知り、社会に出たときに使える知識を多く持っておけるように主体的に学んでいこうと思った。
- ◆大学では今まで通り学業に真剣に取り組み、就職活動については、今回の経験から今まであまり関心を持っていなかった業界にも興味を持つようになり、自分の視野が広がった。自分が納得のいく進路を見つけられるように努力していきたいと思う。今回のインターンシップはこれからの大学生活やキャリア選択においてとても貴重な経験になった。
- ◆今回の実習で、営業に興味を持てたので、これから営業職についての情報収集を行っていこうと考えている。
- ◆この実習を通して、研究には探究心だけでなく、論理的思考力や継続力、社会人基礎力が必要だと実感した。今後は、卒業研究を見据えてプログラミングスキルや数理的知識をさらに磨き、論文の調査やプレゼンテーションの力も高めていきたい。また、短期間で成果をまとめるという経験から、計画的に学びを積み重ねることの重要性を学んだため、残りの学生生活では研究活動だけでなく日常的な学習や課外活動にも計画性を持って取り組みたい。そして、大学生活の集大成として、自らが納得できる研究成果を形にし、社会に出ても役に立つ力を養いたいと考えている。
- ◆今回学んだ社会での立ち回りを日常でも意識して立ち回っていききたい。目上の方と接する時やバイト中なども、これまでの適当な対応や悪癖を改め、社会で通用するような姿勢を体に染みつけていきたい。学生生活でも堅実に社会での生き方の学びを進め、将来につながるような確かな力を身につけていきたい。
- ◆実習を経て分野は様々でも、学習することが業務をこなしていくために重要であることがこれまで以上に実感できた。よって、日々学習することを意識して大学での学業やその他の活動に励みたい。
- ◆実習の体験を踏まえて、社会人として働き続けると体力的にも時間的にもあまり余裕がなくなると感じた。そのため学生という自由が利く間にしかできないことをしようと感じた。また実習先の社員の方を見て将来進みたい職種は専門知識が多く、数年で業種の内容が大きく変化するため、学生生活の中で資格の取得をしたいと思う。
- ◆今回のインターンの研究体験を通して、これから卒業論文の研究などが始まってくると思いますが、その際に今回の反省点である先行研究の調査の甘さなどの点を踏まえた研究を行っていききたい。
- ◆実習体験を通して、研究の流れを理解することができたのでこれから始まる卒業研究で活かしていきたい。また、今回の実習では毎回の報告会があり、それによってさまざまな意見をもらい知識を深めることができたので、疑問に思ったことや自分が思っている意見を先生に積極的に質問してみよう知識を深めていきたい。研究に必要な知識が不足していたので自分の研究に必要な知識を教科書や論文を活用しながら知識を得ていきたい。
- ◆もっと実践経験を積みたいので授業で習った事を活かして自らシステムを作ってみようと思った。
- ◆社会に出るとさまざまな人がおり、学生のように関わる人を選ぶことはできないため、苦手だと感じる人でも適切な関係を構築できるようにコミュニケーションのスキルを身に着ける。
- ◆今まで自分自身の目線でプロジェクトに取り組んできたが、これからは多様な視点を持ちプロジェクトの規模を広げようという意識を変えていこうと思った。また、プロジェクトに取り組む際にも実際の仕事のように円滑に進めていけるように言葉にする、伝えやすくすることを様々なことに意識していこうと思った。
- ◆今回のインターン実習から、大学でやっていた専門分野の知識が無駄ではないと知れたので、今後はそういった講義の内容もより集中して取り組もうという意識を持って学生生活を過ごして行きたいと思う。
- ◆応用情報技術者の資格を取ったり、C言語以外に使える言語を増やしたり、技術者として求められる力を養っていききたい。また就職活動対策として TOEIC の点数を上げられるように、英語の勉強も並行して行う。さらに自分がどのようなキャリアを築いていきたいのかをよく考えて、業界研究を積極的に行う。
- ◆今後の学生生活では、基本情報技術者試験の取得に向けて学習を進め、授業で学んだことを自分の力として定着

させていきたい。また、就職活動に向けて幅広い会社や職種について理解を深め、自分に合った進路を選べるよう準備していきたい。

- ◆これから研究室が始まるので、研究室を会社だと思って、今回のインターンシップの経験を活かして、4回生の先輩や教授と積極的にコミュニケーションをとり、研究に向けて日々の生活を頑張りたい。また、今回の実習で年収や福利厚生だけでなく、社風の大切さにも気付いたので、就職活動を進めていくうえで、社風がどうなのかも大事なポイントとして考えていきたい。
- ◆報告がとても大事だと感じたので、自分もちゃんと報告すべきことはすぐにするという習慣をつけようと思う。また、コミュニケーションも今よりもさらにしていきたい。
- ◆今回の実習を通して自身のコミュニケーション能力に課題があることがわかり、今後は今回の反省を生かし、日々の生活の中でより人と関わる機会を増やしていきたい。また、もの作りへの解像度が上がったのでこれからは合同説明会などの就職活動のイベントに積極的に参加し、様々なもの作り企業を比較していきたい。
- ◆全体的に知識不足を感じたので講義や研究室での活動、資格勉強などを通じて知識を増やしていきたい。また、社員の方々との交流や実習を通してコミュニケーションを積極的に取ることの重要性を感じたので、積極的に行動を起こし、コミュニケーション能力を高めていけるように努力したい。
- ◆今回学ばせていただいた業務のことを、大学の講義と結び付けて、これはこんな風に使われるなど、仕事での使われ方を想像して講義を受けたい。また AI の使い方で、例えば AI にコードを書いてもらった時にそのままコピーするのではなく、そのコードがどのような手順で実行されているのかなどの内容理解をすることが大切で、読む力が必要になると学んだので、AI を使って調べ物をするとき、AI が出した解答を自分でもさらに調べて理解を深めていきたい。
- ◆インターンでのプログラム実習を通して、自分から積極的に学びに向かう姿勢の大切さを実感した。今後の学生生活では、この経験を生かし、授業や研究においても受け身にならず自ら課題を見つけて取り組みたいと考えている。また、新しい知識や技術に触れる機会を大切に、自分の専門性を深めるだけでなく、幅広い分野にも挑戦していきたい。さらに、仲間との協力や意見交換を通じて、実習で学んだ協働の姿勢を実践しながら成長し

ていきたいと思う。

- ◆実習の内容は、自分の学科や研究室の分野ではなかったため、実習期間中は企業に必要な分野を学ぶ時間が限られ、深く理解する事は出来なかったと思う。しかし、自分の研究内容や学科で学んでいる事は、どの会社に行っても関連している部分があるため、自分の研究分野や学科での内容をより深く理解出来るよう勉強をしていきたい。また、実習期間中に社員と話し、学生中の内にやればよかった事を聞いたところ、本を読むことで、報告書などを作成する際、文章を書く上で語彙力が必要だと仰っていた。
- ◆自分に合った職業を選べるよう努力する。選択肢を狭めないために勉強をする。やれる環境があるなら何事にもチャレンジしてみたい。
- ◆実習を経て、他の会社のインターンシップや説明会など、就職活動に役立つことに積極的に参加したいと思った。
- ◆今回の実習で、専門的な知識の積み重ねだけでなく、実際に応用しながら学ぶことの大切さを強く実感した。今後の学生生活では、研究室での実験やゼミ活動の中で、実習で得た知識を積極的に活かし実践力を磨いていきたい。また、課題であるコミュニケーション能力についても、グループワークやディスカッションに積極的に参加し、技術者として必要な協働力を高めていきたい。卒業までの限られた時間を有効に使い、技術力と人間力の両方を伸ばす学生生活を送っていくつもりである。
- ◆実習を通じて、専門知識を基礎から応用まで幅広く学ぶことの重要性を実感した。今後は講義で得た知識をより実践的に理解できるように自主的な研究活動にも積極的に取り組みたい。また、今回の経験をきっかけに、自分の将来像をより具体的に描きながら学生生活を過ごしていこうと思う。
- ◆今回の実習で、座学で学んできたプログラミングや IT の知識が、実際のビジネスの現場でどのように活かされているのかを深く理解できた。特に、地理情報システムのように、IT 技術が社会の様々な課題解決に貢献していることを知り、大きな感銘を受けた。今後は、大学で学ぶ専門分野を深めるだけでなく、今回の実習で得た「自分で考えて、試行錯誤する」という主体性を忘れずに、日々新しい技術や知識に挑戦していきたい。将来、IT 業界で働くことを視野に入れ、さらにスキルを磨いていきたい。
- ◆今後の人生において、今まで以上に、なぜこのようにするのかなど、「なぜ」を理解することを意識していこう

と思った。

- ◆自分がどんなことをしたいか、どのような職種に就きたいかを模索しながら自分に合った企業を探していききたい。
- ◆今回の実習を終えて、今後の学生生活では自分の知識を広げるために幅広いことを学んでいきたいと感じた。その理由は、就職した企業で自分が今研究している内容の知識が必要になるかわからず、就職後の知識の引っ掛かりを増やすために幅広い知識を持っておきたいと感じたためである。
- ◆今回の実習を通じて、実習先の方々からいただいた就職活動に関するアドバイスを参考に、今後の生活の中でも意識して取り入れていきたいと感じた。実際の経験をもとにした言葉はとても説得力があり、将来の進路を考えるうえで大きな指針になった。また、これまではソフト関係の仕事ばかりに目を向けていたが、今回の設計に関する研修が特に印象的で楽しく、自分にとって新しい発見となった。そのため、今後は設計分野も視野に入れて仕事選びをしていきたい。さらに、授業で学んだ内容が実際の企業でどのように活用されているのかを知ることができた点も大きな収穫だった。特にソフト分野では、自分の作成したプログラムをさまざまな人が使うことになるため、ただ機能を実装するだけでなく、分かりやすさや見やすさ、変更のしやすさを意識して工夫することの重要性を実感した。これからの学習や実習においても、この点を意識して取り組んでいきたい。
- ◆実習を通して、製品開発の工程を実際に体験することで、計画的に学び、失敗から改善策を考えて実行することの重要性を実感した。今後の学生生活では、授業や課題に対してもただ取り組むだけでなく、目標を明確にして効率的に学び、実習で学んだ問題解決力や周囲への配慮を意識しながら、自分の成長につなげていきたい。また、実習で得た技術や知識を活かして、より実践的な研究にも挑戦していきたい。
- ◆計画性、ストレスコントロール力を高めることができたので、課題は余裕を持って提出することなど、余裕がある学生生活を過ごそうと思う。
- ◆自分の専門分野だけでなく、英語力の向上も踏まえて勉強を続ける。就職活動の際には、今回のようなインターン活動に積極的に参加する。
- ◆今後の学生生活について、実習の体験から積極的な行動・質問、報連相の大切さを学んだことで主にこの2つの技術を上げていきたいと考えている。そのために、ゼ

ミでの報告や研究活動での実験などを丁寧に行っていきたい。研究活動では正確なデータが必要であり、そのためにはメンバーとのコミュニケーションや詳細に説明できる技術が必要で、研究活動をより丁寧に行うことで、これら2つの技術を上げる学生生活を過ごそうと考えている。

- ◆実習を通して、他のインターン生と比べると自分には「まずやってみよう」という挑戦力がまだ足りないと感じた。その反省を踏まえ、実習途中からはリスニングの練習やITパスポートの勉強を始めるなど、自分なりに行動を起こすようにした。今後の学生生活では、この学びを活かして日常的に挑戦する姿勢を意識していきたい。また、積極的に質問することやメモをしっかりと取ること、社員さんや仲間との関わりから学びを深める姿勢は今後も大切にしたい。さらに、事業内容や業界理解をより深めるとともに、自分の就活軸を明確にし、社会人の立ち居振る舞いや考え方を観察・吸収しながら成長につなげていきたい。
- ◆今後は研究室や学会での発表の機会を大切にして、それらのアウトプットのためのインプットを日々の授業や自主学習で行うサイクルを確立させる。
- ◆実習の発表の体験から発表するときに大切なことを学んだので、学生生活で発表するときに今回の実習で学んだことを活かそうと思う。また、実習の体験から意見交換や質問を積極的に行うことの大切さを学んだため学生生活で行う研究活動でも意見交換や質問をする姿勢を忘れずに取り組んでいきたい。
- ◆今回の実習を通じて人間関係や社風といった、働くにおいて重要視されるものを深く学べることを知った。
- ◆今回のインターンでは大学で学んだ知識は、直接は使わなかったが、発想の際は知識が必要であり、また学んだことの応用が今後も必要になると考えているので、大学での学習に改めて力を入れつつ復習もしていくべきだと感じた。
- ◆卒業後を見据えると、社会人に求められるのは専門知識だけでなく、チームワークや主体性、柔軟な対応力だと思い、今回の実習でその重要性を痛感したからこそ、残りの学生生活の中で、これらの力を少しずつ実践的に身につけていこうと思う。
- ◆今後の学校生活では、授業で学んだ理論が現場でどう使われるかという視点を持って学習に取り組みたい。また、グループワークや実験などの実践的な授業では、積極的に意見を出し合い、チームで協力する力もつけてい

きたい。他にも、インターンシップの機会があれば積極的に参加し、現場の声を聞きながら、自分の進路や専門分野についての理解を深めていきたい。

- ◆今回の実習では将来の自分に繋がるような仕事内容を経験できたため、それをさらに伸ばしていきたいように、必要な資格や技術に特化して学習を続けていこうと思う。
- ◆今回の実習を通じて、基礎知識を実践で活かすことの重要性を実感した。今後は授業で学ぶ理論をただ理解するだけでなく、「現場でどう役立つのか」を意識しながら学習していきたい。さらに、発表会での経験から伝える力の不足を感じたので、ゼミや授業での発表を通じてプレゼンテーション能力を磨きたい。
- ◆大学で学んでいる事と生産現場とのつながりを意識して今後の学業に励んでいき、色々な業界の企業説明会に積極的に参加して、自分に適した業界へと就職活動を行っていきたくと思った。また、社会人として必要な報告・連絡・相談の姿勢を身につけて、計画性や責任感も持った行動ができるように努めていこうと思った。
- ◆今回のインターンシップ体験をふまえ、今後の学生生活では、より実践的な視点を持って学びに臨もうと強く決意した。大学での講義や研究活動において、この知識が実際の現場でどのように活用されるのかという視点を常に意識したい。特に、力学や材料工学といった基礎科目の重要性を再認識したため、理解をさらに深め、CADや解析ソフトのスキル向上にも引き続き力を入れ、自主的に様々なモデリングや解析に挑戦し、応用力を身につけていきたい。さらに、実習で強く感じた現場との連携の重要性を踏まえ、多様な分野の学生との交流を積極的に行い、チームでの課題解決能力を高めたい。この実習で得た経験と学びを羅針盤として、社会に貢献できる技術者となるため、残りの学生生活を有意義に過ごしていきたい。
- ◆社会人を見据えて勉強したい。
- ◆将来、製造業で技術者として働いていくために、大学で学ぶ事へのより深い理解と現場で活用されているソフトをより使いこなす練習が必要だと思った。そこで、通常の講義をより集中して受講するとともに、研究室に配属されてから、SOLIDWORKSでのシミュレーションやExcelのマクロを組むことに積極的に挑戦したい。
- ◆実習の体験をふまえて、今後は次の3点を意識して学校生活を過ごそうと思う。1点目は、大学で学んだことをしっかり理解すること。今回の実習を通して、大学で学んだことが設計の現場で使われていることが多々見ら

れたので、大学で学んだことはよく理解し、さらに知識を深めていけるようにしていきたいと思う。2点目は、多くの企業のインターンシップなどに参加し、様々な企業について知ること。今回の実習を通して、インターンシップはその企業の社風や社員同士の関係などその企業について知ることができる最も良い機会であることが分かったことから、多くの企業のインターンシップや説明会に参加し、就職活動に活かせるようにしていきたい。3点目は、興味のある業界について調べること。今回の実習で、設計業者でも設計しているものが様々であるため、興味のある業界についてはしっかり調べるべきだと思った。

- ◆今回実習させていただいた内容で solidworks を用いた 3DCAD を使う場面があり、学校で学んだ技能が必要とされていることを知って、これからの学校での学びはしっかり取り組みたいと思った。また、この意欲を研究へつなげ、よりよい卒業研究結果につなげたいと思う。
- ◆インターンシップを通して、設計業務において CAD が果たす役割の大きさを強く実感した。実際に図面を扱う中で、ただ形を描くだけでなく、強度や機能、加工方法まで考慮した設計が求められることを学んだ。また、CAD ソフトを操作する際には、正確さや効率性だけでなく、第三者が見ても理解しやすい図面表現を心掛ける必要があると知り、自分の理解力と表現力の両方を高めることの重要性を感じた。この経験を踏まえ、今後の学生生活では、講義で学ぶ設計工学の知識をより深く理解し、それを CAD 演習や課題研究で積極的に応用していこうと思う。さらに、インターンで得た失敗から学び、改善する姿勢を大切に、試行錯誤を恐れずに課題に取り組み、実践的な設計力を磨いていきたい。将来的には、CAD の操作技術に加えて、設計の意図を論理的に説明できる力も身につけ、エンジニアとして現場で貢献できるような学生生活を送りたい。
- ◆今回の実習を通して、専門的な知識や技術だけでなく、協働力やコミュニケーション力の重要性を強く感じたので、今後は大学での授業で専門分野をさらに深めるとともに、ゼミ活動やアルバイトを通じて、他者と協力しながら課題を解決する力を養いたいと考えている。また、ジーテクトが海外にも多く拠点を持つことを知り、英語力をはじめとした語学的重要性も痛感したため、語学学習にも一層力を入れ、将来の進路につなげていきたいと思う。

- ◆2週間の実習を経て、今まで大学の授業で扱ってこなかった内容や、より発展的な内容を学び、普段の勉強とは別視点で物事を捉えることができた。これにより、積極的に学び、成長する姿勢を忘れないことを目標に、今後の学生生活を過ごしたい。この実習での経験は自分の学ぶ意識を高めた大きな要因であり、今後の研究や就職活動に活かしていきたい。
- ◆大学で学んでいる内容が仕事をするうえで直接生きてくることが知ったため、大学の勉強にもっと力を入れようと感じた。
- ◆今回の実習を通じて、大学で学んでいる知識や技術が実際の現場でどのように活かされているのかを実感した。同時に、自分にはまだ専門的な知識や柔軟なコミュニケーション力が不足していることも分かった。今後の学生生活では、授業や課題に丁寧に取り組むことはもちろん、グループワークや研究活動を通じて他者と協力しながら成果を出す力を磨いていきたい。また、資格取得や自主的な学習にも力を入れ、将来の進路につながる力を着実に身につけていきたい。
- ◆今回の実習を通じて、知識や技術の基盤だけでなく、現場で活かせる応用力の重要性を実感した。今後は授業や研究により一層真剣に取り組む、基礎力を固めると同時に、自ら課題を見つけて解決する力を磨いていきたい。また、人との協力や信頼関係の大切さも学んだため、友人や教員、アルバイト先など多様な人間関係の中で積極的に交流し、柔軟な思考と行動を身につけたいと考えている。
- ◆今回のインターンシップは、今後の就職活動の参考になればと思い参加した。そして、実習では加工について学ぼうと取り組んだ。今回の経験は、普段の生活を送っていくだけでは決して体験できないことであり、貴重な経験をさせていただいた。今回の体験は、今後の就職活動だけでなく、今後の研究においても役立てていきたい。
- ◆今回のインターンシップで発想力と専門知識が不足していることが分かったので、この課題を解決するために、卒業までに二つの取り組みを徹底していきたい。一つ目は異分野の知識を積極的にインプットしたり、日ごろから疑問を持つ習慣をつけることである。これらの習慣は新しいアイデアを生み出すきっかけになると思う。二つ目は専門分野の学びを深めることである。特に自分が関心を持つ情報システムについて、書籍などで理解を深め、卒業研究や将来のキャリアにつなげようと思う。
- ◆就職活動を今までよりももっとちゃんとやりながら過ごそうと考えている。今までは、少しでも興味がわいたらとりあえず参加してみたりして、かなりがむしゃらに活動していたが、今後は、就活の軸を定めて、自分の分析を行うとともに、計画を立てながら行おうと思う。加えて、今後は休みの日の時間の使い方を考え直そうと思う。三回生後期は、前期と比較して授業がとてもなく、演習の数も大きく減るため、時間が余ることが多くなると思う。なので、その時間で資格の勉強をしたり、就活のイベントに参加してみようと考えている。増えた自由時間を有意義に使えるような生活を心がけたいと思っている。
- ◆今回のインターンシップを通して、ものづくりには柔軟な発想力と粘り強さが必要であることを学べた。また、社員の方々の姿勢から、常に改善を重ねる大切さも実感した。今後の学生生活では、この経験を活かし、授業や研究活動に主体的に取り組んでいきたいと考えており、特に CAD や製図などの専門知識をさらに深め、インターンで得た学びを確実に定着させたい。加えて、課題に直面した際には柔軟な発想で解決策を探る習慣を身につけ、将来に向けて実践的な力を磨き、卒業までの時間を大切に、自分の強みを伸ばしながら、やりがいを持って働ける環境を見つけられるよう努力していきたい。
- ◆実習を通じて1番印象に残ったことが「トライアンドエラー」ということであり、いくらプロの方でもはじめから思い通りにいくわけではないので、私も、何回も挑戦を繰り返してあきらめないことを意識して精進していきたいと思った。
- ◆現場での経験から、学んだ理論と実務とのつながりを意識することの大切さを学んだ。今後は疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べたり教員や仲間に質問したりする姿勢を持ち、主体的に学ぶ学生生活を過ごしたいと思う。
- ◆学校で勉強してきたことが社会に出て使うことが分かったため、より勉強をまじめに取り組もうと思った。
- ◆今回学んだ加工の話にも通じる材料力学系の研究室になったので、よりこの分野のことを知っていき、自分のなりたいたいものを絞り込んでいきたい。また、仕事の大変さや学校で学んだことがどう生きてくるかななども知ったので、普段の授業をよりしっかり聞き、学んでいきたいと改めて思った。
- ◆まず、専門的な内容について話す。自動車の企業では、安全性などを調べるために、何度も実験・解析を行うので、今大学で習っている解析を、今後も、学んでいく

いと思った。次に、礼儀や挨拶の大切さについて学んだので、大学では挨拶する場面は少ないが、研究室やバイトなどで、もう一度、礼儀や挨拶を意識し直していきたいと思った。最後に、答えのないものに対して、自分で考えて答えを出すことの重要性について学んだので、レポートの考察など、まず、考えることを意識していきたいと思った。

- ◆礼儀や挨拶を心がけていきたいと思う。
- ◆実習の体験を通して、いろいろな方と接する機会が多いことを知って、今よりもっとコミュニケーション能力を磨く必要があると感じた。そのために、大学の友達とたくさん会話したり、研究室に配属されたら、教授や先輩方ともたくさん接していきたいと思った。また、研究室とかでは発表とかもあると思うので、人前でも堂々と話せるようにしていきたいと思った。
- ◆実習を通して、製造現場では専門的な技術だけでなく、正確さや責任感、周囲とのコミュニケーションがとても大切だと感じた。今後は授業や実験に積極的に取り組み、機械工学やロボティクスの知識・技能をさらに深めるとともに、グループ活動などを通して協調性や主体性も養い、将来社会で即戦力として活躍できる力を身につけたい。
- ◆自分だけでは分からない授業の内容であってもそのまま分からないままで放置したり、自分だけで理解しようとすると、理解できなかつたり、間違っ理解してしまうことになりやすいため、友達や先生などに聞いてなるべく早く、正確に理解するようにしようと思う。また、普段の学校の授業で習う内容が実際に働く際にどのように使われているのかを知ることができたため、今後は授業としてだけではなく、実際に働く際にどのようなことに使われているのかを意識して学習するようにしようと思う。
- ◆実習を通じて、知識だけでなく実際の作業における精密さや柔軟な発想の大切さを学んだ。今後の学生生活では、授業や課題に真剣に取り組むとともに、仲間との協働や意見交換を大切に、実習で得た経験を活かしながら主体的に学ぶ姿勢を持ちたい。
- ◆研究では仮定とは異なることが起こるため、事前知識と周りとのコミュニケーションが重要になる。そのため、研究内容の知識を深めるとともに、自分の研究内容および問題点を他人に伝える力を身につけていきたい。
- ◆実習を終えて、机上の勉強だけでなく実際に体験することが研究において大切であることを実感した。そして、

大学で学習していることをどのように活かすことができるか、これから学んでいくべきことは何かを知ることが出来た。さらに、働く上ではどのような職業であっても様々な価値観や意見を持つ人と協力することが重要であると感じた。そのため、今まで以上に勉学に励むだけでなく、視野を広げてたくさんの経験を積むことで様々な価値観や考え方を受け入れられるように人間力を高めていきたい。

- ◆卒業までの限られた時間を活用し、知識・技術・社会的視野を総合的に高め、将来の研究や仕事に活かしていきたい。
- ◆実習中の業務では学生実験で繰り返し行ってきた仮説立てから考察までの一連の手順を、卒業研究に近い条件の下で行うことができた。それに加えて、社会人としての礼儀作法を身につける貴重な機会となった。この貴重な機会を無駄にすることなく、学んだことをこれからの卒業研究や就職活動に活かしていきたい。
- ◆環境について学ぶことが出来たが、自分の好きなことや得意なことにも気が付ける機会だった。インターンシップに参加したのはこれが初めてなので、他にもいろいろなインターンシップに参加したいと思った。今後の学生生活では、もちろん勉強を頑張るのは当たり前だが、もっと自分の事を知る努力と他者を思いやる事が出来る人になる努力を頑張ろうと思う。私も将来、実習先の方々のように、カッコいい「自分の持っている能力を、自分だけのために使わずに、誰かのために使う」ことが出来る人になります！
- ◆計画性を持って課題に取り組むことや、仲間と協力しながら課題解決のために動いていきたい。また、世の中の役に立つ研究が出来るように、より学問の専門性を高めていきたいと思う。
- ◆専門的な知識や技術だけでなく、実際の現場で求められる姿勢やチームワークの大切さを学ぶことができた。今後の学生生活では、授業や研究により主体的に取り組むとともに、仲間と協力して課題に挑戦する姿勢を大切にしたい。
- ◆インターンシップで学んだことを自身の就職活動へと活かしたいと思った。また、社会人としての姿勢を忘れずに生活していきたい。
- ◆今回は研究所に実習に行かせていただき、プロの研究を体験することができた。学生実験とは異なり、様々な器具を使用したり、試行錯誤を繰り返しながら実習期間を過ごした。また、プロの実験ノートを見させていた

き、書き方も教えていただけた。これから研究室に配属され、実験が始まるので、今回の実習で学んだことを活かして研究者のような実験ノートや考えを養っていききたい。

- ◆実習先の方に就活のことやこの会社に決めた理由などを聞いて、いろいろな考え方の人がいると分かった。全然違う分野を勉強していた人がおられ、その違う分野の知識を活かしている人もたくさんおられたから、今後の学生生活で自分の知識を活かせる就職先を探していこうと思った。
- ◆私自身の経験値となるだけでなく、今後の就職活動に大きな自信を与えるものであるので、さらにマナーなどを学んでいこうと考えさせられた。
- ◆今回の実習を通して開発・研究職に対する理解を深めることで現状の私自身に足りない能力を知ることができた。私は「結果をまとめる能力」、「話の意図を理解する能力」を向上させる必要があると感じた。
- ◆報・連・相をしっかり行い、何か活動をするときは素早く連携が取れるようにすること。
- ◆実習を通じて、社会に出て働くとはどういうことかを学ぶことができたと思う。企業で働くうえでは、サービスや商品を受け取るお客様の存在を第一に考えて行動することが求められること、また社会人になってからも積極的に学ぶ姿勢が大切であることを実感した。今回の経験を今後の学生生活にも活かし、研究活動においても常に第三者の視点を意識しながら、積極的に学んでいきたいと考えている。
- ◆実習を通して、現場では知識だけでなく柔軟な発想力やコミュニケーション力が重要であることを学んだ。今後の学生生活では、専門知識の理解を深めるだけでなく、グループでの学びや課外活動にも積極的に参加し、人との協働を通じて総合的な力を高めたい。また、実習で得た課題意識を研究や学習に取り入れ、将来につながる学びにしていきたい。
- ◆今回の実習を終えて、大学で学んだ知識は将来働くときに、基礎になると気が付いたので、もっと積極的に幅広い分野の知識を身に付ける必要があると考え、今よりもっと自分から勉強をし、たくさんの知識を身に付けたいと考えた。
- ◆今回の実習を通じて、大学の講義だけでは見えてこない知識の活かし方や実際の現場での工夫や苦労を知ることができた。その経験から、今後の学生生活では講義で学ぶ内容をただ覚えるだけでなく、実際にどう役立つのか

を意識しながら学習していきたいと思う。また、実習中に感じた知識不足を補うために、自分から専門書や論文を読む機会を増やし、研究に直結する力を養っていききたい。今回のインターンでの学びを大切にし、自分の力をより実践的に高めていきたい。

- ◆今回の実習で、自分自身の自己分析の材料となったため、自分自身が将来やりたいこと、自分自身に向いている職種、改善すべき点などを見つめ直しつつ、今後の進路選択に繋げていきたいと思う。
- ◆まずは研究室配属後に与えられた研究テーマに対して積極的に取り組み、今後視野を広げられるように研究のスキルを身に付けていきたいと思った。
- ◆実習では、多くの社会勉強、将来のことについて学ぶことができた。その経験を生かしたいと考えた。社会勉強であれば、将来働いた時にどのような行動をとるか、また将来のことであつたら自分が就職活動で選ぶべき点などを自分がしたい事を尊重し選ぶべきだと考えた。そのためには学生生活の間に就職活動や、多くの会社の事を勉強するべきだと考えた。
- ◆今回の実習を通して、分からないことをすぐに質問して解決することの大切さを実感した。この経験を踏まえて、今後の学生生活でも受け身にならず、自分から積極的に学びにいく姿勢を大切にしていきたい。授業や研究の中で理解できないことがあればそのままにせず、先生や友人に相談して知識を深めるようにしたい。また、インターンで学んだ「効率よく学ぶための工夫」や「自分なりに整理して次につなげる姿勢」を普段の学習にも取り入れ、より充実した学生生活を送りたい。
- ◆今回の実習では自分の得意分野と課題を明確にすることができた。数量計算や水理計算のように集中力と正確さを発揮できる業務には適性を感じた一方で、断面図から立体をイメージする空間把握や CAD の操作には苦手意識が残った。こうした経験を踏まえて、今後の学生生活では授業で得た基礎知識をより確実に理解し、特に苦手と感じた部分を克服するために意識的に取り組みたいと考えている。また、現地調査を通して「現場を知ること」が学びを深める上で大切であると感じたため、日常の講義や研究においても「これは現場でどう活かされるのか」という視点を常に持ち、学習と実務を結び付けながら主体的に学んでいきたい。
- ◆実習を終えて今後学生生活において私は、コミュニケーションを大事にしていこうと考えている。社会インフラに関わる業界はコミュニケーションが重要とほぼ全ての

実習先に教えてもらったので、今後ゼミで横とのつながりも増やしていこうと思う。

- ◆今回の実習を通じて、座学の知識が現場や社会でどのように活かされているかを実感した。今後は授業で学んだことを現場や社会でどう使えるかを意識しながら取り組みたい。また、社会人として必要な責任感や人との関わり方を学んだので、大学生活でも周囲との協力や積極的な姿勢を大切にしたい。
- ◆今回の実習を通じて、基礎知識だけでなく、実践的なスキルや安全意識の重要性を再認識した。今後は、講義や実験において理論と実践の両面を意識し、主体的に学習に取り組む必要があると考えている。また、研究やキャリアに関連する専門知識を深めるため、自ら積極的に学びの機会を探し、挑戦していく学生生活を送るつもりである。
- ◆今回の実習を通じて、専門知識を現場で応用するためには基礎力に加えて、主体的に学ぶ姿勢や報連相の大切さ

を実感した。今後の学生生活では、研究室での実験や自主的な学習をさらに充実させ、実習で得た知識や経験を深めたいと考えている。

- ◆実習を通して考える力がついたと感じているので、日々の生活でも自分で考えることをやめないようにしたい。特に実験で、なぜこの結果が得られたのかをよく考察し、いろいろな視点から物事について考え良い考察ができるようになりたい。
- ◆機械系の分野の仕事はどんなものなのかを知るきっかけになり、興味を持つことができたことで、自分の将来の就職先の選択肢を広げることができた。製造系の仕事に就くことも視野にいれて、自分にあった仕事を探す。
- ◆自分がやりたいこと、就きたい業種に向かって必要な知識などを身につけ、自分の武器を作り磨いていって就職活動でいかせるように勉学に励んでいきたい。
- ◆自分が就きたい職業での興味のある技術について学ぶ。

学生には、報告会・交流会後にアンケートに回答してもらいました。

3. 報告会・交流会アンケート集計結果

このアンケートは、理工インターンシップ・グローバル人材育成プログラムの改善に資するためのデータとして使用いたしますので各設問に回答して下さい。※アンケートの回答が成績等に影響を及ぼすことはありません。

なお、本アンケートの回答をもって報告会を出席とします。必ず回答して下さい。

2025年度 理工インターンシップ・グローバル人材育成プログラム アンケート兼報告会出席票

問 1～3. 学生情報

問 4. 実習形態

〈2年生で出席した方に質問です。〉

問 5. 次年度、理工インターンシップやグローバル人材育成プログラムを受講してみたいと思いませんか。

問 6. 報告会に参加した感想をご入力ください。

〈報告会・交流会について質問です。〉

問 7. 報告会についてどのように感じましたか。

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

問 8. なぜそう思ったか理由を入力してください。

問 9. 交流会についてどのように感じましたか。

非常に良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

問 10. なぜそう思ったか理由を入力してください。

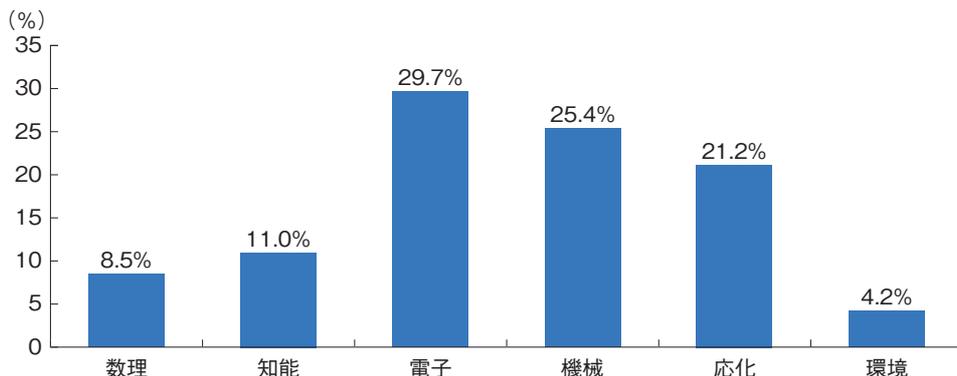
問 11. 交流会で、交流した企業名を入力してください。

※集計は企業名ではなく、交流した企業数を記載

問 12. 全体を通して、次年度に向けて改善点等があれば入力してください。

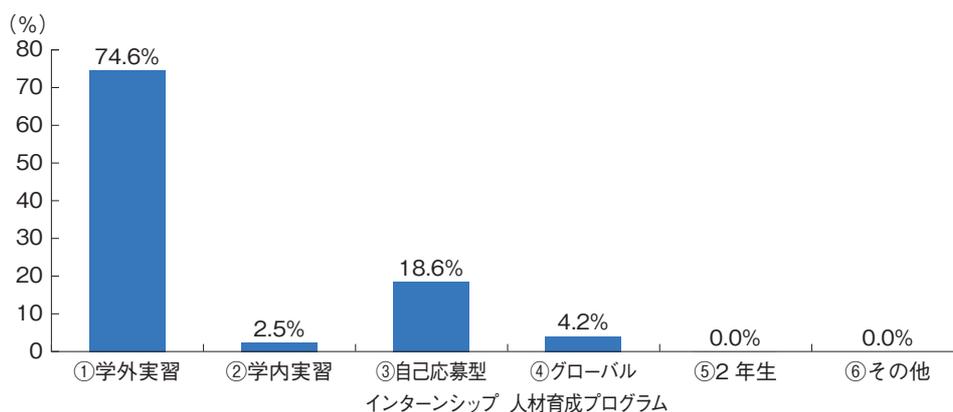
問 2. 所属過程を選択してください。

| 課程 | 人数 | 割合 |
|----|----|-------|
| 数理 | 10 | 8.5% |
| 知能 | 13 | 11.0% |
| 電子 | 35 | 29.7% |
| 機械 | 30 | 25.4% |
| 応化 | 25 | 21.2% |
| 環境 | 5 | 4.2% |



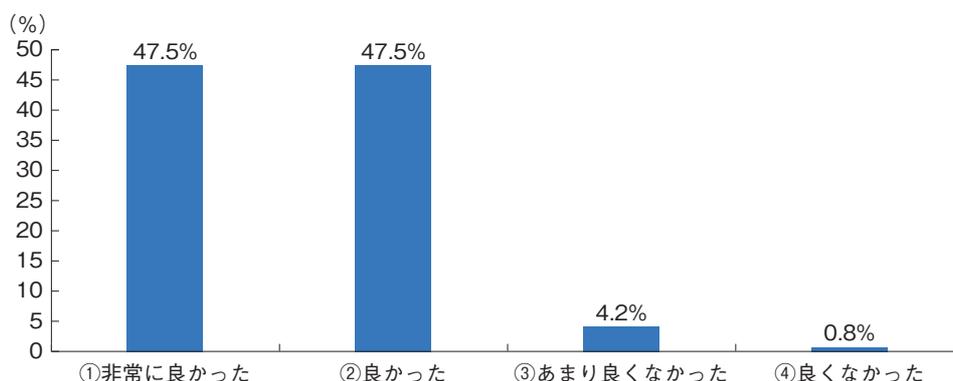
問 4. 実習形態を選択してください。

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | 全 体 | |
|---------------------|-----|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| ①学外実習 | 10 | 100.0% | 10 | 76.9% | 18 | 51.4% | 26 | 86.7% | 22 | 88.0% | 2 | 40.0% | 88 | 74.6% |
| ②学内実習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 8.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 2.5% |
| ③自己応募型 インターンシップ | 0 | 0.0% | 3 | 23.1% | 13 | 37.1% | 3 | 10.0% | 1 | 4.0% | 2 | 40.0% | 22 | 18.6% |
| ④グローバル 人材育成プログラム | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 2.9% | 1 | 3.3% | 2 | 8.0% | 1 | 20.0% | 5 | 4.2% |
| ⑤2年生 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| ⑥その他 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |



問 7. 報告会についてどのように感じましたか。

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | グローバル 人材育成 プログラム | | 全 体 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|------------------------|-------|-----|-------|
| ①非常に良かった | 5 | 50.0% | 8 | 61.5% | 11 | 32.4% | 15 | 51.7% | 10 | 43.5% | 3 | 75.0% | 4 | 80.0% | 56 | 47.5% |
| ②良かった | 4 | 40.0% | 5 | 38.5% | 20 | 58.8% | 13 | 44.8% | 12 | 52.2% | 1 | 25.0% | 1 | 20.0% | 56 | 47.5% |
| ③あまり 良くなかった | 1 | 10.0% | 0 | 0.0% | 2 | 5.9% | 1 | 3.4% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 5 | 4.2% |
| ④良くなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 2.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 0.8% |



①非常に良かった

- ◆自分が参加したインターンシップとは違うインターンシップがどのようなものだったのか知ることができたため。
- ◆大勢の前で発表するという経験はなかなかできないから。いい経験になったから。
- ◆理工インターンシップについて知ることができ興味深かったから。
- ◆他の学生がどのようなインターンに参加したのか、そこで何を感じたのかを知れたため。
- ◆これからのインターンなど就活のためになったから。
- ◆いろんな企業のイメージと実際が違うことを知れたため。
- ◆グローバル人材プログラムについての発表が興味深かったため。
- ◆様々な業界について知れたから。
- ◆他の人たちが体験してきたものを聞いて、自分もそうだなと思ったり、そんなことも学べたのかと場所によって本当に色々な学びがあることがわかり、たくさんの企業を知る意味を感じることができた。
- ◆自分とはまた別の視点で学びを得たのか知ることができ

- たから。
- ◆海外のプログラムについて海外に行く事ぐらいしか知らなかったが、日系アメリカ人に関する仕事など非常に興味深く、学外実習に行っていて知らない業務内容について知れた。
- ◆上手く発表できたと感じた。
- ◆それぞれの企業で学んだことや仕事内容を、報告会を通して詳しく理解することができたから。
- ◆発表した身であったので、他の発表者を見て勉強することもできたから。
- ◆自分の課程以外の仕事について知ることができたから。
- ◆他の学生のインターンシップの内容や学びを聞くことで、自分では気づけなかった視点を知ることができた。発表の仕方や資料のまとめ方も参考になり、今後の学びに活かせると感じた。
- ◆違う企業の報告会を聞くことで、どのような分野の企業があるかを知ることができたから。
- ◆発表された方がとても上手でわかりやすかったから。
- ◆色々な企業の説明があっ自分が行なっている分野以外の興味も持てたから。

- ◆他の課程の人たちはどのようなインターンを行ったのか、またグローバル人材育成プログラムでどんな経験をされてきたのかを知れたから。
- ◆様々な企業や海外での経験をそれぞれの視点から共有してくれてとても良い経験になった。
- ◆自分とは違う課程のインターンシップの内容を知れて良かったから。
- ◆自分以外の学生も共に実習に取り組んでいたことを実感できたから。
- ◆気になる企業の話が聞けてとてもためになった。
- ◆インターンシップの報告が聞いている方にわかるようなスライドと発表ができていたから。
- ◆私が学んでいる分野とはまた違う分野の会社だったり様々な業務内容と気づいたこと、学んだことを知れてとても良かった。海外育成プログラムにも少し興味を持つきっかけとなった。
- ◆同級生のインターンシップのことについて知れたから。
- ◆企業での実習の様子を具体的に知ることで、企業やその

- インターンについて、イメージし易くなったから。
- ◆他の方がどのような実習を受けていたのかを深く知ることができた。企業によって行う業務が全然違うことを実感した。
- ◆他の生徒がどのような経験をして何を学んだかを知ることが出来て自分が学んだこととの違いを比較でき、今後の為になった。
- ◆他課程の人とはインターンシップ先で行う内容に大きな違いがあり、理工学系統の仕事とはいえ業種による差を感じることができたから。
- ◆他の生徒がどんな実習や体験をしていたのか知れて面白かった。グローバル人材育成プログラムの報告で海外との文化の違いを聞いたのが興味深かった。
- ◆色々な発表を聞くことで、他のインターン先でどのような事をしたのか、そこでどのようなことを学べたのかを知ることが出来、すごく心に残った。
- ◆他の学生の学んだこと、身につけたことを聞き、それを自分の研究や就活に活かそうと思ったから。

②良かった

- ◆色々な企業の話を知るだけでなく、先輩方からのアドバイスも聞くことができて充実していた。
- ◆他の人がどんなふうにインターンシップを過ごしたのかを知ることができたから。
- ◆自身が知らない企業について知ることができたから。
- ◆他の企業やグローバル人材育成プログラムに参加した方の話を聞くことが出来たため。
- ◆自分の興味のある分野とは違う分野の企業のことが聞けて面白かったから。
- ◆様々な職種での実習の様子を知ることができたから。
- ◆インターンシップを経て様々な経験を積んだ人の意見を聞くことができた。
- ◆他人のインターン経験の発表があって、とても勉強になったと思う。
- ◆発表者全員がそれぞれどのような実習を行っていたのかがよく伝わってきた。また、聞いている人もしっかりと聞くことができていたと感じたため。
- ◆円滑に発表が進み、発表内容がわかりやすかったから。
- ◆知らないことを知れた。
- ◆企業からの発表でその企業に興味を持った。
- ◆他の企業の話や、体験した生徒から聞ける機会が貴重だったと感じる。
- ◆他の方が経験したインターンシップについての話を聞く

- ことができ、今後の自分に活かしたいと感じたから。
- ◆他の企業で行っていたことについて知りたいと思っていたから。
- ◆他の人たちが実習を通してなにを感じたのかを知れたから。
- ◆他の学生の報告を聞いて、人前での発表の参考になったから。
- ◆色々な人のスピーチが参考になり、学びに繋がったから。
- ◆悪いと思ったことが特になかったから。
- ◆話が理解できる内容だったから。
- ◆発表の人たちがハキハキ話していて聞き取りやすかった。企業の話もわかりやすかった。
- ◆色々な企業について学べた。
- ◆自分の知らなかったさまざまな視点や知識を簡単ではあるが得られたこと。
- ◆発表者の発表が分かりやすかった上、面白みもあり、だれていなかったから。
- ◆様々なプロジェクトで学んだことを聞くことができて自分にとっても参考になったため。
- ◆自分が所属している課程以外の学生の体験談を聞くことができたから。インターンシップ以外にも海外留学などの話も聞くことができたから。

- ◆他の方がインターンシップで得たことや経験について聞くことが出来たので、自分ではそういう視点で取り組んでいなかったなとか新しい発見があったから。
- ◆今回のインターンで関わった人の話やそれ以外の企業の

- 話を聞いたから。
- ◆インターン生の言葉が聞けて通常の会社説明会よりもその会社のことが知れたから。

③あまり良くなかった

- ◆感想言われても何もわからない。
- ◆時間配分が適切で無かったため。
- ◆他の課程の報告は前提知識がかなり異なり、自分との関

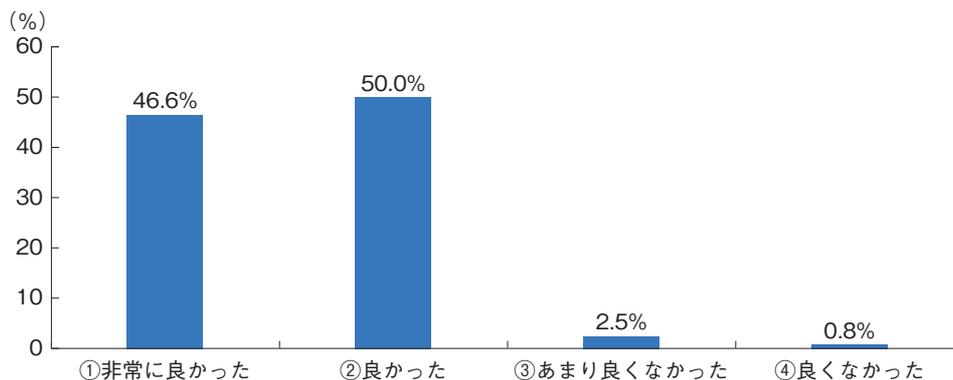
- 係を感じられなかった。
- ◆活動報告を聞くだけではあまり実感がわかかなかった。
- ◆スケジュールがキツキツすぎる。

④良くなかった

- ◆海外のインターンしか面白いと感じなかったから。

問 9. 交流会についてどのように感じましたか。

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | グローバル 人材育成 プログラム | | 全 体 | |
|----------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|------------------------|-------|-----|-------|
| ①非常に良かった | 5 | 50.0% | 5 | 38.5% | 12 | 35.3% | 18 | 62.1% | 11 | 47.8% | 2 | 50.0% | 2 | 40.0% | 55 | 46.6% |
| ②良かった | 5 | 50.0% | 8 | 61.5% | 19 | 55.9% | 11 | 37.9% | 11 | 47.8% | 2 | 50.0% | 3 | 60.0% | 59 | 50.0% |
| ③あまり 良くなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 5.9% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 2.5% |
| ④良くなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 2.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 0.8% |



①非常に良かった

- ◆自分の知らない分野について話を聞くことができたから。
- ◆多くの知らない企業を知れ、簡単にではあるが説明も受けられたため。
- ◆直接対談できたのが良かった。
- ◆自分の実習先以外の会社について知る機会となったため。
- ◆他のインターン先でどのようなことをしてどのような経験になったか知れた。
- ◆全ての企業がとても優しく対応してくださって、聞きたいことにもすぐに返答をくださったので、すごく有意義な時間だった。強いて言うならもう少し回れるくらい時間が欲しいと感じた。
- ◆様々な企業から話を聞いて、今後の就職活動の参考になった。
- ◆インターン先の会社と繋がりのある会社の話を聞かせてもらって、製品の特徴の違いや、共に作りあげている製品があることを知って、面白いと思った。
- ◆他の企業との交流はなかなかできない機会なのでよかった。
- ◆今まで知らなかった分野の企業について話を聞くことができたから。
- ◆自分の進路について視野が広がったから。
- ◆実際に対面して話すことで、より深く企業の内容に触れることができたから。またパンフレットなどを活用して後々確認できるから。
- ◆自身の進もうと思っていた企業について知ることができ、知見を深めることができたから。
- ◆多くの企業の情報や資料などを集めることが出来たため。
- ◆普段耳にすることの無い業界について知ることができた。
- ◆自身で企業を調べる中で、見つけることが出来なかった企業と出会うことができたから。
- ◆インターンシップで伺った企業先に直接感謝を伝えることができたのと、他の企業の話を知ることができたから。
- ◆実習を受け入れてくださった企業の方とも直接交流することができ、現場での学びを改めて整理できました。また、学生同士の意見交換もあり、互いの体験から刺激を

受ける良い機会になりました。

- ◆実際に働いている人の話を聞いてリアルを学ぶことができた。
- ◆自分自身が興味のある分野を探すきっかけとなったから。他の企業先の方と交流することで、ホームページには載っていないような詳しい情報を知ることができたから。
- ◆ブースの設置で自身の興味のある企業にお話を伺うことができたため。
- ◆実際に働いている人たちの話を聞くことができた。実習受け入れ先にもお礼を言うことができた。
- ◆インターン先にお礼ができたのと、他の企業について興味を持てたから。
- ◆自分の興味のある分野の企業の説明をしてもらい、どのようなことをしているのか知ることができた。
- ◆多くの企業と話すことができ、多くのことを知ることができたから。
- ◆一つ一つの企業の時間が短く沢山回ることができた。
- ◆自分の学習の分野外の企業とも交流する機会が得られた

②良かった

- ◆興味のある企業についてお話を聞くことができたため。
- ◆興味ある企業に距離感近く話せてよかった。普通の説明会とは違う距離感だったので楽しかった。
- ◆将来の設計に役立った。
- ◆環境生態に関する職業や興味のある分野はあまり無いように感じたが、面白そうだと感じる仕事が多くあって調べてみようと思った。
- ◆龍谷大学という場でさまざまな企業を知れたから。
- ◆お世話になったインターンシップ先の方に挨拶できたから。
- ◆色々な企業を知れたのはいいが、かなり疲れた。
- ◆就職に役立つ内容があったから。
- ◆気になる企業と出会えたから。
- ◆企業の方と直接話せる機会ができた。
- ◆いろいろな企業からの紹介や説明がよかったと思う。
- ◆自分が知らない企業が多かったので興味がある企業を一つ一つ回ることができたから。
- ◆聞きたいと思った企業の説明を受けることができたため。
- ◆お茶やお菓子があってリラックスして気軽に企業のブースに行き、説明を受けることができたから。
- ◆知らない企業と出会うことができたが、聞きたいところ

から。

- ◆今回の交流会で気になった企業が見つかったのととてもよかった。
- ◆直接気になる企業に話を聞きに行けて、質問できたから。
- ◆普段聞かないようなことを聞けたから。
- ◆一気に多くの企業の話が聞ける場があまりないので良い機会になったから。
- ◆お世話になった実習先の方とまたお会いできたから。また、多くの企業のパンフレットを貰い、説明を受けることができたから。
- ◆たくさんの企業との出会いの場になった。普段なら合同説明会で聞きに行かないような会社でも、気軽に聞かせてくださいと言えた。
- ◆色々な企業のお話を聞くことが出来、業界のイメージが広くなり知見が広がった。
- ◆自分が知らない企業の存在を知り、業務内容や事業概要を知れたから。企業が大学に来てくださる貴重な機会だった。

に行列ができてしまっていて全て回ることができなかった。

- ◆インターンや説明会に行ってみたい企業があった。
- ◆オンライン上ではなく、直接的に企業の方と喋れる機会が設けられていて、よりリアルな会話ができたから。
- ◆気になる企業に話を聞いて面白かった。
- ◆理系技術に関連する業種を中心とした企業について、事業内容について少し知ることができた。数理情報科学課程の専門と関連する企業が少なく感じた。
- ◆特に良くないことはなかったから。
- ◆話が面白かったから。
- ◆自分の行った企業の話や、それと似た企業の話聞いて今後に参考になった。
- ◆企業の貴重な意見を聞く事が出来たから。
- ◆気になっている企業をより理解出来た。
- ◆業界に偏りがあると感じた。
- ◆企業と交流できる機会を大学内でできたから。
- ◆全ては回ることが出来なかったが、自分の興味がある分野の企業の話沢山聞くことが出来たから。
- ◆自分の知らなかった分野や企業が多かったため。
- ◆聞きたい会社の話を聞きづらかったが大分聞けた。
- ◆インターンシップで行けなかった企業の説明を受けられ

た。

- ◆大学内で企業の方々と近い距離で交流を深めることができたから。企業の方に名前と顔を覚えてもらえる機会にもなったから。
- ◆学生への対応などがわかる。
- ◆たくさんの企業の方が集まり、会社ごとの業務の違いや雰囲気の違いなど色々見ることが出来たけど、話を聞く

時間はそこまでないので詳しく聞くにはやっぱりインターンシップに参加するしかないなと思ったから。

- ◆各企業がどのようなことをしているのかを知ることができ、これから自分のやることとどんなつながりがあるのかを知ることができたから。
- ◆応用化学課程からどんな企業に行くのか分かったから。

③あまり良くなかった

- ◆興味がないところに割く時間が無駄。
- ◆自分の軸に合う企業がとても少なかったから。
- ◆分析や機械系の企業ばかりで有機や高分子系が少なかったから。

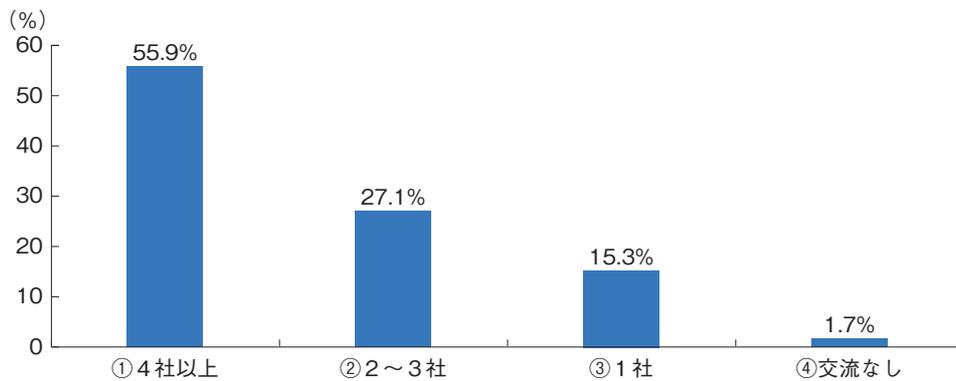
④良くなかった

- ◆学外で行った人の感謝を言う会みたいな感じで会社の説明が少ない。あとパンフレットで、その会社がどこの業界がわかりにくかった。

問 11. 交流会で、交流した企業名を入力してください。

※集計は企業名ではなく、交流した企業数を記載

| | 数 理 | | 知 能 | | 電 子 | | 機 械 | | 応 化 | | 環 境 | | グローバル 人材育成 プログラム | | 全 体 | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|------------------------|-----|-----|-------|
| | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| ①4社以上 | 8 | 80.0% | 10 | 76.9% | 20 | 58.8% | 16 | 55.2% | 8 | 34.8% | 3 | 75.0% | 1 | 0.2 | 66 | 55.9% |
| ②2～3社 | 0 | 0.0% | 1 | 7.7% | 7 | 20.6% | 7 | 24.1% | 12 | 52.2% | 1 | 25.0% | 4 | 0.8 | 32 | 27.1% |
| ③1社 | 1 | 10.0% | 1 | 7.7% | 7 | 20.6% | 6 | 20.7% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 18 | 15.3% |
| ④交流なし | 1 | 10.0% | 1 | 7.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 2 | 1.7% |



問 12. 全体を通して、次年度に向けて改善点等があれば入力してください。一〇

- ◆名札の粘着度を上げてほしい。
- ◆もう少し数回れるようにするために、あと 15 分ほど交流会の時間が追加で欲しい。
- ◆置いてあったお菓子が溢れやすそうなものが多かったのが気になった。
- ◆全体的に非常に良い体験になった。発表することでより記憶に刻まれ、良い思い出となった。
- ◆全体としてとても充実した内容だった。強いて言えば、報告会の後に小さなグループに分かれて話し合う時間があれば、さらに意見交換がしやすくなると思った。
- ◆報告会の内容に統一感がなく、企業を比較しにくかったので、発表者の内容を統一してほしい。
- ◆時間がかつかつすぎるので、もう少し余裕があればいいと思った。
- ◆もう少し広い会場でも良いと思った。
- ◆交流会に出席する企業を事前に知りたかった。
- ◆会社説明を前半に A グループ後半に B グループと分けていたが、交流のときは A も B も混合していたのでグループ分けをする必要は無いと感じた。
- ◆機械系の求人が多い気がしたので、もう少しバランス良くしてほしい。
- ◆応用化学向けの企業を増やしてほしい。とくに有機系。
- ◆企業の展示ブースが狭いと思ったので、資料を展示するボードみたいなのがあれば良いと感じた。企業に提供する食事と飲料をもう少し良いものにした方が良いと思った。
- ◆夏休みにこのイベントを行わないで欲しい。定期が使えず、移動費が高くなるから。こんな感じならば自己応募の人は、オンラインで行った方が良かったと感じた。
- ◆A と B でまとめて企業紹介をした方が良かったと思う。

Ⅷ. 受入機関アンケート集計結果

1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート集計結果
2. 「報告会・交流会」に関するアンケート集計結果

実習終了後、学外実習受入機関の皆様を対象にアンケート調査を実施しております。

アンケートから問題点・改善点等を見出し、次年度以降の学生指導に反映できるよう努めております。

受入機関アンケート集計結果

学外実習受入機関の皆様へ、下記の項目についてアンケートにご協力をいただきました。

1. 「理工インターンシップ（学外実習）」に関するアンケート

実施いただきましたインターンシップにつきまして、各設問にご回答をお願いします。

また、その他お気づきの点がございましたらご意見・ご感想をお聞かせください。

※アンケートの結果は、今後の理工インターンシップ改善に資するためのデータとしてのみ使用いたします。このほかに利用することは致しません。

設問1 受入機関名をご記入ください（企業名・研究所名・センター名など）。

（ ）

設問2 実習生のマナー・勤務態度はいかがでしたか。

大変良かった 良かった あまり良くなかった 悪かった

設問3 2でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

（ ）

設問4 スキルについて、実習生は貴社の求めるスキルを持っていましたか。

十分持っていた 持っていた あまり持っていなかった 持っていなかった

設問5 実習生に求めるスキルがあればお聞かせください。

（ ）

設問6 実習生は実習を通じて成長したと思われませんか。

強く思う 思う あまり思わない 思わない

設問7 6でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

（ ）

設問8 「理工インターンシップ」全体を通して、次年度に向けてお気づきの点やご要望などございましたらお聞かせください。

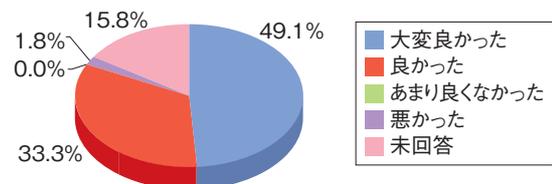
（ ）

2025 年度 理工インターンシップ（学外実習） 終了後アンケート（受入機関）

回答数 48 社 実習実施企業 57 社対象

設問 2 実習生のマナー・勤務態度はいかがでしたか。

| | 回 答 数 | |
|-----------|-------|-------|
| 大変良かった | 28 | 49.1% |
| 良かった | 19 | 33.3% |
| あまり良くなかった | 0 | 0.0% |
| 悪かった | 1 | 1.8% |
| 未回答 | 9 | 15.8% |



設問 3 2 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈大変良かった〉

- ◆分からないことは素直に聞くということが出来ており、社員とのコミュニケーションについても積極的に取られておりました。
- ◆礼儀正しく、真面目に取り組んでいただいていたからです。
- ◆遠方から早い時間の出勤にも関わらず毎日遅刻等なく、また実習時間中も真面目に取り組んでくださっていました。
- ◆社会人としての一般的なマナーが備わっており、かつ熱心に業務に取り組まれていたから。
- ◆しっかりと前向きに取り組んでくれました。
- ◆与えられた課題に真摯に取り組んでいました。
- ◆分からないことがあれば積極的に質問し、言葉遣い等もきちんとされていたから。
- ◆時間を守ってインターンに参加し、在籍中も研究に集中したり、他の研究者とコミュニケーションをうまくとって参加してくれていたため。
- ◆基本的な挨拶や人と関わる態度等、好印象を受けました。また、遅刻や欠席が無く、勤務時間中は指示したことに積極的に取り組まれました。
- ◆遅刻早退なく、積極的に発言もいただきました。
- ◆挨拶や指導員への感謝も述べており、話を聞く態度も良かった。
- ◆挨拶などの礼儀面でも充分であり、また、しっかりと業務に取り組んでいたため。
- ◆他部署からも評判がいいと感想が届いた。
- ◆熱心に取り組まれていました。
- ◆常に前のめりで、言われたことをすぐに実行する行動力を持っていた。
- ◆業務に対して熱心に取り組み、職員とのコミュニケーションも積極的に取りに行く姿勢が感じられた。
- ◆実習によく集中し成果を挙げた。授業等で習得したことを活用して取り組んでいた。
- ◆時間厳守で行動できた。当社の社員の説明を正確に理解して対応できた。
- ◆遅刻もなく、挨拶もできており、期間中はまじめに取り組んでくれていたから。
- ◆出勤時間も早く積極的に質問等されていた。
- ◆朝夕、出退勤時の挨拶や指導担当との受け答えなどから。
- ◆弊社での今回のインターンシップ課題に興味を持って積極的に取り組み、社員とのコミュニケーションも円滑にこなしてくれた。複数地域の事業所で活動となったが、移動や時間管理も問題なくこなせていた。
- ◆参加された3名ともに挨拶やコミュニケーション、人への気配りなど、社会人としての基礎がしっかり身につ

いていることがうかがえました。また、業務へ主体的に取り組む姿勢も見受けられ、指導内容の吸収力なども高

く評価しています。

〈良かった〉

- ◆インターンシップの学生2名とも、あいさつができており、礼儀正しかったです。インターンシップが終盤に近づくにつれて、学生達の弊社への関心が上がってきたのが伝わり、聴く姿勢が日に日に良くなりました。
- ◆必要最低限の挨拶や礼儀はできていた。願わくば、もう少し元気よく声を出してほしかった。
- ◆課題をやったら終わりではなく、さらに良くするために試行錯誤していたため。
- ◆コツコツ真面目に取り組んでいた為。
- ◆マナー・勤務態度の良い学生と、少し気になるなという学生がおり、差があったかと思えます。
- ◆指導者からの説明をしっかりと聞き、取り入れようという姿勢を感じました。

- ◆聞こえる声で挨拶ができ、聞く姿勢もできていた。
- ◆挨拶がしっかりでき、各所属からの指導について理解されていたと聞いております。
- ◆最初から挨拶や自己紹介等ができていたので、安心して見守っていました。報告会も二人で協力し、しっかりと発表できていました。受け入れ部門からも高評価でした。
- ◆挨拶などはしっかりと出来ていた。しかし積極性が足りなかった様に思います。
- ◆欠勤などなく、毎日真面目に出社されていました。
- ◆積極的な態度で明るく受け答えし、自分が学んできたことを活かして仕事に打ち込んでいたため。

〈あまり良くなかった〉

回答なし

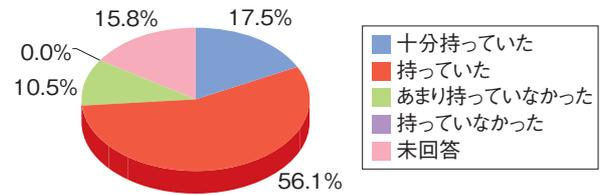
〈悪かった〉

- ◆2名の受入で、1名は非常に礼儀正しく意欲もあり好青年でした。もう1名は7月の事前連絡をしない(社内の準備が進まないのをごちらから連絡をとりましたが悪びれもありませんでした)、講義中に寝る、挨拶が

「ういっす」、初日は開会式があるため朝のみネクタイ着用をお願いしましたが巻き方が分からず首にひっかけているだけ、まったくメモをせず出鱈目な報告書を作成する、といった怠慢さが見受けられました。

設問 4 スキルについて、実習生は貴社の求めるスキルを持っていましたか。一

| | 回 答 数 | |
|-------------|-------|-------|
| 十分持っていた | 10 | 17.5% |
| 持っていた | 32 | 56.1% |
| あまり持っていなかった | 6 | 10.5% |
| 持っていなかった | 0 | 0.0% |
| 未回答 | 9 | 15.8% |



設問 5 実習生に求めるスキルがあればお聞かせください。

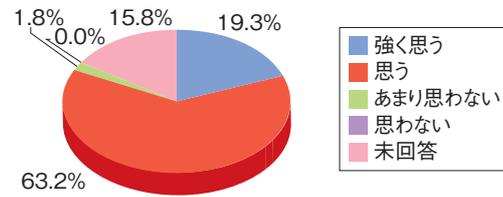
- ◆3DCAD や創造性スキル。
- ◆設計の説明をすると、話ののみ込みが早く、スムーズに設計をしていただけました。
- ◆あいさつができ、PC の操作がある程度できること。
- ◆プログラミングや設計等への興味・関心、積極的に疑問を解消しようとする姿勢。
- ◆スキル不足であったとしても、それをカバーしようとする努力されるのであれば現時点では良いと考えています。
- ◆CAD、CAM、各種工作機械等の実習による操作経験。
- ◆実習課題の構造の理解力、CAD 操作の習得力。
- ◆分からないところは聞く力。
- ◆他者と上手にコミュニケーションが取れるようなスキルがあれば望ましいかと思います。ただ、コミュニケーションがうまくなくても、真面目に取り組める性格であれば、十分なスキルかと思っています。
- ◆設計業務の流れを説明し、内容を理解し調査・発表をしていただきました。
- ◆実験器具を取り扱うスキル。危険物を取り扱う知識。
- ◆大学で学ぶ科学に関するスキルが基本的に重要です。例えば、試薬や実験器具等を適切に使用できること、実験を安全に行うための知識、濃度等の計算が容易にできることなどです。
- ◆機械設備の設計・改修など実習を踏んで成長していただきたい。
- ◆業務により異なる部分があり一概には言えないが、ソフトウェアの知識とハードウェア（特にマイコンなど）の知識があることが望ましい。
- ◆スキルについては、入社してから学んでいただければと考えておりますので、実習生に事前にもとめているスキルはありません。実習生にもとめるのは、難しい内容や興味のない事柄であったとしても、課題感も持って前向きに学んでいただくことと思います。
- ◆物事に積極的に取り組む姿勢、元気さ、コミュニケーション力。
- ◆現場において重要な協調性や新しい業務に取り組む際には探求心も感じられ、当社で活躍する人物像と非常にマッチしていた。
- ◆ビジネスマナーよりは、各課程で学ぶ内容をよく理解し身に着けていることを期待する。
- ◆実習企業は学校とは違う環境であるが、環境の違いに適応し、実験は作業をスケジュール通りに仕上げられる能力を期待する。
- ◆最終日に、実習の報告会を開催しているので、パワーポイントで学んだ事などをシンプルにまとめる能力があるとよいと思います。専門的な知識では、CAD（3D・2D）の操作スキルなどがあれば、なお良いかと思いません。
- ◆コミュニケーション能力があるといいです。
- ◆専門知識については、実習期間中に習得していただければ結構かと思います。一点、プレゼンテーション力・人前で発表する力・発言する力については授業やゼミの中でも強化いただけますと幸いです。
- ◆基本的な加工図面が読める力、製作時に使う基本的な工具等の名前が分かること、年長者に対して明るく丁寧に話すことができる力。
- ◆基礎的な部分ではコミュニケーション能力。特に、分からないこと困った事迷った時に担当先輩社員に聞く発信力。今回の課題では CAD を使用した設計・作図。

◆当社の事業である建設コンサルタントは一般には馴染みの少ない業務です。「未経験の分野でも柔軟に取り組む

力」「主体的に学習する力」をお持ちであれば、実習を通じて技術者としての視野が広がると考えております。

設問 6 実習生は実習を通じて成長したと思えますか。

| | 回 答 数 | |
|---------|-------|-------|
| 強く思う | 11 | 19.3% |
| 思う | 36 | 63.2% |
| あまり思わない | 1 | 1.8% |
| 思わない | 0 | 0.0% |
| 未回答 | 9 | 15.8% |



〈その他の回答〉

なし

設問 7 6 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈強く思う〉

- ◆知らない事を自分なりに調べて、発表している姿を見て、成長したと感じました。
- ◆実習期間中に「なぜ働くのか？」という質問があり約30分間の意見交換をしました（内容は省略）。後日提出されたレポートを拝見すると、弊所の業務（環境に関する測定分析）を生業とする職員と交流したことで、新たな見方が加わって視座が上がったように思われました。
- ◆緊張されたと思いますが、当社の環境にもすぐ慣れていただいた様子でした。最終日の成果報告会でも短い期間

の中で資料をまとめ、しっかりと発表してくださいました。

- ◆自分で設計したものを作るという、モチベーションを持って、それを完成させた。
- ◆実際に、学生が作成された実習報告書を拝見し、業務内容の理解度が高く、着眼点の良さを感じたため。
- ◆よく自身の分析を行い、実習で達成したこと・今後の目標を明確に捉えていた。
- ◆今回の実習生は実習3日目頃から作業にも慣れ、実験などのポイントが理解できていたから。

〈思う〉

- ◆実際の部署で、業務を経験したり、新しい体験をされたので、実務や人間関係など何か新たに学びがあったのではないかと思うため。
- ◆あいさつについては、会社のスタッフとコミュニケーションが取れる学生であってほしいためです。PCの操作は、理系スタッフであれば弊社では必須のスキルであるためです。Excelやパワーポイントなどで資料が作れる能力があれば問題ありません。
- ◆初日は生コンクリートの製造工程やソフトウェア設計についての知識も十分でなかった中、顧客目線で操作盤ソフトウェアの制作という課題を作り上げ、自身の設計した内容について発表するまでになられ、スキルや仕事の取り組み方をしっかり学んでいただけたと感じております。

- ◆大学の課題やバイトとは異なり、責任を持って業務を行うこと。やったら終わりではないことを実行できていたため。
- ◆様々な年代の従業員とコミュニケーションをとり、実習プログラムを日々こなす事で、最終日は顔つきがいい意味で変わっていました。自信がついたように感じました。
- ◆機械系向けのインターンシップ内容となっていました。その中で、お一人は応用化学課程の学生さんでしたが、他の方に遅れない様に頑張っていたら良かったです。粘り強く業務に向き合っていると感じました。
- ◆気になることを質問してくれました。
- ◆実地での初めての経験を、複数こなして頂いたからです。

- ◆やはり実際の職場での体験は、色々な意味で成長につながったと思います。特に機械設計業とはどういうものかと、体験してもらえたと思います。
- ◆短期間にもかかわらず、多くのことを調べ発表していました。
- ◆開発の流れが期間を通じて理解して行動できるようになったため。
- ◆改善の意欲を感じることができた。
- ◆しっかりと実習報告書にまとめ上げられていた。
- ◆各自目的を持ち、受講内容の意図を理解しようとしていた。また、成果も言語化していた。
- ◆実習を通して、新しい知識を吸収することができたのではと考えている。また当初はコミュニケーションが苦手な部分が見受けられたが、最終的には社員に対し積極的に質問することができるようになったのではと感じる。
- ◆今回、他大学の実習生と合同で実施しており、同じ宿泊先に宿泊して共同生活も経験いただき、コミュニケーションについて大きく成長を感じました。
- ◆「はたらく」ということが漠然としていた状態で来てくださったと思います。それが現実として体験できたことで、ご本人たちの中で課題が生まれたと思います。

〈あまり思わない〉

- ◆最初から最後までおとなしい学生だねで終わってしまった。もっと積極的に話をしてほしかった。

〈思わない〉

回答なし

設問 8 「理工インターンシップ」全体を通して、次年度に向けてお気づきの点やご要望などございましたらお聞かせください。

- ◆次年度も受入をさせていただきます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。
- ◆次年度も何卒よろしく願い申し上げます。
- ◆特にございませんが、学生の興味や関心に基づいて実習先を選定することが重要であると思われます。
- ◆実習の目的を理解し、最低限の社会常識を持って臨んでいただかなければ、お互い不毛な時間が一部生じてしまいます。よくよくインターンシップの準備をしていただければ幸いです。ネガティブな内容を多く記載してしま

これからの残りの学生生活で活かしてくださると信じています。

- ◆提出していただいた報告の中で、普段学んでいる学問が社会の中でどのようにいかされるのかという中で、一部ですが、学校での学びが仕事でも生きてくる事を実感して頂けたようなので、よかったですと思います。
- ◆学生の日々の業務への取り組み方が、初日より日々変わっていきのが見られたから。
- ◆旋盤加工、フライス加工、金型、3DCAD、CAM など金属加工の基本的な仕事の触りの部分を体験し、自分の興味のある分野や得意不得意が分かったのではないかと思います。また、図面を描くところから加工までを一貫して体験したことで、ものづくりの楽しさを感じてもらえたのではないかと思います。
- ◆限られたインターンシップ期間内に課題を進め、結果の確認とまとめまでを行うために必要と考えます。
- ◆3名ともに、実習を通じて「適応力」「積極性」「主体性」「コミュニケーション力」などが向上し、確実に成長したと評価しております。受入れ部署より報告書のまとめ方も上達したとの報告を受けております。

いしましたが、弊社としても若者と接する貴重な機会であり、実習生の受入を楽しみにしています。より充実した実習となるよう弊社も努力しますし、次年度以降の受入もぜひ協力させていただきたく存じます。

- ◆実習現場が駅からバスで15分程度かかるのですが、今回2名とも滋賀県にお住まいの方で良かったと思いました。
- ◆参加学生はモチベーションが高い方が多く感じます。
- ◆学生さんにはやはり積極性だけは出してもらいたい。も

ちろん初めてのことでなければ緊張することは理解できるが、せっかくの機会なので、どんどん積極的に発言・行動をするように心掛けてほしい。

- ◆とても良い制度かと思います。学生が社会に踏み入る前段階で、自身が得意とすること、不得意としていることを明確にする良いチャンスになりえると思います。
- ◆今後も化学の知識を持った学生と実習を行いたいです。
- ◆次年度も同様で結構かと思われますが、夏休み期間の気温が以前より高くなってきたため、弊所のように屋外での実習がある場合は、十分な注意が必要と思いました。
- ◆いつもお世話になりありがとうございます。毎年来てくださっており、受け入れ部門の従業員も龍谷大学 OB も大変刺激を受けています。来年もぜひ来ていただきたいと思います。よろしくお願いします。
- ◆特にありません。学生情報など早めに提供いただけたこ

とはよかったです。

- ◆いつも、素晴らしい学生たちをありがとうございます。
- ◆来年も積極的に行動力のある学生（業種柄男子学生がベター）を派遣してほしい。
- ◆インターンシップ生が、私用 USB を持ち込み、会社パソコンに差し込んだことで会社パソコンがウイルスに感染するという事例が発生しました。企業情報の持ち出しリスク・ウイルス感染リスクについては、学校でも十分にご指導ください。
- ◆まず、アンケートの回答が期限内に回答出来ず、誠に申し訳ございませんでした。気づき・要望としては、弊社としては貴学の理工インターンシップ受入は初めてでした。過去の貴学学生が、他社でどのような体験や課題に取り組んでいたか事例を提示頂けると、弊社としてもより良い準備が出来るのではと感じました。

2. 「報告会・交流会」に関するアンケート

報告会・交流会について各設問にご回答をお願いします。またその他お気づきの点がございましたらお聞かせください。

設問 9 2025年度の報告会・交流会のご出欠についてご回答ください。

※欠席の場合は以上でアンケートは終了です。

出席 欠席

設問 10 報告会について

大変良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

設問 11 10でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問 12 交流会について

大変良かった 良かった あまり良くなかった 良くなかった

設問 13 12でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

()

設問 14 報告会・交流会全体を通して、次年度に向けてお気づきの点や要望などございましたらお聞かせください。

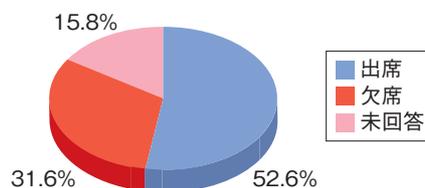
()

報告会・交流会 終了後アンケート（受入機関）

回答数 30 社 報告会・交流会出席回答 35 社対象

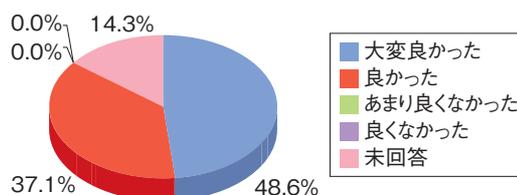
設問 9 2025 年度の報告会・交流会のご出欠についてご回答ください。 —●

| | 回 答 数 | |
|-----|-------|-------|
| 出席 | 30 | 52.6% |
| 欠席 | 18 | 31.6% |
| 未回答 | 9 | 15.8% |



設問 10 報告会について —●

| | 回 答 数 | |
|-----------|-------|-------|
| 大変良かった | 17 | 48.6% |
| 良かった | 13 | 37.1% |
| あまり良くなかった | 0 | 0.0% |
| 良くなかった | 0 | 0.0% |
| 未回答 | 5 | 14.3% |



設問 11 10 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。 —●

〈大変良かった〉

- ◆インターンシップの報告会については、他社ではどのような内容のものを行っているのか、学生の皆様がどのような動機でインターンシップに参加されているのか、何がよかったのか等、参考になる情報を沢山得ることができたためです。
- ◆他社のインターンシップに参加された学生の発表を拝見し、自社のカリキュラムの改良の参考とさせていただくことができました。
- ◆学生にとって、立派な会場で多くの人の前で報告するという事は貴重な経験であると思います。
- ◆他の企業での実習がどのようなものがあるのかを毎年聞かせていただいで参考にしています。
- ◆他の企業がどんなインターンシップをされているかわかったこと。
- ◆学生にとってのインターンシップの重要性を再認識することができた。
- ◆インターンシップを通じて、学生が様々な学びを得ることが実感できました。また、進路選択について、どのような点を重視しているのか知ることができました。

〈良かった〉

- ◆インターンシップを通して、学生たちがどのようなことを考え、感じたのかを知れて、大きな学びになりました。
- ◆様々な実施事例が参考になりました。
- ◆他の企業の様子も知れたので。

- ◆インターンシップに参加した学生の体験談や受け入れ企業の発表を聞き、次年度からのインターンシップの参考になりました。
- ◆他社の内容で一部参考にできる部分があった。大企業のグループ会社なので福利厚生が充実していると思ったと

いうのは報告内容ではないのではないか。実習内容やせめて担当社員の所感で留めてほしかった。

- ◆レベルの高い報告が多かったから。
- ◆他社のインターンシップの内容が知れたから。

〈あまり良くなかった〉

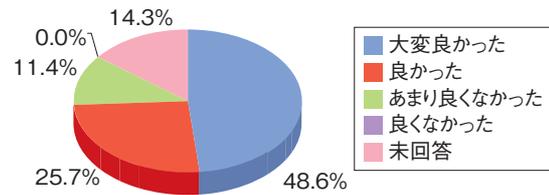
回答なし

〈良くなかった〉

回答なし

設問 12 交流会について

| | 回 答 数 | |
|-----------|-------|-------|
| 大変良かった | 17 | 48.6% |
| 良かった | 9 | 25.7% |
| あまり良くなかった | 4 | 11.4% |
| 良くなかった | 0 | 0.0% |
| 未回答 | 5 | 14.3% |



設問 13 12 でなぜそう思われたのか理由をお聞かせください。

〈大変良かった〉

- ◆様々な学生と密に接することが出来たため。
- ◆多くの学生の方や先生とご挨拶ができたため。
- ◆10名以上の学生と面直で交流会できたためです。
- ◆PRの機会をいただき、多くの学生とお会いすることができました。
- ◆学生との交流が二年前よりも改善していたため。
- ◆多くの学生とも話ができたので。
- ◆当社のような機械加工の会社が少なく、機械の学生を含めて多くの学生と交流を持つことが出来た。就活に関してはまだ明確なビジョンが無いような感じであり、その段階で当社を知ってもらえたことは意味があったと考える。
- ◆企業のブースや紹介の時間があり、学生との交流ができました。
- ◆昨年よりも学生と出会う時間が増えました。ラフな感じもまたよかったと思います。
- ◆インターンシップに参加した学生以外にも交流ができたこと。
- ◆機械系学生に対して会社を紹介する場は非常に少ないため、交流会を通じてより多くの学生に企業アピールができたと思うため。
- ◆多くの学生と交流が出来、先生方ともお話しが出来たことです。
- ◆すべての学科の学生と交流できたため。

〈良かった〉

- ◆学生に直接お声がけ出来るのは良かった。
- ◆学生に対してブース形式で説明を行うことができ、学生に親身になって説明することができました。
- ◆立食ではなく、テーブル形式になり、学生と落ち着いた話が出来た。
- ◆まだ新参なので、興味を抱いてくださった先生とお話しすることができてよかった。実習参加者以外にも、ブースを訪れる学生と会うことができた。
- ◆学生と金属加工やものづくりについての話ができて良かった。

〈あまり良くなかった〉

- ◆訪問学生を待つだけでは物足りなく感じます。
- ◆軽食をご用意いただいておりますが、飲食しながら交流できるような運用にはなっていなかったと感じます。また、各社前に一列に並んで会社紹介をしましたが、効果があるように感じませんでした。各ブースを設けていただいているので、そのブースで会社紹介するほうが、会社のロゴや資料等を見せることができるし、視覚的にもブースの場所案内も兼ねているので、ブースで会社紹介するほうが良かったと感じました。
- ◆「席から動かないでほしい」と言われ、学生とコミュニケーションが取れなかったから。
- ◆交流会の形式が変わっていて、準備が不足していた。

〈良くなかった〉

回答なし

設問 14 報告会・交流会全体を通して、次年度に向けてお気づきの点や要望などございましたらお聞かせください。

- ◆今年度の内容は学生にとっても、企業にとっても良い内容だったと感じております。引き続きご要望がございましたら、いつでもインターンシップを受け入れさせていただきます。どうぞお気軽にお申し付けください。引き続きよろしく願い申し上げます。
- ◆貴学部の学生との大変貴重な機会をいただきありがとうございます。交流会で軽食が中央にあり、学生が中央に寄っていらっしゃる面が見られたのが少し気になりました。
- ◆特にございません。貴重な機会をいただきありがとうございます。ぜひともまたご参加させていただきたく存じます。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。
- ◆本年は報告会での企業発表の機会を頂戴し、誠にありがとうございました。ぜひ今後とも、何卒宜しく願い申し上げます。
- ◆次年度も今年度同様に、多くの学生と接する機会を頂戴できますと幸いです。今後ともよろしく願い申し上げます。
- ◆交流会では、学生が出入口付近に溜まりがちになるので、そこを次年度は工夫された方が良いかと思えます。
- ◆来年度もよろしく願います。
- ◆興味を持って来てくれた学生の記録（名前）を取っていか悩みました。（守衛の入門チェックがかなり混雑していた。今年から？）
- ◆今年も報告会・交流会の開催ありがとうございました。様々な学生とお話でき、有意義な時間となりました。交流会がブース形式になったことで、学生は気になる企業の話聞きに行きやすくなったかと思いますが、机があることで、企業側から話しかけに行くことが難しかったと感じました。
- ◆実習先を決める前に学生向けの企業紹介を行うことで、ニーズとシーズがマッチングできるようにも思いました。
- ◆学生が胸につけていた名札シールが取れやすく、みなさん胸を押さえてお話を聞いて下さっていました。もう少ししっかり付くシールがよさそうです。
- ◆PR をさせていただけるのはありがたいが、おそらく多すぎて記憶に残らないので1セクションあたりの社数をもう少し少なくしてもよいのでは。「企業が対象とする課程」か、「どの課程の人が実習に参加した実績があるか」というような色別目印はあってもよいのでは。
- ◆交流会では、学生と話ができるようにしてほしい。
- ◆インターンシップ自体は特にございませんが、報告会での学生との交流会の内容については、合同企業説明会のような形式になっていましたが、来年以降も同じ形式で続けられるようなら、準備していきたいと思えますので、案内にその旨明記いただけるとありがたいです。
- ◆交流会の席を工夫されており、話やすい環境でした。次年度も是非参加させて頂きたいのでよろしく願います。
- ◆企業のPR タイムが長いと実際に企業と学生が話すための時間が少なくなるので、工夫が必要かと思いました。

◆

Ⅸ. 理工インターンシップ(学外実習) Ⅰ・Ⅱ / グローバル人材育成 プログラム過年度データ

◆

1. 過年度の受入機関数と派遣学生数
2. 過年度報告会での報告者

1. 過年度の受入機関数と派遣学生数

| 年 度 | | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 (H13) | |
|-------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------------|---------|
| 受入先種別 | | (H3) | (H4) | (H5) | (H6) | (H7) | (H8) | (H9) | (H10) | (H11) | (H12) | 大学 | コンソーシアム |
| 受入機関数 | | 209 | 199 | 201 | 211 | 211 | 199 | 220 | 227 | 220 | 240 | 230 | 11 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 100 | 97 | 116 | 123 | 124 | 124 | 113 | 132 | 119 | 117 | 124 | 3 |
| | 電 子 | 93 | 81 | 85 | 86 | 113 | 82 | 95 | 92 | 94 | 113 | 89 | 7 |
| | 機 械 | 89 | 87 | 90 | 79 | 87 | 96 | 79 | 105 | 91 | 108 | 95 | — |
| | 物 質 | 93 | 79 | 86 | 86 | 86 | 89 | 81 | 119 | 88 | 93 | 70 | 2 |
| | 情 報 | | | | | | | | | | | | |
| | 環 境 | | | | | | | | | | | | |
| | 合 計 | 375 | 344 | 377 | 374 | 410 | 391 | 368 | 448 | 392 | 431 | 378 | 12 |

| 年 度 | | 2002 (H14) | | 2003 (H15) | | 2004 (H16) | | 2005 (H17) | | 2006 (H18) | | |
|-------|-----|------------|---------|------------|---------|------------|---------|------------|---------|------------|---------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | コンソーシアム | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 217 | 8 | 209 | 20 | 208 | 4 | 220 | 17 | 203 | 22 | 2 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 117 | 3 | 91 | 11 | 103 | 3 | 25 | 10 | 12 | 14 | 1 |
| | 電 子 | 78 | 6 | 91 | 8 | 83 | — | 85 | 3 | 84 | 1 | 1 |
| | 機 械 | 87 | — | 110 | 1 | 90 | — | 99 | 1 | 83 | 2 | — |
| | 物 質 | 92 | 1 | 110 | — | 93 | 1 | 72 | 2 | 93 | — | — |
| | 情 報 | | | | | | | 97 | 1 | 77 | 3 | — |
| | 環 境 | | | | | | | 20 | — | 23 | 3 | — |
| | 合 計 | 374 | 10 | 402 | 20 | 369 | 4 | 398 | 17 | 372 | 23 | 2 |

| 年 度 | | 2007 (H19) | | | | | 2008 (H20) | | | |
|-------|-----|------------|---------|-------|-----|------|------------|---------|-------|-----|
| 受入先種別 | | 大学 | コンソーシアム | 滋賀経産協 | 協定型 | 自己応募 | 大学 | コンソーシアム | 滋賀経産協 | 協定型 |
| 受入機関数 | | 178 | 49 | 4 | 8 | 2 | 203 | 24 | 18 | 9 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 14 | 11 | — | 6 | 2 | 8 | 11 | — | 11 |
| | 電 子 | 14 | 46 | — | 1 | — | 47 | 20 | 9 | — |
| | 機 械 | 100 | — | — | — | — | 102 | — | 10 | — |
| | 物 質 | 90 | — | 7 | — | — | 98 | — | 4 | — |
| | 情 報 | 81 | 1 | — | 2 | — | 107 | — | 4 | — |
| | 環 境 | 21 | 3 | — | — | — | 30 | — | — | — |
| | 合 計 | 320 | 61 | 7 | 9 | 2 | 392 | 31 | 27 | 11 |

| 年 度 | | 2009 (H21) | | | | | 2010 (H22) | | | |
|-------|-----|------------|---------|-------|-----|------|------------|---------|-----|------|
| 受入先種別 | | 大学 | コンソーシアム | 滋賀経産協 | 協定型 | 自己応募 | 大学 | コンソーシアム | 協定型 | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 161 | 15 | 3 | 9 | 3 | 164 | 32 | 5 | 3 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 32 | 4 | — | 9 | — | 20 | 12 | 3 | 2 |
| | 電 子 | 15 | 8 | — | 1 | — | 36 | 4 | — | — |
| | 機 械 | 79 | 1 | 7 | — | — | 92 | — | — | — |
| | 物 質 | 87 | — | — | — | 1 | 86 | — | 1 | 1 |
| | 情 報 | 63 | 4 | — | — | 2 | 49 | 24 | 1 | 1 |
| | 環 境 | 11 | — | — | — | — | 20 | — | 1 | — |
| | 合 計 | 287 | 17 | 7 | 10 | 3 | 303 | 40 | 6 | 4 |

| 年 度 | | 2011 (H23) | | | | | 2012 (H24) | | | | | |
|-------|-----|------------|--------|---------|-----|------|------------|--------|---------|-----|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | 海外キャリア | コンソーシアム | 協定型 | 自己応募 | 大学 | 海外キャリア | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 140 | 15 | 33 | 43 | 3 | 129 | 16 | 28 | 30 | 2 | 2 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 18 | 2 | 8 | 4 | 2 | 15 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 電 子 | 76 | 2 | 10 | 1 | 2 | 25 | 1 | 7 | 1 | — | — |
| | 機 械 | 74 | 2 | — | — | — | 49 | 3 | 41 | 26 | — | 1 |
| | 物 質 | 69 | 3 | — | — | — | 86 | 8 | — | — | — | — |
| | 情 報 | 26 | 5 | 20 | 60 | — | 38 | — | 39 | 19 | 1 | 1 |
| | 環 境 | 14 | 2 | — | — | — | 15 | 3 | 1 | 1 | — | — |
| | 合 計 | 277 | 16 | 38 | 65 | 4 | 228 | 16 | 89 | 48 | 2 | 3 |

| 年 度 | | 2013 (H25) | | | | | | 2014 (H26) | | | | | |
|-------|-----|------------|-------|---------|-----|------|------|------------|-------|---------|-----|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 144 | 16 | 44 | 35 | 1 | 4 | 140 | 16 | 25 | 39 | 2 | 2 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 20 | 3 | 8 | 11 | 1 | 2 | 11 | 4 | 3 | 7 | 1 | — |
| | 電 子 | 60 | 1 | 15 | 2 | 1 | — | 32 | 3 | 5 | 2 | — | — |
| | 機 械 | 69 | 3 | 17 | 10 | — | 1 | 70 | 2 | 4 | 24 | 1 | 1 |
| | 物 質 | 75 | 5 | 6 | 2 | — | — | 92 | 3 | — | — | — | — |
| | 情 報 | 33 | 3 | 14 | 27 | — | — | 49 | 2 | 13 | 18 | — | 2 |
| | 環 境 | 31 | 1 | 1 | — | — | 1 | 17 | 2 | — | 2 | — | — |
| | 合 計 | 288 | 16 | 61 | 52 | 2 | 4 | 271 | 16 | 25 | 53 | 2 | 3 |

| 年 度 | | 2015 (H27) | | | | | | 2016 (H28) | | | | | |
|-------|-----|------------|-------|---------|-----|------|------|------------|-------|---------|-----|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 155 | 16 | 25 | 35 | 5 | 1 | 142 | 15 | 27 | 34 | 2 | 2 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 2 | 2 | 4 | 3 | — | — | 4 | 2 | 3 | 5 | — | — |
| | 電 子 | 46 | 1 | 6 | 3 | — | 1 | 40 | 3 | 10 | 1 | 1 | 1 |
| | 機 械 | 90 | 5 | 4 | 15 | 5 | — | 67 | 6 | 3 | 14 | 2 | — |
| | 物 質 | 94 | 5 | 1 | — | — | — | 77 | 3 | 4 | — | — | — |
| | 情 報 | 52 | 2 | 12 | 18 | 2 | — | 41 | 1 | 10 | 25 | — | 1 |
| | 環 境 | 10 | 1 | 2 | 1 | — | — | 32 | 1 | — | — | — | — |
| | 合 計 | 296 | 16 | 29 | 40 | 7 | 1 | 261 | 16 | 30 | 45 | 3 | 2 |

| 年 度 | | 2017 (H29) | | | | | | 2018 (H30) | | | | | |
|-------|-----|------------|-------|---------|-----|------|------|------------|-------|---------|-----|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 151 | 16 | 44 | 23 | 3 | 5 | 129 | 11 | 12 | 9 | 5 | 1 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 9 | 2 | 7 | 3 | 2 | 3 | 7 | 1 | 4 | 3 | 3 | — |
| | 電 子 | 47 | 3 | 7 | 5 | 1 | — | 45 | 1 | 3 | — | 2 | — |
| | 機 械 | 93 | 6 | 5 | 5 | 1 | — | 81 | 2 | 1 | 4 | 2 | — |
| | 物 質 | 88 | 3 | 5 | 1 | — | 4 | 69 | 2 | — | 1 | — | — |
| | 情 報 | 42 | 1 | 37 | 17 | — | 1 | 24 | 2 | 4 | 1 | — | 1 |
| | 環 境 | 15 | 1 | 1 | 2 | — | — | 18 | 3 | 1 | 1 | — | — |
| | 合 計 | 294 | 16 | 62 | 33 | 4 | 8 | 244 | 11 | 13 | 10 | 7 | 1 |

| 年 度 | | 2019 (H31・R1) | | | | | |
|-------|-----|---------------|-------|---------|-----|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | 協定型 | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 132 | 10 | 11 | 30 | 5 | — |
| 派遣学生数 | 数 理 | 11 | — | — | — | — | — |
| | 電 子 | 44 | 3 | 2 | 5 | 1 | — |
| | 機 械 | 79 | 5 | 5 | 29 | 1 | — |
| | 物 質 | 64 | 2 | 3 | 3 | — | — |
| | 情 報 | 30 | — | 3 | — | — | — |
| | 環 境 | 11 | — | — | — | — | — |
| | 合 計 | 239 | 10 | 13 | 37 | 2 | — |

※2020、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。

| 年度 | | 2022 (R4) | | | | | 2023 (R5) | | | | |
|-------|-----|-----------|-------|---------|------|------|-----------|-------|---------|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | KEIS | 自己応募 | 大学 | グローバル | コンソーシアム | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 64 | 1 | 12 | — | 20 | 44 | 9 | 12 | — | 33 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 2 | — | 5 | — | 3 | 10 | — | 5 | — | 2 |
| | 知 能 | 18 | — | — | — | — | 17 | 1 | — | — | 1 |
| | 電 子 | 11 | 3 | 1 | — | — | 21 | 3 | 1 | — | 5 |
| | 機 械 | 15 | — | — | — | — | 13 | 4 | — | — | — |
| | 応 化 | 14 | — | 1 | — | 1 | 12 | 1 | 1 | — | 1 |
| | 環 境 | 4 | 1 | 5 | — | 1 | 6 | — | 5 | — | 4 |
| | 合 計 | 64 | 4 | 12 | — | 5 | 79 | 9 | 12 | — | 13 |

| 年 度 | | 2024 (R6) | | | | | 2025 (R7) | | | | |
|-------|-----|-----------|-------|---------|------|------|-----------|-------|---------|------|------|
| 受入先種別 | | 大学 | グローバル | コンソーシアム | KEIS | 自己応募 | 大学 | グローバル | コンソーシアム | KEIS | 自己応募 |
| 受入機関数 | | 57 | 10 | 1 | — | 23 | 57 | 8 | 2 | — | 39 |
| 派遣学生数 | 数 理 | 11 | — | 1 | — | 1 | 10 | — | 1 | — | — |
| | 知 能 | 15 | 2 | — | — | 4 | 11 | 2 | — | — | 4 |
| | 電 子 | 24 | 1 | — | — | 10 | 21 | 2 | — | — | 18 |
| | 機 械 | 47 | 3 | — | — | 4 | 32 | 1 | — | — | 4 |
| | 応 化 | 9 | 2 | — | — | — | 25 | 2 | — | — | 1 |
| | 環 境 | 4 | 2 | — | — | 7 | 4 | 1 | 1 | — | 8 |
| | 合 計 | 110 | 10 | 1 | — | 26 | 103 | 8 | 2 | — | 35 |

大学＝龍谷大学理工学部／先端理工学部の学外実習受入企業

海外キャリア＝海外キャリア実践実習（平成23年度より実施）

グローバル＝グローバル人材育成プログラム（平成25年度より実施）

コンソーシアム＝大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム

※2024年度より、「大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム」に名称が変更となる

滋賀経産協＝滋賀経済産業協会インターンシッププログラム

協定型＝龍谷大学協定型インターンシッププログラム

KEIS＝関西電子情報産業協同組合インターンシップ

自己応募＝学生が独自で応募したインターンシッププログラム

※2022年度より、「学外実習（キャリア実践実習）」の科目名が、「理工インターンシップ（学外実習）I・II」に変更となり、先端理工学部の6課程の3年生が対象となり、全課程で選択科目となる。

2. 過年度報告会での報告者

| 数 理 情 報 学 科 | | |
|-------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 92 | 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 | 株式会社村田製作所 |
| 93 | 株式会社京都第一科学 | サンコール株式会社 |
| 94 | ダイキン工業株式会社 | ①株式会社国際電気通信基礎技術研究所 ②株式会社環境総合研究所 |
| 95 | 株式会社日新システムズ | 松下電工株式会社 |
| 96 | 京都電子計算株式会社 | ①京都電子計算株式会社 ②京都中央信用金庫 |
| 97 | 株式会社 CRC 総合研究所 (現：株式会社 CRC ソリューションズ) | 川重テクノサービス株式会社 |
| 98 | 《台風接近のため中止》 | |
| | 株式会社秋村組 | ①マツ六株式会社 ②株式会社島津製作所 |
| 99 | 日立造船情報システム株式会社 | 横河電機株式会社 |
| 00 | 株式会社 SRA | NTT データ関西テクシス株式会社 (現：株式会社 NTT データ関西) |
| 01 | 三菱電機株式会社 | 株式会社クボタ |
| 02 | 日本電子計算株式会社 | アイティソリューションサービス株式会社 |
| 03 | 和光化学工業株式会社 | 近江八幡市教育委員会 |
| 04 | 株式会社日本システムディベロップメント | 株式会社ルネサスソリューションズ |
| 05 | | 情報技術開発株式会社関西支社 |
| 06 | | 綾羽株式会社 |
| 07 | 株式会社日本電算機標準 | 株式会社日本電算機標準 |
| 08 | | 株式会社滋賀富士通ソフトウェア |
| 09 | | リンナイ株式会社 |
| 10 | | |
| 11 | | ①株式会社データ変換研究所 ②NeuroSky, Inc. (海外キャリア実践実習) |
| 12 | | AuriQ Systems, Inc (海外キャリア実践実習) |
| 13 | | ①特定非営利活動法人アイ・コラボレーション ②トラベルオリエンテッド (グローバル人材育成プログラム) ③Metaps, Inc. (グローバル人材育成プログラム) |
| 14 | | |
| 15 | | 琵琶湖汽船株式会社 |

| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
|-------------------|---------------|--------------------------------------------------------------|
| 16 | | |
| 17 | | ①奈良県橿原市観光政策課 ②kintone Corporation Cybozu (グローバル人材育成プログラム) |
| 18 | | |
| 19 | | |
| 数 理 ・ 情 報 科 学 課 程 | | |
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 20 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 21 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 22 | 《報告会不開催》 | |
| 23 | | 株式会社日本電算機標準 |
| 24 | | 協和テクノロジーズ株式会社 |
| 25 | 協和テクノロジーズ株式会社 | 株式会社秋村組 |

| 電 子 情 報 学 科 | | |
|-------------|---------------------------------------|-----------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 92 | オムロンソフトウェア株式会社 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 |
| 93 | 株式会社インダ | ①NTT ソフトウェア株式会社 ②日本 NCR 株式会社 |
| 94 | 株式会社コンテック | 株式会社毎日放送 |
| 95 | 株式会社エステック | ①国際電信電話株式会社 (現: KDD 株式会社) ②株式会社堀場製作所 |
| 96 | 滋賀県立機械金属工業指導所 (現: 滋賀県東北部工業技術センター) | 富士通株式会社 |
| 97 | 多田電機株式会社 | 日本電気株式会社 |
| 98 | 《台風接近のため中止》 | |
| | 吉田電機工業株式会社 | NTT コミュニケーション科学基礎研究所 |
| 99 | 京都府中小企業総合センター | 大津コンピュータ株式会社 |
| 00 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 | 通信・放送機構けいはんな 情報通信研究開発支援センター |
| 01 | 島津エス・ディー株式会社 | 株式会社サムコインターナショナル研究所 |
| 02 | 三菱電機セミコンダクタ・アプリケーション・ エンジニアリング株式会社 | 京都電子計算株式会社 |
| 03 | 日本ソフト開発株式会社 | 京都 EIC 株式会社 |
| 04 | あさかわシステムズ株式会社 | 株式会社村田製作所 |

| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
|----|----------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 05 | | クオンタ・ディスプレイ・ジャパン株式会社 |
| 06 | 日光精器株式会社 | 不二電機工業株式会社 |
| 07 | | クロイ電機株式会社 |
| 08 | | ジェイ・エス・シー株式会社 |
| 09 | | |
| 10 | | 大阪府立産業技術総合研究所 |
| 11 | | TechDream, Inc. (海外キャリア実践実習) |
| 12 | | 株式会社堀場製作所 |
| 13 | | |
| 14 | | 株式会社堀場製作所 |
| 15 | | |
| 16 | | ①国立研究開発法人産業技術総合研究所 (材料・化学領域 ナノ材料研究部門) ②Kintone Corporation (グローバル人材育成プログラム) |
| 17 | | TOYO Corporation (グローバル人材育成プログラム) |
| 18 | | 大塚電子株式会社 |
| 19 | | ①国立研究開発法人産業技術総合研究所 (材料・化学領域 ナノ材料研究部門) ②ArdenwoodHistoric Farm (グローバル人材育成プログラム) |

電 子 情 報 通 信 課 程

| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
|----|----------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 20 | | 《感染症拡大のため中止》 |
| 21 | | 《感染症拡大のため中止》 |
| 22 | | 《報告会不開催》 |
| 23 | 株式会社カンセツ | ①大塚電子株式会社 ②Japan Town Task Force (グローバル人材育成プログラム) |
| 24 | | ①寺崎電気産業株式会社 ②Napa Valley Winery Exchange (グローバル人材育成プログラム) |
| 25 | | ①大塚電子株式会社 ②National Japanese American Historical Society (グローバル人材育成プログラム) |

| 機械システム工学科 | | |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学生(派遣先機関名) |
| 92 | 株式会社ダイフク | ①木村機械建設工業株式会社 ②川崎重工業株式会社 |
| 93 | 日立造船株式会社 | 日本輸送機株式会社 |
| 94 | 株式会社日本アーム滋賀工場 | ①新生化学工業株式会社 ②三谷伸銅株式会社 |
| 95 | 日本電設工業株式会社 | 江州計器工業株式会社 |
| 96 | 日本制御機器株式会社 | ①富士車輛株式会社 ②SMC 株式会社 |
| 97 | 株式会社椿本チェーン京都工場 | 住友金属テクノロジー株式会社 |
| 98 | 《台風接近のため中止》 | |
| 98 | 株式会社ジーテクト | ①株式会社東芝 ②パジェロ製造株式会社 |
| 99 | 川重テクノサービス株式会社 | 株式会社日立製作所 |
| 00 | 株式会社ジーテクト | 川村義肢株式会社 |
| 01 | 株式会社比叡ゆば本舗ゆば八 | 川崎重工業株式会社 |
| 02 | 日本ジョン・クレーン株式会社 | 安全索道株式会社 |
| 03 | 株式会社カンセツ | ヤマハ発動機株式会社 |
| 04 | 株式会社サンキコー | 芦森工業株式会社 |
| 05 | 山科精器株式会社 | 三菱自動車工場株式会社 パワートレイン製作所 |
| 06 | 株式会社ミレニアムシステムズ | 日本精工株式会社 |
| 07 | 株式会社近江物産 | 株式会社日本ネットワークサポート |
| 08 | 株式会社メタルテックス | 株式会社ケイ・ジー・ティー |
| 09 | 京都電子工業株式会社 | 茨木精機株式会社 |
| 10 | ツジコー株式会社 | アインズ株式会社 |
| 11 | 国産部品工業株式会社 | 山科精器株式会社 |
| 12 | プライミクス株式会社 | 株式会社エース |
| 13 | 富士電波工業株式会社 | 山科精器株式会社 |
| 14 | 株式会社アヤハエンジニアリング | ミック工業株式会社 |
| 15 | エース設計産業株式会社 | 滋賀県東北部工業技術センター |
| 16 | 株式会社長濱製作所 | ①富士電波工業株式会社 ②Nippon Trends Food Service, Inc. (グローバル人材育成プログラム) |
| 17 | 株式会社フジキン | 安全索道株式会社 |
| 18 | 株式会社エスユーエス | ①株式会社長濱製作所 ②AIR ACCORD (グローバル人材育成プログラム) |

| 機械工学・ロボティクス課程 | | |
|---------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 19 | 安全索道株式会社 | ①株式会社エクセディ ②King Tires & Wheels Auto Center (グローバル人材育成プログラム) ③San Mateo Lawn Mower (グローバル人材育成プログラム) |
| 20 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 21 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 22 | 《報告会不開催》 | |
| 23 | | ①山科精器株式会社 ②Air Accord (NorCal Aviation Service) (グローバル人材育成プログラム) |
| 24 | 株式会社カンセツ | 川重テクノロジー株式会社 |
| 25 | | 島津産機システムズ株式会社 |

| 物 質 化 学 科 | | |
|-----------|------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 92 | 株式会社石田衝器製作所 (現:株式会社イシダ) | ①メテック北村株式会社 ②三菱製紙株式会社 |
| 93 | 株式会社ゴージュ | ①滋賀県工業技術総合センター ②チッソポリプロ繊維株式会社 |
| 94 | 財団法人関西産業公害防止センター (現:財団法人関西環境管理技術センター) | 財団法人応用科学研究所 |
| 95 | 株式会社日吉 | ①大阪ガス株式会社 ②伊奈精機株式会社 |
| 96 | 滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場 | 東洋インキ製造株式会社 |
| 97 | 財団法人関西環境管理技術センター | ①松下電器産業株式会社 ②秩父小野田株式会社 (現:太平洋セメント株式会社) |
| 98 | 《台風接近のため中止》 | |
| | 大阪ダイヤモンド工業株式会社 | 京都府中小企業総合センター |
| 99 | 日本メンテナンスエンジニアリング株式会社 | 新日本理化株式会社 |
| 00 | 株式会社堀場製作所 | 東洋ゴム工業株式会社 |
| 01 | ダイトーケミックス株式会社大阪工場 | 東レ株式会社 |
| 02 | 大阪市立工業研究所 | 宮川化成工業株式会社 |
| 03 | 株式会社ミルボン | 群栄化学工業株式会社 |
| 04 | 滋賀県東北部工業技術センター | 日本アイ・ティ・エフ株式会社 |

| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
|----|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 05 | | 株式会社ミルボン |
| 06 | 株式会社ビッツ | 兵庫県立工業技術センター |
| 07 | 滋賀県工業技術総合センター | 株式会社日興テキスタイル |
| 08 | 岩谷化学工業株式会社 | 株式会社東レリサーチセンター |
| 09 | 美富久酒造株式会社 | 太平洋セメント株式会社 |
| 10 | 滋賀県工業技術総合センター | 日本アイ・ティ・エフ株式会社 |
| 11 | 独立行政法人産業技術総合研究所関西センター | 株式会社東レリサーチセンター |
| 12 | 株式会社イーシーフロンティア | ①United Television Broadcasting Systems (海外キャリア実践実習) ②Innovation CoreSEI (海外キャリア実践実習) ③Viewpoint International (海外キャリア実践実習) |
| 13 | 辻丸国際特許事務所 | NIPPON SHOSEKI HANBAI (グローバル人材育成プログラム) |
| 14 | 富士色素株式会社 | 独立行政法人産業技術総合研究所 |
| 15 | 株式会社村田製作所 | 公益財団法人京都高度技術研究所 |
| 16 | 株式会社日吉 | ①滋賀県立瀬田工業高等学校 (化学工業) ②Nihonmachi Little Friends (グローバル人材育成プログラム) |
| 17 | 株式会社京写 | ①滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場 ②Nippon Trends Food Service, Inc. (グローバル人材育成プログラム) ③Fujiya Shiseido Cosmetics (グローバル人材育成プログラム) |
| 18 | 株式会社大木工藝 | ①株式会社昭和インク工業所 ②UNITED FOODS INTERNATIONAL (USA) INC (グローバル人材育成プログラム) |
| 19 | 綾羽株式会社 | ①株式会社大木工藝 ②SenjuComtek Corporation (グローバル人材育成プログラム) |

応 用 化 学 課 程

| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
|----|--------------|--------------------|
| 20 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 21 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 22 | 《報告会不開催》 | |
| 23 | | 関西環境管理技術センター |
| 24 | 大同塗料株式会社 | 株式会社東レリサーチセンター |
| 25 | | 一般財団法人関西環境管理技術センター |

| 情報メディア学科 | | |
|------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 05 | ソニー PCL 株式会社大阪事業所 関西コンテンツプロデュースカンパニー | 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所 |
| 06 | | 株式会社ミレニアムシステムズ |
| 07 | | 株式会社ゴビ |
| 08 | びわ湖放送株式会社 | NPO 京都コミュニティ放送 |
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 09 | | イオンモール株式会社 |
| 10 | | |
| 11 | | ①びわ湖放送株式会社 ②Kamiya Consulting, Inc. (海外キャリア実践実習) |
| 12 | | 日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 |
| 13 | | ①株式会社国際電気通信基礎技術研究所 ②Allied-Telesis, Inc. (グローバル人材育成プログラム) |
| 14 | | |
| 15 | | びわ湖放送株式会社 |
| 16 | | |
| 17 | | 日本ソフト開発株式会社 |
| 18 | | ①New World Tours & Travel (グローバル人材育成プログラム) |
| 19 | | |
| 知能情報メディア課程 | | |
| 年度 | 受入機関 | 学 生 (派遣先機関名) |
| 20 | | 《感染症拡大のため中止》 |
| 21 | | 《感染症拡大のため中止》 |
| 22 | | 《報告会不開催》 |
| 23 | ジェイズ・コミュニケーション株式会社 | 日本ソフト開発株式会社 |
| 24 | | 株式会社クラックスシステム |
| 25 | 日本ソフト開発株式会社 | ①ジェイズ・コミュニケーション株式会社 ②NorCal Aviation Service (グローバル人材育成プログラム) |

| 環境ソリューション工学科 | | |
|-----------------|------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 年度 | 受入機関 | 学 生（派遣先機関名） |
| 05 | 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター | 株式会社日吉 |
| 06 | | 株式会社キャリアテクノ |
| 07 | | 京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター） |
| 08 | | 環境技術学会 |
| 09 | | |
| 10 | | 株式会社地域計画建築研究所 |
| 11 | | |
| 12 | | 京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター） |
| 13 | | |
| 14 | | 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター |
| 15 | | |
| 16 | | ①特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム ②White Blossom Care Center（グローバル人材育成プログラム） |
| 17 | | |
| 18 | | ①内外エンジニアリング株式会社 ②Nippon Trends Food Service, Inc（グローバル人材育成プログラム） |
| 19 | | ①日本メンテナンスエンジニアリング株式会社 |
| 環 境 生 態 工 学 課 程 | | |
| 年度 | 受入機関 | 学 生（派遣先機関名） |
| 20 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 21 | 《感染症拡大のため中止》 | |
| 22 | 《報告会不開催》 | |
| 23 | | 株式会社西日本技術コンサルタント |
| 24 | | ①株式会社西日本技術コンサルタント ②Ardenwood Historic Farm（グローバル人材育成プログラム） |
| 25 | | メタウォーター株式会社（自己応募型インターンシップ） |

龍谷大学先端理工学部
理工インターンシップ I・II /
グローバル人材育成プログラム
総括集

2025（令和7）年度版

令和8年2月20日 発行

発行 2025年度 龍谷大学先端理工学部
理工インターンシップ運営委員会

委員長 譽田 登
山岸 義和 / 藤田 和弘 / 宮戸 祐治
青井 芳文 / 浅野 昌弘

2025年度 龍谷大学先端理工学部 R-Gap 運営委員会
グローバル人材育成プログラム主担当 富崎 欣也

印刷所 協和印刷株式会社

